総合科学教育部

大学院の目的（大学院学則　第１条）
徳島大学大学院は，徳島大学の目的使命に則り，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究め，もって文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。

学部（学科）の教育研究上の目的（教育部部規則等から抜粋）
教育部は，持続可能な地域社会を目指して，文化環境・社会環境・自然環境を総合・融合・俯瞰する環境調和型の地域社会づくりに携わる人材，並びに，地域再生・地域創生の担い手となる教育研究者及び専門的実務者を養成することを目的とする。

総合科学教育部　博士前期課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。 １．学識，研究能力及び高度専門職業能力 人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，地域科学又は臨床心理学の関連領域において明確な問題意識を持ち研究を進める能力に加え，持続可能な地域社会の構築や心のケアに係る専門的な職業に従事できる高度な能力を有している。 ２．倫理観及び責任感 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら，持続可能な社会の構築や公共の福祉に貢献できる高い倫理観・責任感を身につけ，知性，理性及び感性が調和し，自立して行動できる。 ３．国際的発信力及び社会貢献 世界水準を目指す研究成果の発信により，地域科学又は臨床心理学の課題探究と地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に貢献することができる。	総合科学教育部博士前期課程では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，地域科学又は臨床心理学の課題探究と地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に貢献する人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 以下のような授業科目を開設するとともに，修士論文作成又は特定の課題についての研究に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。 (1) 地域・情報・環境・行動諸科学の学習を通じて地域科学又は臨床心理学に関わる総合的視点，幅広い領域の専門知識を修得させる授業科目（教育部共通科目）。 (2) 地域科学又は臨床心理学に関連した基礎・専門知識と倫理観を身につけさせる授業科目（分野コア科目又は臨床心理学専攻必修科目）。 (3) 地域科学又は臨床心理学に関連した高度の専門知識を修得させる授業科目（分野専門科目又は臨床心理学専攻選択科目）。 (4) 総合的視点及び地域科学又は臨床心理学に関連した基礎・専門知識を基に，各領域に応じた研究手法を用いて地域社会の諸問題の理解・解決能力を身につけさせる授業科目（地域科学特別演習Ｉ又は臨床心理学特別演習）。 ２．　教育方法 体系的な教育課程及び研究指導を通じて，地域科学又は臨床心理学の関連領域における高い研究遂行能力と研究遂行に求められる高い倫理観を育む機会を提供する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。	総合科学教育部では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，さらに高度な専門知識の獲得に励み，地域科学又は臨床心理学の課題探求と，地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に主体的かつ協調的な姿勢で貢献する人材の養成を目指しています。 【博士前期課程】 総合科学教育部博士前期課程では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，地域科学又は臨床心理学の課題探究と地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に貢献する人材の育成を目指し，次のような人物を求めています。 ●求める人物像 ・総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，地域科学又は臨床心理学の領域において明確な問題意識を持ち研究を進める能力に加え，持続可能な地域社会の構築または心のケアに関わる専門的な職業に従事できる高度な能力を修得しようとする人 ・多様な情報を的確に把握し，自らの自由な発想でその真偽と活用を判断し，高い倫理観・責任感を身につけ，自立して行動しようとする人 ・世界水準を目指す研究成果の発信により，地域科学又は臨床心理学の課題探求と地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に貢献しようとする人

（総合科学教育部：博士前期課程　地域科学専攻）　【修士（学術）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。 １．学識，研究能力及び高度専門職業能力 人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，地域科学の関連領域において明確な問題意識を持ち研究を進める能力に加え，持続可能な地域社会の構築に係る専門的な職業に従事できる高度な能力を有している。 ２．倫理観及び責任感 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら，持続可能な社会の構築に貢献できる高い倫理観・責任感を身につけ，知性，理性及び感性が調和し，自立して行動できる。 ３．　国際的発信力及び社会貢献 世界水準を目指す研究成果の発信により，地域科学の課題探究と地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に貢献することができる。	博士前期課程地域科学専攻では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，地域科学の課題探究と地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に貢献する人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 以下のような授業科目を開設するとともに，修士論文作成又は特定の課題についての研究に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。 (1) 地域・情報・環境・行動諸科学の学習を通じて地域科学に関わる総合的視点，幅広い領域の専門知識を修得させる授業科目（教育部共通科目）。 (2) 地域科学に関連した基礎・専門知識と倫理観を身につけさせる授業科目（分野コア科目）。 (3) 地域科学に関連した高度の専門知識を修得させる授業科目（分野専門科目）。 (4) 総合的視点及び地域科学に関連した基礎・専門知識を基に，各領域に応じた研究手法を用いて地域社会の諸問題の理解・解決能力を身につけさせる授業科目（地域科学特別演習Ⅰ）。 ２．教育方法 体系的な教育課程及び研究指導を通じて，地域科学の関連領域における高い研究遂行能力と研究遂行に求められる高い倫理観を育む機会を提供する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。	博士前期課程地域科学専攻では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，地域科学の課題探究と地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に貢献する人材の育成を目指し，次のような人物を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 自らの専門領域を中心とした幅広い知識や技能を身につけた上で，総合科学の視点と，地域科学の課題探究に強い関心を持ち，将来，持続可能な地域社会の構築に関わる専門的な職業に従事することを志す人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 専門領域の知識・技能を活用して多様な情報を的確に把握し，適切な手法を用いて課題を解決する能力，及び自らの考えを論理的にわかりやすく表現する能力を有する人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 高い倫理観と責任感を有し，多様な領域の人々と協働しながら，地域科学の課題探究と地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に主体的に取り組む意欲を持つ人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試（Ⅰ期） 入学者の選抜は，専攻により筆記試験，面接及び書類審査の結果等によって総合的に判断して行います。 筆記試験では，主として各分野の専門領域に係る語学力を含めた知識・技能，思考力・判断力・表現力を評価します。 面接は口頭発表・口頭試験を含み，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協調性を総合して評価します。 一般入試（Ⅱ期） 入学者の選抜は，面接及び書類審査の結果等によって総合的に判断して行います。 面接は口頭発表・口頭試験を含み，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協調性を総合して評価します。 一般入試（Ⅲ期） 入学者の選抜は，面接及び書類審査の結果等によって総合的に判断して行います。 面接は口頭発表・口頭試験を含み，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協調性を総合して評価します。 推薦入学特別入試 入学者選抜は，面接（口頭試問を含む）及び書類審査の結果を総合して判定します。 面接は口頭発表・口頭試験を含み，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協調性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．学識，研究能力及び高度専門職業能力
人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，地域科学の関連領域において明確な問題意識を持ち研究を進める能力に加え，持続可能な地域社会の構築に係る専門的な職業に従事できる高度な能力を有している。</td><td>【学修内容】
地域・情報・環境・行動諸科学の学習を通じて地域科学に関わる総合的視点，幅広い分野の専門知識を修得させ，総合的視点及び地域科学の分野に関する基礎・専門知識を基に，各分野に応じた研究手法を用いて地域社会の諸問題の理解・解決能力を身につけさせる学修を実施する。

【学修方法】
総合科学の理念と体系・方法を学ぶ教育部共通科目と，地域科学に関する講義及び演習・実習・実験等による分野専門科目の受講ならびに地域科学特別演習Ｉでの修論作成指導。

【学修成果の評価方法】
客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。</td><td rowspan="3">（知識・技能，関心・意欲）
自らの専門領域を中心とした幅広い知識や技能を身につけた上で，総合科学の視点と，地域科学の課題探究に強い関心を持ち，将来，持続可能な地域社会の構築に関わる専門的な職業に従事することを志す人

（思考力・判断力・表現力等の能力）
専門領域の知識・技能を活用して多様な情報を的確に把握し，適切な手法を用いて課題を解決する能力，及び自らの考えを論理的にわかりやすく表現する能力を有する人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
高い倫理観と責任感を有し，多様な領域の人々と協働しながら，地域科学の課題探究と地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に主体的に取り組む意欲を持つ人</td></tr>
<tr><td>２．倫理観及び責任感
コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら，持続可能な社会の構築に貢献できる高い倫理観・責任感を身につけ，知性，理性及び感性が調和し，自立して行動できる。</td><td>【学修内容】
地域科学の分野における高い研究遂行能力と研究遂行に求められる基礎・専門知識と地域の諸問題に主体的に取り組み，持続可能な社会の構築に寄与できるように他の人と協調的に関わる姿勢と倫理観を身につけさせる学修を実施する。

【学修方法】
教育部共通科目で必修科目である地域社会と積極的に関わるプロジェクト型実習（プロジェクト研究Ｉ），地域科学に関連した基礎・専門知識と倫理観を身につけさせる分野コア科目の受講と，分野専門科目での地域科学に関する講義及び演習・実習・実験等ならびに地域科学特別演習Ｉでの修論作成指導。

【学修成果の評価方法】
客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。</td></tr>
<tr><td>３．　国際的発信力及び社会貢献
世界水準を目指す研究成果の発信により，地域科学の課題探究と地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に貢献することができる。</td><td>【学修内容】
地域科学の分野に関する高度の専門知識を修得さるとともに，総合的視点及び地域科学の分野に関する基礎・専門知識を基に，各分野に応じた研究手法を用いて地域社会の諸問題に理解・解決能力を身につけさせ，かつ世界水準を目指す高度な専門性と研究成果の発信力を養う学修を実施する。

【学修方法】
地域社会と関わるプロジェクト型実習（プロジェクト研究Ⅱ）などの教育部共通科目や，地域科学に関連した高度の専門知識を修得させる分野専門科目の受講と，各領域に応じた研究手法を用いて地域社会の諸問題の理解・解決能力を身につけさせる地域科学特別演習Ｉでの修論作成指導。

【学修成果の評価方法】
客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。</td></tr>
</table>

（総合科学教育部：博士前期課程　臨床心理学専攻）　【修士（臨床心理学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。 １．学識，研究能力及び高度専門職業能力 人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，臨床心理学の関連領域において明確な問題意識を持ち研究を進める能力に加え，心のケアに係る専門的な職業に従事できる高度な能力を有している。 ２．倫理観及び責任感 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら，心の問題に対応できる教育研究者あるいは実務家として公共の福祉に貢献できる高い倫理観・責任感を身につけ，知性，理性及び感性が調和し，自立して行動できる。 ３．　国際的発信力及び社会貢献 世界水準を目指す研究成果の発信により，臨床心理学の課題探究と地域社会の問題解決に貢献することができる。	博士前期課程臨床心理学専攻では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，臨床心理学の課題探究と地域社会の問題解決にあたる人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 以下のような授業科目を開設するとともに，修士論文作成又は特定の課題についての研究に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。 (1) 地域・情報・環境・行動諸科学の学習を通じて臨床心理学に関わる総合的視点，幅広い領域の専門知識を修得させる授業科目（教育部共通科目）。 (2) 臨床心理学に関連した基礎・専門知識，技能，実践能力，倫理観を身につけさせる授業科目（必修科目）。 (3) 臨床心理学に関連した高度の専門知識を修得させる授業科目（選択科目）。 (4) 総合的視点及び臨床心理学に関連した基礎・専門知識を基に，地域社会の諸問題の理解・解決能力を身につけさせる授業科目（臨床心理学特別演習）。 ２．教育方法 体系的な教育課程及び研究指導を通じて，臨床心理学の関連領域における高い研究遂行能力と研究遂行に求められる高い倫理観を育む機会を提供する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。	博士前期課程臨床心理学専攻では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，臨床心理学の課題探究と地域社会の問題解決にあたる人材の育成を目指し，次のような人物を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 自らの専門領域を中心とした幅広い知識や技能を身につけた上で，総合科学の視点と，臨床心理学の課題探究に強い関心を持ち，将来，心のケアに関わる専門的な職業（臨床心理士）に従事することを志す人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 専門領域の知識・技能を活用して多様な情報を的確に把握し，適切な手法を用いて課題を解決する能力，及び自らの考えを論理的にわかりやすく表現する能力を有する人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 高い倫理観と責任感を有し，多様な領域の人々と協働しながら，臨床心理学の課題探究と地域社会の問題解決に主体的に取り組む意欲を持つ人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試（Ⅰ期） 入学者の選抜は，専攻により筆記試験，面接及び書類審査の結果等によって総合的に判断して行います。 筆記試験では，主として各分野の専門領域に係る語学力を含めた知識・技能，思考力・判断力・表現力を評価します。 面接は口頭発表・口頭試験を含み，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協調性を総合して評価します。 一般入試（Ⅱ期） 入学者の選抜は，筆記試験・面接のほか書類審査の結果等によって総合的に判断して行います。 筆記試験では，主として各分野の専門領域に係る語学力を含めた知識・技能，思考力・判断力・表現力を評価します。 面接は口頭発表・口頭試験を含み，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協調性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．学識，研究能力及び高度専門職業能力
人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，臨床心理学の関連領域において明確な問題意識を持ち研究を進める能力に加え，心のケアに係る専門的な職業に従事できる高度な能力を有している。</td><td>【学修内容】
地域・情報・環境・行動諸科学の学習を通じて地域科学に関わる総合的視点，幅広い分野の専門知識を修得させ，総合的視点及び臨床心理学の分野に関する基礎・専門知識を基に，各分野に応じた研究手法を用いて心のケアに係る諸問題の理解・解決能力を身につけさせる学修を実施する。

【学修方法】
総合科学の理念と体系・方法を学ぶ教育部共通科目と，講義や演習・実験・実習による臨床心理学に関連した基礎・専門知識，技能，実践能力，倫理観を身につけさせる授業科目（必修科目）と関連する選択科目の受講と，臨床心理学特別演習Ｉでの修論作成指導。

【学修成果の評価方法】
客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。</td><td rowspan="3">（知識・技能，関心・意欲）
自らの専門領域を中心とした幅広い知識や技能を身につけた上で，総合科学の視点と，臨床心理学の課題探究に強い関心を持ち，将来，心のケアに関わる専門的な職業（臨床心理士）に従事することを志す人

（思考力・判断力・表現力等の能力）
専門領域の知識・技能を活用して多様な情報を的確に把握し，適切な手法を用いて課題を解決する能力，及び自らの考えを論理的にわかりやすく表現する能力を有する人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
高い倫理観と責任感を有し，多様な領域の人々と協働しながら，臨床心理学の課題探究と地域社会の問題解決に主体的に取り組む意欲を持つ人</td></tr>
<tr><td>２．倫理観及び責任感
コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら，心の問題に対応できる教育研究者あるいは実務家として公共の福祉に貢献できる高い倫理観・責任感を身につけ，知性，理性及び感性が調和し，自立して行動できる。</td><td>【学修内容】
臨床心理学の分野における高い研究遂行能力と研究遂行に求められる基礎・専門知識と主体的・持続的に，そして他の人と協調的に関わる姿勢と倫理観を身につけさせる学修を実施する。

【学修方法】
講義及び演習・実習・実験等による臨床心理学に関連した基礎・専門知識，技能，実践能力，倫理観を身につけさせる必修科目の受講，ならびに臨床心理学特別演習Ｉでの修論作成指導。

【学修成果の評価方法】
客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。</td></tr>
<tr><td>３．　国際的発信力及び社会貢献
世界水準を目指す研究成果の発信により，臨床心理学の課題探究と地域社会の問題解決に貢献することができる。</td><td>【学修内容】
臨床心理学の分野に関する高度の専門知識を修得さるとともに，総合的視点及び臨床心理学の分野に関する基礎・専門知識を基に，分野に応じた研究手法を用いて研究を進め，世界水準を目指す高度な専門性と研究成果の発信力を養う学修を実施する。

【学修方法】
総合的視点及び臨床心理学に関連した基礎・専門知識を基に，地域社会の諸問題の理解・解決能力を身につけさせる少人数での臨床心理学特別演習での修論作成指導。

【学修成果の評価方法】
客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。</td></tr>
</table>

総合科学教育部　博士後期課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。 １．学識，研究能力及び高度専門職業能力 人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連する高度な専門知識を身につけ，自立して研究を遂行し後進を指導できる又は持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献する職業に従事できる卓越した能力を有している。 ２．倫理観，責任感，創造力，応用力及び洞察力 持続可能な社会の構築や公共の福祉に貢献できる高い倫理観と強固な責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力及び深い洞察力をもって，自立して行動できる。 ３．国際的発信力及び社会貢献 高度な国際的視野を有し，世界をリードする研究成果を発信し，地域科学に関連する研究分野を高い水準で牽引することで，地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献することができる。	総合科学教育部博士後期課程では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連した高度な専門知識を身につけ，地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献できる人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．　教育課程の編成 以下のような授業科目を開設するとともに，博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。 (1) 地域づくりに係る戦略的研究を推進するために必要な総合的視野，高度かつ幅広い専門知識，高度な倫理観を修得させるための授業科目（教育部共通科目）。 (2) 総合的視点及び地域科学に関連した専門知識を基に，それぞれの領域に応じた研究手法を用いて，地域社会における諸問題を理解・解決する能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけさせる授業科目（地域科学特別演習Ⅱ）。 ２．　教育方法 体系的な教育課程と研究指導を通じて，地域科学の関連領域において自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。 ３．　学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。	総合科学教育部では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え，さらに高度な専門知識の獲得に励み，地域科学又は臨床心理学の課題探求と，地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に主体的かつ協調的な姿勢で貢献する人材の養成を目指しています。 【博士後期課程】 総合科学教育部博士後期課程では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連した高度な専門知識を身につけ，地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献できる人材の育成を目指し，次のような人物を求めています。 ●求める人物像 ・総合科学の視点と地域科学に関連する高度な専門知識・技能を身につけ，自立して研究を遂行し後進を指導する能力，又は地域科学に基づく持続可能な地域社会の構築に関わる職業に従事できる卓越した能力を修得しようとする人 ・高い倫理観と強固な責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力，深い洞察力をもって，地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人 ・高度な国際的視野を有し，世界をリードする研究成果を発信し，地域科学に関連する研究分野を高い水準で牽引しようとする人，又は国内外の地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から携わろうとする人

（総合科学教育部：博士後期課程　地域科学専攻）　【博士（学術）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。 １．学識，研究能力及び高度専門職業能力 人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連する高度な専門知識を身につけ，自立して研究を遂行し後進を指導できる又は持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献する職業に従事できる卓越した能力を有している。 ２．倫理観及び責任感 持続可能な社会の構築や公共の福祉に貢献できる高い倫理観と強固な責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力及び深い洞察力をもって，自立して行動できる。 ３．　国際的発信力及び社会貢献 高度な国際的視野を有し，世界をリードする研究成果を発信し，地域科学に関連する研究分野を高い水準で牽引することで，地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献することができる。	博士後期課程地域科学専攻では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連した高度な専門知識を身につけ，地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献できる人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 以下のような授業科目を開設するとともに，博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。 (1) 地域づくりに係る戦略的研究を推進するために必要な総合的視野，高度かつ幅広い専門知識，高度な倫理観を修得させるための授業科目（教育部共通科目）。 (2) 総合的視点及び地域科学に関連した専門知識を基に，それぞれの領域に応じた研究手法を用いて，地域社会における諸問題を理解・解決する能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけさせる授業科目（地域科学特別演習Ⅱ）。 ２．教育方法 体系的な教育課程と研究指導を通じて，地域科学の関連領域において自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。	博士後期課程地域科学専攻では，人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連した高度な専門知識を身につけ，地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献できる人材の育成を目指し，次のような人物を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 自らの専門領域における高度な知識・技能を身につけた上で，総合科学の視点と，地域科学に関連したより応用的・発展的な課題探究に強い関心を持ち，将来，自立して研究を遂行し後進を指導できる又は持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献する職業に従事することを志す人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 高度な専門知識・技能を活用して多様な情報を的確に把握し，適切な方法を用いて課題を解決する能力，及び自らの考えを論理的にわかりやすく表現する能力を有する人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 高い倫理観と責任感を有し，多様な領域の人々と協働しながら，地域科学の高度な課題探究と国内外の地域社会の問題解決に，より指導的な立場から主体的に取り組む意欲を持つ人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 入学者の選抜は，筆記試験（外国語または小論文），面接及び書類審査の結果等によって総合的に判断して行います。 筆記試験では，主として各分野の専門領域に係る語学力を含めた知識・技能，思考力・判断力・表現力を評価します。 面接は口頭発表・口頭試験を含み，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協調性を総合して評価します。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．学識，研究能力及び高度専門職業能力 人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連する高度な専門知識を身につけ，自立して研究を遂行し後進を指導できる又は持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献する職業に従事できる卓越した能力を有している。	【学修内容】 地域づくりに係る戦略的研究を推進するために必要な総合的視野，高度かつ幅広い専門知識，高度な倫理観を修得させ，総合的視点及び地域科学の分野に関する基礎・専門知識を基に，各分野に応じた研究手法を用いて地域社会の諸問題の理解・解決能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけさせる学修を実施する。 【学修方法】 地域づくりに係る戦略的研究を推進するために必要な総合的視野，高度かつ幅広い専門知識，高度な倫理観を修得させるための授業科目（教育部共通科目） の受講と，地域科学特別演習Ⅱでの研究指導ならびに論文作成指導。 【学修成果の評価方法】 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。	（知識・技能，関心・意欲） 自らの専門領域における高度な知識・技能を身につけた上で，総合科学の視点と，地域科学に関連したより応用的・発展的な課題探究に強い関心を持ち，将来，自立して研究を遂行し後進を指導できる又は持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献する職業に従事することを志す人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 高度な専門知識・技能を活用して多様な情報を的確に把握し，適切な方法を用いて課題を解決する能力，及び自らの考えを論理的にわかりやすく表現する能力を有する人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 高い倫理観と責任感を有し，多様な領域の人々と協働しながら，地域科学の高度な課題探究と国内外の地域社会の問題解決に，より指導的な立場から主体的に取り組む意欲を持つ人
２．倫理観及び責任感 持続可能な社会の構築や公共の福祉に貢献できる高い倫理観と強固な責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力及び深い洞察力をもって，自立して行動できる。	【学修内容】 持続可能な地域づくりに係る戦略的研究を推進するために必要な総合的視野，高度かつ幅広い専門知識を身につけ，豊かな発想力・想像力を持って地域科学の諸課題に指導的立場から主体的かつ協調的に取り組む姿勢と高度な倫理観を修得させる学修を実施する。 【学修方法】 総合科学的視点での地域科学についての体系的な講義ならびに地域社会と積極的に関わるプロジェクト型実習（プロジェクト研究Ⅱ）からなる教育部共通科目の受講と，少人数での地域科学特別演習Ⅱでの研究指導ならびに論文作成指導。 【学修成果の評価方法】 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。	
３． 国際的発信力及び社会貢献 高度な国際的視野を有し，世界をリードする研究成果を発信し，地域科学に関連する研究分野を高い水準で牽引することで，地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決，持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献することができる。	【学修内容】 地域科学の分野に関する高度の専門知識を修得さるとともに，総合的視点及び地域科学の分野に関する基礎・専門知識を基に，各分野に応じた研究手法を用いて地域社会の諸問題の理解・解決能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけさせ，かつ世界的な視野を有する高度な専門性と研究成果の発信力を養う学修を実施する。 【学修方法】 総合的視点及び地域科学に関連した専門知識を基に，それぞれの領域に応じた研究手法を用いた授業科目（地域科学特別演習Ⅱ）での研究指導ならびに論文作成指導。 【学修成果の評価方法】 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。	

医学研究科

大学院の目的（大学院学則　第１条）	学部（学科）の教育研究上の目的（研究科規則等から抜粋）
徳島大学大学院は，徳島大学の目的使命に則り，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究め，もって文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。	本研究科は，持続可能な地域社会を目指して，文化環境・社会環境・自然環境を総合・融合・俯瞰する環境調和型の地域社会づくりに携わる人材，並びに，地域再生・地域創生の担い手となる教育研究者及び専門的実務者を養成することを目的とする。

医学研究科　修士課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。 １．知識 医学以外の多様な専門性を持つ学生の個性を活かすとともに，体系的，統合的に基礎医学から先端医学まで幅広い知識を身につけている。 ２．技能 生命科学の研究手技，技能を理解し，先端的知見を得るための技術を修得して国際展開するための能力を有する。 ３．倫理性・社会性 医学分野の高度専門職業人及び研究者として，生命倫理を尊重し，医学教育研究に熱意を持ち，進歩する高度先進医療に国際的な視野をもって対応することができる。 ４．実践力・思考力 医学に関する幅広い知識，技能に裏付けられた実践力を身につけ，医学・医療の学際的融合領域を推進するための先進的思考力を備えている。	医学研究科修士課程では，高度化する医療技術の進歩に対応できる専門的人材を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．原則として医学研究科博士課程に進学するものと想定し，修士２年・博士４年の一貫した教育構想を基本としたカリキュラム。 ２．　医学科以外の出身者を入学対象者としていることから，多様な専門的背景を持つ学生の個性に配慮したカリキュラム。 ３．基礎医学から先端医学研究分野へ至るまで，知識・技能を体系的，総合的に理解，修得できるカリキュラム。 ４．医学に関わる高度専門職業人及び研究者を育成するため，その精神の根本となる生命倫理教育を肝要とし，臨床的思考や国際的視野を育む内容を具備したカリキュラム。	医学研究科では，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，卓越した学術および文化を継承するとともに学びの志と進取の気風をもち，未来へ飛躍する人材を養成するため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，協働性をもった次のような人を求めています。 【修士課程】 医学研究科修士課程では，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，優れた学術および文化を継承するとともに学びの志をもち，未来へ飛躍する人材を養成するため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性や協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 ・最新の医学・生命医科学・医療に関する知識と技術を学ぶ熱意と能力を有する人 ・医学・生命医科学・医療の研究を遂行するための生命倫理の重要性を理解できる人

（医学研究科：医科学専攻　修士課程）　　【修士（医科学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた学生に修士の学位を授与します。 １．知識 医学以外の多様な専門性を持つ学生の個性を活かすとともに，体系的，統合的に基礎医学から先端医学まで幅広い知識を身につけている。 ２．技能 生命科学の研究手技，技能を理解し，先端的知見を得るための技術を修得して国際展開するための能力を有する。 ３．倫理性・社会性 医学分野の高度専門職業人及び研究者として，生命倫理を尊重し，医学教育研究に熱意を持ち，進歩する高度先進医療に国際的な視野をもって対応することができる。 ４．実践力・思考力 医学に関する幅広い知識，技能に裏付けられた実践力を身につけ，医学・医療の学際的融合領域を推進するための先進的思考力を備えている。	医科学専攻では，高度化する医療技術の進歩に対応できる専門的人材を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．原則として医学研究科博士課程に進学するものと想定し，修士２年・博士４年の一貫した教育構想を基本としたカリキュラム。 ２．医学科以外の出身者を入学対象者としていることから，多様な専門的背景を持つ学生の個性に配慮したカリキュラム。 ３．基礎医学から先端医学研究分野へ至るまで，知識・技能を体系的，総合的に理解，修得できるカリキュラム。 ４．医学に関わる高度専門職業人及び研究者を育成するため，その精神の根本となる生命倫理教育を肝要とし，臨床的思考や国際的視野を育む内容を具備したカリキュラム。	医科学専攻では，医学科以外の出身者に医学に関する幅広い知識とともに先端的医科学の教育を行い，多様な背景をもつ医学関連分野の指導的職業人や医学関連分野で博士課程に進学する者を育成することを目的としています。このような目的に基づき，つぎのような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 生命科学の専門知識と論理的思考力を持ち、医学上の未解決の問題を解決すべく意欲と情熱を持って取り組むことができる人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 生命倫理を尊重し、論理的思考、的確な判断力と正しい実験方法・調査方法によって医学上の課題に解答を与えることができる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 円滑なコミュニケーションを通して、相手の立場や多様性を尊重しながら研究を推進していく姿勢を持っている人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 個別学力試験では，英語の読解力・表現力及び専門分野に関する知識・技能を評価します。面接では，出願書類を参考に，その内容に関　連する事項について質疑応答を行い，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人入試 個別学力試験では，英語の読解力・表現力及び専門分野に関する知識・技能を評価します。面接では，出願書類を参考に，その内容に関　連する事項について質疑応答を行い，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。その他に，社会人大学院生としての志望動機，就学環境，大学院修了後のビジョンについても評価します。 外国人留学生入試 個別学力試験では，英語の読解力・表現力及び専門分野に関する知識・技能を評価します。面接では，試問試験を含み，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。また，日本語能力についても評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．知識
医学以外の多様な専門性を持つ学生の個性を活かすとともに，体系的，統合的に基礎医学から先端医学まで幅広い知識を身につけている。</td><td>【学修内容】
必修科目である「プロテオミクス概論」，「ヒューマンサイエンス（病理病態学）」，「臨床医学概論」及び医療系研究科が共通で開講している「臨床心理学」，「医療系分野における知的財産学概論」，「心身健康と環境ストレス」等を選択科目として受講させ，幅広い知識を学修させる。
【学修方法】
講義については，対面又は e-learning の形式で行う。
【学修成果の評価方法】
出席及びレポート提出により，理解度を客観的に評価する。</td><td rowspan="4">（知識・技能，関心・意欲）
生命科学の専門知識と論理的思考力を持ち、医学上の未解決の問題を解決すべく意欲と情熱を持って取り組むことができる人

（思考力・判断力・表現力等の能力）
生命倫理を尊重し、論理的思考、的確な判断力と正しい実験方法・調査方法によって医学上の課題に解答を与えることができる人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
円滑なコミュニケーションを通して、相手の立場や多様性を尊重しながら研究を推進していく姿勢を持っている人</td></tr>
<tr><td>２．技能
生命科学の研究手技，技能を理解し，先端的知見を得るための技術を修得して国際展開するための能力を有する。</td><td>【学修内容】
医療系研究科が共通で開講している「社会医学・疫学・医学統計概論」，「生命科学の研究手法」，「英語論文作成法」等を選択科目として受講させ，生命科学の研究手技等を修得させる。
【学修方法】
講義については，対面又は e-learning の形式で行う。
【学修成果の評価方法】
出席及びレポート提出により，理解度や技能の修得度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>３．倫理性・社会性
医学分野の高度専門職業人及び研究者として，生命倫理を尊重し，医学教育研究に熱意を持ち，進歩する高度先進医療に国際的な視野をもって対応することができる。</td><td>【学修内容】
必修科目である「生命倫理概論」を受講させ，生命倫理に関わる基本的知識を修得させる。
【学修方法】
講義については，対面又は e-learning の形式で行う。
【学修成果の評価方法】
出席及びレポート提出により，理解度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>４．実践力・思考力
医学に関する幅広い知識，技能に裏付けられた実践力を身につけ，医学・医療の学際的融合領域を推進するための先進的思考力を備えている。</td><td>【学修内容】
専門科目における演習や特別研究を通じて，研究課題を見出させ，研究活動を行う中で先進的思考力を修得させる。
【学修方法】
演習及び実習等を行う。
【学修成果の評価方法】
発表や口頭試問等を通じて，客観的に評価する。</td></tr>
</table>

医学研究科　　博士課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた学生に博士の学位を授与します。 １．学識 最先端の医学・生命医科学の研究活動に必要な高度の研究能力と医療の高度化に寄与しうる高い専門知識と豊かな学識を身につけている。 ２．技術・展開力 最先端の専門的知識・高度な技術を備えるとともに，広範な応用力，洞察力，創造力を身につけ，国際的に活躍できる技術とその展開力を備えている。また・生涯にわたって自己研鑽する態度を身につけている。 ３．倫理性・社会性 最先端研究を行える研究者及び地域と世界で活躍する医療関係従事者として，生命倫理を第一義に，深い探求心と情熱を持ち，地域や国を越えて社会貢献する意志と意欲を身につけている。 ４．リーダー力 医学の進歩と社会福祉の向上に寄与するため，幅広い学識と高度な研究能力に基づき，先進的で個性的な研究を推進，結実させ，未来を指し示すリーダー力を備えている。	医学研究科博士課程では，医学分野において高度な研究能力と豊かな学識を備え，高度先進医療を充実・発展させることができる人材を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．集学的，学際的な学術研究環境を構築するため，特定分野に偏らない共通科目を多く設定するとともに，複数の分野の教員による指導体制を設け，基礎・臨床医学を融合させたカリキュラム。 ２．医学科以外を卒業した学生の受け入れに配慮したカリキュラム。 ３．研究に必要とされる知識と方法を基本から専門性の高い領域へと段階的に習得できるように，一貫性，系統性を確保したカリキュラム。 ４．医学領域に関わる先端的研究者及び高度専門医に必要不可欠である生命倫理教育を必須とし，研究に対する精神性・社会性の内容を重視した内容を具備したカリキュラム。	医学研究科では，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，卓越した学術および文化を継承するとともに学びの志と進取の気風をもち，未来へ飛躍する人材を養成するため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，協働性をもった次のような人を求めています。 【博士課程】 医学研究科博士課程では，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，卓越した学術および文化を継承するとともに進取の気風をもち，未来へ飛躍する人材を養成するため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性や協働性をもった次のような人を 求めています。 ●求める人物像 ・医学・生命医科学に対する興味と情熱に溢れ，その研究に意欲を燃やすことのできる人 ・深い探求心を持ち，高度先進医療の開拓に意欲を有する人 ・卓越した臨床能力を身につけて，地域医療に貢献する意欲を有する人 ・高度専門医療人として国際貢献することに意欲を有する人

（医学研究科：医学専攻　博士課程）　　【博士（医学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた学生に博士の学位を授与します。 １．学識 最先端の医学・生命医科学の研究活動に必要な高度の研究能力と医療の高度化に寄与しうる高い専門知識と豊かな学識を身につけている。 ２．技術・展開力 最先端の専門的知識・高度な技術を備えるとともに，広範な応用力，洞察力，創造力を身につけ，国際的に活躍できる技術とその展開力を備えている。また・生涯にわたって自己研鑽する態度を身につけている。 ３．倫理性・社会性 最先端研究を行える研究者及び地域と世界で活躍する医療関係従事者として，生命倫理を第一義に，深い探求心と情熱を持ち，地域や国を越えて社会貢献する意志と意欲を身につけている。 ４．リーダー力 医学の進歩と社会福祉の向上に寄与するため，幅広い学識と高度な研究能力に基づき，先進的で個性的な研究を推進，結実させ，未来を指し示すリーダー力を備えている。	医学専攻では，医学分野において高度な研究能力と豊かな学識を備え，高度先進医療を充実・発展させることができる人材を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．集学的，学際的な学術研究環境を構築するため，特定分野に偏らない共通科目を多く設定するとともに，複数の分野の教員による指導体制を設け，基礎・臨床医学を融合させたカリキュラム。 ２．医学科以外を卒業した学生の受け入れに配慮したカリキュラム。 ３．研究に必要とされる知識と方法を基本から専門性の高い領域へと段階的に習得できるように，一貫性，系統性を確保したカリキュラム。 ４．医学領域に関わる先端的研究者及び高度専門医に必要不可欠である生命倫理教育を必須とし，研究に対する精神性・社会性の内容を重視した内容を具備したカリキュラム。	医学専攻では，先端的な医学・生命医科学の研究活動に必要な高度の研究能力と豊かな学識を備えた研究者ならびに医療の高度化に寄与しうる高い専門知識・能力を持った臨床医を育成し，個性的な研究を進めるとともに生命倫理を尊重し，活力のある大学院として医学の進歩と社会福祉の向上に寄与することを目的としています。このような目的に基づき，つぎのような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 医学・生命科学に対する高度な専門知識を身につけ、自らの問題意識を持って主体的に医学上の未解決の問題を解決すべく、意欲と情熱を持って取り組むことができる人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 生命倫理を尊重し、ユニークな発想力や広範な応用力をもち、独自の研究成果を国内外に発信することができる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 円滑なコミュニケーションを通して、相手の立場や多様性を尊重しながら研究を推進していく基本姿勢を身につけている人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試（４月入学，秋入学） 個別学力試験では，英語の読解力・表現力及び専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，試問試験を含み，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人入試（４月入学，秋入学） 個別学力試験では，英語の読解力・表現力及び専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，試問試験を含み，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。その他に，社会人大学院生としての志望動機，就学環境，大学院修了後のビジョンについても評価します。 外国人留学生入試（４月入学，秋入学） 個別学力試験では，英語の読解力・表現力及び専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，試問試験を含み，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。また，日本語能力についても評価します。 英語プログラム（渡日前）私費外国人留学生入試（４月入学，秋入学） 書類審査及びインターネットインタビューによる面接では，英語の読解力・表現力，専門分野に関する知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 英語プログラム（渡日前）国費外国人留学生入試（４月入学） 書類審査及びインターネットインタビューによる面接では，英語の読解力・表現力，専門分野に関する知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 M.D.-Ｐｈ.D.コース特別入試 面接では，試問試験を含み，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。また，M.D.-Ｐｈ.D.コースへの志望動機，修了後のビジョンについても評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．学識
最先端の医学・生命医科学の研究活動に必要な高度の研究能力と医療の高度化に寄与しうる高い専門知識と豊かな学識を身につけている。</td><td>【学修内容】
必修科目である「生命倫理概論」，「先端医学特論」，「臨床医科学概論」及び医療系研究科が共通で開講している「臨床心理学」，「医療系分野における知的財産学概論」，「心身健康と環境ストレス」等を選択科目として受講させ，研究能力や専門知識を修得させる。
【学修方法】
講義については，対面又は e-learning の形式で行う。
【学修成果の評価方法】
出席及びレポート提出により，理解度を客観的に評価する。</td><td rowspan="4">（知識・技能，関心・意欲）
医学・生命科学に対する高度な専門知識を身につけ、自らの問題意識を持って主体的に医学上の未解決の問題を解決すべく、意欲と情熱を持って取り組むことができる人

（思考力・判断力・表現力等の能力）
生命倫理を尊重し、ユニークな発想力や広範な応用力をもち、独自の研究成果を国内外に発信することができる人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
円滑なコミュニケーションを通して、相手の立場や多様性を尊重しながら研究を推進していく基本姿勢を身につけている人</td></tr>
<tr><td>２．技術・展開力
最先端の専門的知識・高度な技術を備えるとともに，広範な応用力，洞察力，創造力を身につけ， 国際的に活躍できる技術とその展開力を備えている。また・生涯にわたって自己研鑽する態度を身につけている。</td><td>【学修内容】
医療系研究科が共通で開講している「社会医学・疫学・医学統計概論」，「生命科学の研究手法」，「英語論文作成法」等を選択科目として受講させ，専門的知識や高度な技術を修得させる。
【学修方法】
講義については，対面又は e-learning の形式で行う。
【学修成果の評価方法】
出席及びレポート提出により，理解度や技能の修得度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>３．倫理性・社会性
最先端研究を行える研究者及び地域と世界で活躍する医療関係従事者として，生命倫理を第一義に，深い探求心と情熱を持ち，地域や国を越えて社会貢献する意志と意欲を身につけている。</td><td>【学修内容】
必修科目である「生命倫理概論」を受講させ，生命倫理に関わる知識等を修得させる。
【学修方法】
講義については，対面又は e-learning の形式で行う。
【学修成果の評価方法】
出席及びレポート提出により，理解度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>４．リーダー力
医学の進歩と社会福祉の向上に寄与するため，幅広い学識と高度な研究能力に基づき，先進的で個性的な研究を推進，結実させ，未来を指し示すリーダー力を備えている。</td><td>【学修内容】
専門科目における研究演習や実験実習を通じて，研究活動や論文作成等に係る幅広い学識や研究推進能力を修得させる。
【学修方法】
演習及び実習等を通して，研究活動等を行う。
【学修成果の評価方法】
研究発表や口頭試問等を通じて，客観的に評価する。</td></tr>
</table>

医科栄養学研究科

大学院の目的（大学院学則　第１条）
徳島大学大学院は，徳島大学の目的使命に則り，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究め，もって文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。

学部（学科）の教育研究上の目的（研究科規則等から抜粋）
本研究科は，医療機関や地域社会・産業分野で活躍する高度専門職業人，また教育研究機関で活躍する先端的な教育研究者の養成を目指し，基礎生命科学から多様な医療関連知識等を含む人間栄養学に関する幅広い教育を行うとともに，社会の要請に対応できる先導的研究を推進し，教育研究の成果を通じた人材育成及び社会貢献により，栄養学の発展に寄与することを目的とする。

医科栄養学研究科　　博士前期課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。 １．高度な理解力 基礎栄養学，公衆・臨床栄養学の先端情報を取得し，理解できる能力を有する ２．国際力と高度な専門技能 英語による栄養科学の知識・知見及び専門的研究手法や技能を理解し習得している ３．強いリーダーシップ 臨床栄養管理手法や栄養指導方法を取得し，高度専門職業人としてリーダーシップを発揮できる ４．強い研究遂行能力と情報発信能力 基礎研究，臨床研究，調査研究のいずれかの研究手法を修得し，情報を発信できる	医科栄養学研究科博士前期課程では，栄養学を基盤として医療，行政，企業の活動をリードできる高度専門職業人を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．必修科目として「人間栄養学特論」，「健康科学特論」，「臨床栄養学特論」を受講させ，栄養学の高度で幅広い知識を修得させる。 ２．基礎科目として，医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講させ，学際的な基礎的・臨床的知識を修得させる。 ３．専門科目として演習および実習を中心としたカリキュラムを構成し，高度専門職業人として必要な問題を解決する能力を修得させる。 ４．生命栄養科学の基本的研究手技，臨床栄養管理の基本的技能を英語で修得するカリキュラムを受講させ，社会のオピニオンリーダーとして活動する能力を修得させる。	医科栄養学研究科では，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，生命科学および医学に基づいた栄養学の高度な専門知識を持ち，人々の食生活を改善し，健康の保持・推進に資することができるとともに，日本国内にとどまらず世界において活躍することを目指す次のような人を求めています。 【博士前期課程】 医科栄養学研究科博士前期課程では，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）　を踏まえ，生命科学および医学に基づいた栄養学の高度な専門知識を持ち，人々の食生活を改善し，　健康の保持・推進に資することができる，次のような人を求めています。 ●求める人物像 ・医学に立脚した高度な専門知識と技術を有する臨床管理栄養士をめざす人 ・栄養施策を企画し，国内外において社会に貢献することをめざす人 ・栄養学分野の研究・教育機関で活躍することをめざす人

（医科栄養学研究科：医科栄養学専攻　博士前期課程）　【修士（栄養学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。 １．高度な理解力 基礎栄養学，公衆・臨床栄養学の先端情報を取得し，理解できる能力を有する ２．国際力と高度な専門技能 英語による栄養科学の知識・知見及び専門的研究手法や技能を理解し習得している ３．強いリーダーシップ 臨床栄養管理手法や栄養指導方法を取得し，高度専門職業人としてリーダーシップを発揮できる ４．強い研究遂行能力と情報発信能力 基礎研究，臨床研究，調査研究のいずれかの研究手法を修得し，情報を発信できる	医科栄養学専攻では，栄養学を基盤として医療，行政，企業の活動をリードできる高度専門職業人を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．必修科目として「人間栄養学特論」，「健康科学特論」，「臨床栄養学特論」を受講させ，栄養学の高度で幅広い知識を修得させる。 ２．基礎科目として，医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講させ，学際的な基礎的・臨床的知識を修得させる。 ３．専門科目として演習および実習を中心としたカリキュラムを構成し，高度専門職業人として必要な問題を解決する能力を修得させる。 ４．生命栄養科学の基本的研究手技，臨床栄養管理の基本的技能を英語で修得するカリキュラムを受講させ，社会のオピニオンリーダーとして活動する能力を修得させる。	医科栄養学専攻では，生命科学および医学に基づいた栄養学の高度な専門知識を持ち，人々の食生活を改善し，健康の保持・推進に資することができる，次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 医学に立脚した高度な専門知識と技術を有する臨床管理栄養士をめざすとともに，社会情勢を鑑み将来，病院や行政機関や研究機関で活躍し，社会に貢献することをめざす人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 幅広い視野と柔軟な感性を有し，今までの知識・技能をもとに思考を深めて適切に判断かつ表現し伝えることができる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 今までに培った自分の意思や判断力を駆使し，問題解決のために，国籍や世代，考え方にとらわれること無く，相手の立場や多様性を尊重しながら互いに協力出来る人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試（１次・２次募集） 個別学力試験では，主として栄養生命科学分野に関する語学力を含めた知識・技能を評価します。 面接は，試問試験を含み，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 特別入試（社会人）（１次・２次募集） 個別学力試験では，主として栄養生命科学分野に関する語学力を含めた知識・技能を評価します。 面接は，試問試験を含み，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。その他に，社会人大学院生としての志望動機，就学環境，大学院修了後のビジョンについても評価します。 私費外国人留学生（１次・２次募集） 指導教員の推薦書では，主として栄養生命科学分野に関するこれまでの学習状況，専門的な知識・技能の修得状況，学習・研究意欲について評価します。 口頭試問では，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。その他に，日本語運用能力についても評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．高度な理解力
基礎栄養学，公衆・臨床栄養学の先端情報を取得し，理解できる能力を有する</td><td>【学修内容】
必修科目である「人間栄養学特論」，「健康科学特論」，「臨床栄養学特論」及び医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する「全専攻系共通カリキュラム科目」，「各専攻系間共通カリキュラム科目」や「指定科目」などを選択科目として受講させ，栄養学のみならず生命科学・医学・薬学・歯学・保健学の領域の先端情報に触れ，理解させる。

【学修方法】
医歯薬学研究部及び先端酵素学研究所に加え，国内外から招聘する外部講師による最先端の講義を受講させる。講義は，対面，e-learning，特別講義の形式で行う。

【学修成果の評価方法】
出席及びレポート提出により理解度を客観的に評価する。</td><td rowspan="4">（知識・技能，関心・意欲）
医学に立脚した高度な専門知識と技術を有する臨床管理栄養士をめざすとともに，社会情勢を鑑み将来，病院や行政機関や研究機関で活躍し，社会に貢献することをめざす人
（思考力・判断力・表現力等の能力）
幅広い視野と柔軟な感性を有し，今までの知識・技能をもとに思考を深めて適切に判断かつ表現し伝えることができる人
（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
今までに培った自分の意思や判断力を駆使し，問題解決のために，国籍や世代，考え方にとらわれること無く，相手の立場や多様性を尊重しながら互いに協力出来る人</td></tr>
<tr><td>２．国際力と高度な専門技能
英語による栄養科学の知識・知見及び専門的研究手法や技能を理解し習得している</td><td>【学修内容】
必修科目である「人間栄養学特論」，「臨床栄養学特論」及び「全専攻系共通カリキュラム科目」の一部について英語による講義を行い，国際力を養う。また，「指定科目」や「専門科目」において英語の論文を読み， 課題を発表させることで専門的研究手法や技能を理解させる。

【学修方法】
医歯薬学研究部及び先端酵素学研究所の教員により英語による最先端の講義を受講させる。講義は，対面あるいは e-learning の形式で行う。また，英語によるレポートを提出させ，英語による表現力の向上を図る。指定科目や専門科目においては，事前に英語論文などの課題を与え，課題について説明させ議論を行うアクティブラーニング型の授業により専門的研究手法や技能を修得させる。

【学修成果の評価方法】
出席，レポート提出及び課題発表により理解度や技能の修得度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>３．強いリーダーシップ
臨床栄養管理手法や栄養指導方法を取得し，高度専門職業人としてリーダーシップを発揮できる</td><td>【学修内容】
「臨床医科学概論」，「臨床栄養管理学演習」，「臨床栄養管理学実習」，「腫瘍栄養管理学演習」，「腫瘍栄養管理学実習」及び各専門科目において，臨床栄養管理手法や栄養指導方法について学び，高度専門職業人としてリーダーシップを発揮するために必要な高度な知識・技能を修得させる。

【学修方法】
演習では，臨床栄養に関する特別な課題について示し，議論をまとめる他，実習では，病院などにおいて最新の栄養管理手法を学ばせる。

【学修成果の評価方法】
出席及びレポートあるいは症例レポートの提出により課題の修得状況を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>４．強い研究遂行能力と情報発信能力
基礎研究，臨床研究，調査研究のいずれかの研究手法を修得し，情報を発信できる</td><td>【学修内容】
「全専攻系共通カリキュラム科目」の「生命科学の研究手法」や「研究方法論」，「英語論文作成法」などの講義の他，専門科目における演習・特別実験科目を履修させ，研究手法や研究倫理・生命倫理などの研究手法の基盤を学ばせるとともに，特別実験科目では修士論文作成に必要な研究の実施，論文の作成・発表を通じて，技術の修得及び情報発信の方法について修得させる。

【学修方法】
医歯薬学研究部及び先端酵素学研究所の教員による研究手法や研究倫理，論文作成法に関する最新の知見を教授する。また，修士論文に係る研究，論文作成，発表を行わせる。

【学修成果の評価方法】
出席，レポート，研究活動への取り組み状況，修士論文，発表を通じて研究遂行能力と情報発信能力を評価する。修士論文及び発表については指導教員以外の審査を受け，客観的に評価する。</td></tr>
</table>

医科栄養学研究科　　博士後期課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。 １．国際的な最先端の知識や技術 英語による最先端栄養科学の知識や研究手法を習得した人材 ２．国際的な情報発信能力 研究を組み立て，研究成果を国際的に発信できる能力 ３．国際的な連携能力 国内外の栄養学関係者と交流し，連携できる能力及び自立心 ４．科学の進歩発展への貢献 国際社会のニーズに対応するために，栄養科学の進歩発展に貢献できる人材	医科栄養学研究科博士後期課程では，栄養学を基盤として大学，研究所，医療，　行政，企業に加えて，国際的活動をリードできる人材を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目の学習を通じて，広い視野から基礎的・臨床的知識を習得させ，栄養学の教育研究者としての倫理観を獲得させる。 ２．必須科目「先端健康科学特論」はじめ国内外最先端栄養学を学習する指定科目を受講させ，最新情報の取得，理解および解説できる能力を獲得させる。 ３．栄養生命科学における課題を見出し，研究活動を通して問題解決能力を獲得させる。 ４．英語による大学院授業科目の受講や研究発表を通して，国際社会で活躍できる情報発信方法やコミュニケーション能力を獲得させる。	医科栄養学研究科では，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，生命科学および医学に基づいた栄養学の高度な専門知識を持ち，人々の食生活を改善し，健康の保持・推進に資することができるとともに，日本国内にとどまらず世界において活躍することを目指す次のような人を求めています。 【博士後期課程】 医科栄養学研究科博士後期課程では，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，生命科学および医学に基づいた栄養学のより高度な専門知識をもち，日本国内にとどまらず世界において，人々の健康の保持・増進に寄与することができる，次のような人を求めています。 ●求める人物像 ・これまでに習得した高度な専門知識や技術を臨床の場で応用・発展させることのできる管理栄養士 ・国内外の行政機関で，習得した高度な専門知識や技術を生かした栄養施策を企画・立案し，社会福祉に貢献したい人 ・栄養生命科学に関する国内外のより専門性の高い研究・教育機関で活躍することをめざす人

（医科栄養学研究科：医科栄養学専攻　博士後期課程）【博士（栄養学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。 １．国際的な最先端の知識や技術 英語による最先端栄養科学の知識や研究手法を習得した人材 ２．国際的な情報発信能力 研究を組み立て，研究成果を国際的に発信できる能力 ３．国際的な連携能力 国内外の栄養学関係者と交流し，連携できる能力及び自立心 ４．科学の進歩発展への貢献 国際社会のニーズに対応するために，栄養科学の進歩発展に貢献できる人材	医科栄養学専攻では，栄養学を基盤として大学，研究所，医療，行政，企業に加えて，国際的活動をリードできる人材を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目の学習を通じて，広い視野から基礎的・臨床的知識を習得させ，栄養学の教育研究者としての倫理観を獲得させる。 ２．必須科目「先端健康科学特論」はじめ国内外最先端栄養学を学習する指定科目を受講させ，最新情報の取得，理解および解説できる能力を獲得させる。 ３．栄養生命科学における課題を見出し，研究活動を通して問題解決能力を獲得させる。 ４．英語による大学院授業科目の受講や研究発表を通して，国際社会で活躍できる情報発信方法やコミュニケーション能力を獲得させる。	医科栄養学専攻では，生命科学および医学に基づいた栄養学のより高度な専門知識をもち，日本国内にとどまらず世界において，人々の健康の保持・増進に寄与することができる，次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 医学に立脚した高度な専門知識と技術を有し，応用・発展させることのできる管理栄養士をめざすとともに，社会情勢を鑑み将来，栄養生命科学に関する国内外のより専門性の高い研究・教育機関等活躍し，社会に貢献することをめざす人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 幅広い視野と柔軟な感性を有し，今までの知識・技能をもとに思考を深めて適切に判断かつ表現し伝えることができる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 今までに培った自分の意思や判断力を駆使し，問題解決のために，国籍や世代，考え方にとらわれること無く，相手の立場や多様性を尊重しながら互いに協力出来る人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試（１次・２次募集） 個別学力試験では，主として栄養生命科学分野に関する語学力を含めた知識・技能を評価します。 面接は，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 特別入試（社会人）（１次・２次募集） 個別学力試験では，主として栄養生命科学分野に関する語学力を含めた知識・技能を評価します。 面接は，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。その他に，社会人大学院生としての志望動機，就学環境，大学院修了後のビジョンについても評価します。 私費外国人留学生（１次・２次募集） 指導教員の推薦書では，主として栄養生命科学分野に関するこれまでの学習状況，専門的な知識・技能の修得状況，学習・研究意欲について評価します。 口頭試問では，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。その他に，日本語運用能力についても評価します。 内部進学 指導教員の推薦書では，主として栄養生命科学分野に関するこれまでの学習状況，専門的な知識・技能の修得状況，学習・研究意欲について評価します。 面接は，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 モンゴルと ASEAN 諸国における国際高度医療人育成プログラム特別入試 日本国政府奨学金により，徳島大学大学院（医学，医科栄養学，保健科学，口腔科学，薬学）研究科において博士号の取得を目指す外国人で，指定の国籍を保有し新たに海外から留学を希望する者を対象に実施します。最終学歴の学業成績係数が 2.30 以上で十分な英語能力（英語能力証明書を提出）が条件となり，採用は徳島大学からの推薦に基づき文部科学省が決定します。 統合医療学際教育英語プログラム私費外国人留学生特別入試 本プログラムでは 21 世紀における世界的課題である人間環境，栄養，保健，感染予防並びに医療

		の分野における諸問題に対応できるように，世界の各国で活躍できる教育・研究者及び行政の専門家を育成することを目的として，　医学，栄養学，保健学，歯学，薬学に関する講義・実習・セミナーを全て英語で行います 。入学選抜は，提出された書類に基づき選考します

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．国際的な最先端の知識や技術 英語による最先端栄養科学の知識や研究手法を習得した人材	【学修内容】 必修科目である「先端健康科学特論」及び医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する「全専攻系共通カリキュラム科目」，「各専攻系間共通カリキュラム科目」，「指定科目」の一部について英語による講義を行い，国際力を養う。また，「指定科目」や「専門科目」において英語の論文を読み，課題を発表させることで専門的研究手法や技能を理解させる。 【学修方法】 医歯薬学研究部及び先端酵素学研究所に加え，国内外から招聘する外部講師により英語による最先端の講義を受講させる。講義は，対面あるいは e-learning の形式で行う。また，英語によるレポートを提出させ，英語による表現力の向上を図る。指定科目や専門科目においては，事前に英語論文などの課題を与え，課題について説明させ議論を行うアクティブラーニング型の授業により専門的研究手法や技能を修得させる。 【学修成果の評価方法】 出席，レポート提出及び課題発表により理解度や技能の習得度を客観的に評価する。	（知識・技能，関心・意欲） 医学に立脚した高度な専門知識と技術を有し，応用・発展させることのできる管理栄養士をめざすとともに，社会情勢を鑑み将来，栄養生命科学に関する国内外のより専門性の高い研究・教育機関等活躍し，社会に貢献することをめざす人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 幅広い視野と柔軟な感性を有し，今までの知識・技能をもとに思考を深めて適切に判断かつ表現し伝えることができる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 今までに培った自分の意思や判断力を駆使し，問題解決のために，国籍や世代，考え方にとらわれること無く，相手の立場や多様性を尊重しながら互いに協力出来る人
２．国際的な情報発信能力 研究を組み立て，研究成果を国際的に発信できる能力	【学修内容】 「英語論文作成法」，「生命科学の研究手法」及び専門科目における演習・実験科目において研究の組み立てや英語論文作成の実際を学ばせ，国際的な情報発信能力を修得させる。特に実験科目では博士論文作成に必要な研究の実施，英語論文の作成・発表を通じて，技術の修得及び情報発信の方法について修得させる。 【学修方法】 医歯薬学研究部及び先端酵素学研究所の教員による研究手法や研究倫理，論文作成法に関する最新の知見を教授する。また，博士論文に係る研究，論文作成，発表を行わせる。 【学修成果の評価方法】 出席，レポート，研究活動への取り組み状況，博士論文，発表を通じて研究遂行能力と情報発信能力を評価する。博士論文及び発表については指導教員以外の審査を受け，客観的に評価する。	
３．国際的な連携能力 国内外の栄養学関係者と交流し，連携できる能力及び自立心	【学修内容】 「先端健康科学特論」では，国内外の著明な研究者による講演や質疑応答を通じて，研究交流活動を行い国際的な連携能力を修養させる。また，専門科目における演習・実験科目における議論や研究活動を通じて，他の研究者との連携能力や自立心を修養させる。 【学修方法】 「先端健康科学特論」では，国内外の著明な研究者による講演と質疑応答に参加させる。演習・実験科目では，博士論文の内容について国内外の学会等で発表させ，栄養学関係者との学術交流を行う。 【学修成果の評価方法】 出席及びレポートあるいは発表内容について客観的に評価する。	
４．科学の進歩発展への貢献 国際社会のニーズに対応するために，栄養科学の進歩発展に貢献できる人材	【学修内容】 専門科目における演習・実験科目における議論や研究活動を通じて，社会のニーズを知り，研究課題を見出し，社会貢献に資する過程を学ばせる。 【学修方法】 博士論文の作成に係る研究活動において，栄養学に関する国際社会のニーズを踏まえた課題設定を行い，研究活動を通じて，栄養科学の進歩発展に貢献させる。 【学修成果の評価方法】 研究活動への取り組み状況，博士論文，発表を通じて栄養科学の進歩発展への成果について評価する。博士論文及び発表については指導教員以外の審査を受け，客観的に評価する。	

保健科学研究科

大学院の目的（大学院学則　第１条）
徳島大学大学院は，徳島大学の目的使命に則り，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究め，もって文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。

学部（学科）の教育研究上の目的（研究科規則等から抜粋）
本研究科は，保健科学における実践的かつ実証的な教育研究を通して，生命倫理とチーム医療を尊重し，かつ社会の多様なニーズに応えることのできる人間性豊かな高度専門職業人及び教育・研究者の養成を目指すとともに，社会の要請に貢献する先導的な研究を推進し，保健科学の発展に寄与する。

保健科学研究科　博士前期課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次に掲げる目標を達成した学生に修士の学位を授与します。 １．高度な理解力と幅広い知識 専門的知識に基づいて，高度化・専門化する医療・保健を理解し，人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。 ２．国際的なコミュニケーション能力と協働力 最先端の専門的技能を有し，チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに，国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。 ３．豊かな人間力と高い倫理観 豊かな人間性を持った社会性のある医療人として，生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し，豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。 ４．実践的な研究能力 医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し，課題の探求と，創造的，開発的な実践的研究能力を修得している。	保健科学研究科では，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．幅広い学問領域の知識を修得させるため，医療系研究科を横断する共通カリキュラム科目を編成する。 ２．高度な専門基礎知識の修得及び異なる医療専門職との協働力を育むための専門科目を編成する。 ３．最先端の専門的知識と技能を修得させるため，特論科目を編成する。 ４．国際的に活躍し得る人材を育成するため，優れた語学力と情報化社会への対応力を修得させる科目を教育課程に設ける。 ５．生命尊厳を基盤とした高い倫理観を形成させ，保健科学分野のリーダーを育成する科目を編成する。 ６．より良い医療・保健推進のために解決すべき新しい研究テーマを自ら選択することができ，研究成果をとりまとめ，研究発表及び論文作成ができる能力を修得させるため，複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。 ７．高度専門職業人養成のための科目を編成する。	保健科学研究科では，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，豊かな人間性とともに実地臨床に役立つ新しい知識・技術を有し，人々の健康の維持・増進に資する高度な実践力・研究力を獲得することができる，次のような人を求めています。 【博士前期課程】 保健科学研究科博士前期課程では，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，実地臨床に役立つ新しい知識をもち，健康の維持・増進に資することができる，次のような人を求めています。 ●求める人物像 ・生命の尊厳を尊重し，健康の維持・増進を援助する使命感と医療人としての豊かな人間性を有する人 ・学士課程の教育によって修得した保健学の知識を，博士前期課程においてさらに深め，高度専門職業人として，地域社会の保健医療に貢献する意欲の高い人 ・生命倫理や高い人権意識を獲得し，高度医療の現場において指導的役割を果たす意欲の高い人

（保健科学研究科：保健学専攻　博士前期課程）　【修士（保健学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次に掲げる目標を達成した学生に修士の学位を授与します。 １．高度な理解力と幅広い知識 専門的知識に基づいて，高度化・専門化する医療・保健を理解し，人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。 ２．国際的なコミュニケーション能力と協働力 最先端の専門的技能を有し，チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに，国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。 ３．豊かな人間力と高い倫理観 豊かな人間性を持った社会性のある医療人として，生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し，豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。 ４．実践的な研究能力 医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し，課題の探求と，創造的，開発的な実践的研究能力を修得している。	保健学専攻では，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．幅広い学問領域の知識を修得させるため，医療系研究科を横断する共通カリキュラム科目を編成する。 ２．高度な専門基礎知識の修得及び異なる医療専門職との協働力を育むための専門科目を編成する。 ３．最先端の専門的知識と技能を修得させるため，特論科目を編成する。 ４．国際的に活躍し得る人材を育成するため，優れた語学力と情報化社会への対応力を修得させる科目を教育課程に設ける。 ５．生命尊厳を基盤とした高い倫理観を形成させ，保健科学分野のリーダーを育成する科目を編成する。 ６．より良い医療・保健推進のために解決すべき新しい研究テーマを自ら選択することができ，研究成果をとりまとめ，研究発表及び論文作成ができる能力を修得させるため，複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。 ７．高度専門職業人養成のための科目を編成する。	保健学専攻では，実地臨床に役立つ新しい知識をもち，健康の維持・増進に資することができる，次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 高度専門職業人として，地域社会の保健医療に貢献する意欲の高い人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 医療人としての豊かな人間性を有し，これまでに修得した知識や技能に基づき，適切に判断し表現することができる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 自ら学ぶ姿勢を持ち学際的に協働できる人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 個別学力試験では，専門分野に関する英語力を含めた知識・技能を評価します。 面接は，知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人入試 個別学力試験では，専門分野に関する英語力を含めた知識・技能を評価します。 面接は，知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 私費外国人入試 口頭試問では，語学力（日本語，英語）および専門分野に関する知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．高度な理解力と幅広い知識
専門的知識に基づいて，高度化・専門化する医療・保健を理解し，人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。</td><td>【学修内容】
５つの研究科（医学研究科・口腔科学研究科・薬学研究科・医科栄養学研究科・保健科学研究科）　を横断する全専攻系及び各専攻系の共通科目を学ぶことで幅広い知識を修得するとともに，保健科学分野専門科目における専門的知識の修得により，高度化・専門化する医療・保健を理解し，人間理解のための幅広い知識を修得するよう教育課程を編成し，実施する。

【学修方法】
講義や演習では，国際的視点を含めた最新の知識を修得させ，授業科目に応じてアクティブラーニング等の授業形態を取り入れた教育方法を実施する。

【学修成果の評価方法】
学修目標に即して，講義や演習中の発表内容やディスカッションの状況，到達度確認試験や課題レポートなどにより到達度を客観的・包括的に評価する。</td><td rowspan="4">（知識・技能，関心・意欲）
高度専門職業人として，地域社会の保健医療に貢献する意欲の高い人

（思考力・判断力・表現力等の能力）
医療人としての豊かな人間性を有し，これまでに修得した知識や技能に基づき，適切に判断し表現することができる人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
自ら学ぶ姿勢を持ち学際的に協働できる人</td></tr>
<tr><td>２．国際的なコミュニケーション能力と協働力 最先端の専門的技能を有し，チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに，国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。</td><td>【学修内容】
医療・保健領域において，国際的な視野や思考を育成するとともに，最先端の専門的技能を有してチーム医療を推進するために必要なコミュニケーション能力と協働力を養い，基本的な専門用語については英語で理解できる能力を修得するよう教育課程を編成し，実施する。

【学修方法】
講義や演習などの専門教育科目では，チーム医療を念頭において，国際的視点を含めた講義により，専門分野について議論を深めるとともに英語によるコミュニケーション能力や協働力およびグローバル・リテラシーを修得するよう教育方法を実施する。

【学修成果の評価方法】
学修目標に即して，講義や演習中の発表内容やディスカッションの状況，到達度確認試験や課題レポートなどにより到達度を客観的・包括的に評価する。</td></tr>
<tr><td>３．豊かな人間力と高い倫理観
豊かな人間性を持った社会性のある医療人として，生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し，豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。</td><td>【学修内容】
豊かな人間性を持った社会性ある医療人として，生命尊厳を基盤とした高い倫理観を探求し，倫理的問題を発見し解決に導ける能力を修得するよう教育課程を編成し，実施する。

【学修方法】
ｅ　ラーニングによる研究倫理教育の受講や専門科目の講義・演習等を通じて生命倫理・生殖倫理に関する課題を取り合上げるなど医療専門職としての使命感と倫理観を養う教育方法を実施する。

【学修成果の評価方法】
学修目標に即して，講義や演習中の発表内容やディスカッションの状況，到達度確認試験や課題レポートなどにより到達度を客観的・包括的に評価する。</td></tr>
<tr><td>４．実践的な研究能力
医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し，課題の探求と，創造的，開発的な実践的研究能力を修得している。</td><td>【学修内容】
広い視野と高邁な倫理観に立ち，人々の健康と，医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進するために，課題を探究し解決に導くための調査・分析力とともに，創造的，開発的な実践的研究能力を修得するための教育課程を編成し，実施する。

【学修方法】
研究内容について指導教員を含めて研究グループの中で討議を行い，論文作成するとともに，複数教員による研究指導を行う教育体制を実施する。また，研究過程では，専門の枠を越えた教員や学生と議論を行う中間発表を実施する。

【学修成果の評価方法】
最終試験は，論文の口頭発表後，審査委員による口頭試問を公開で行う。審査委員は，保健科学研究科保健学専攻学位論文審査基準に基づき審査を行う。</td></tr>
</table>

（保健科学研究科：保健学専攻　博士前期課程）　【修士（看護学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次に掲げる目標を達成した学生に修士の学位を授与します。 １．高度な理解力と幅広い知識 専門的知識に基づいて，高度化・専門化する医療・保健を理解し，人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。 ２．国際的なコミュニケーション能力と協働力 最先端の専門的技能を有し，チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに，国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。 ３．豊かな人間力と高い倫理観 豊かな人間性を持った社会性のある医療人として，生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し，豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。 ４．実践的な研究能力 医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し，課題の探求と，創造的，開発的な実践的研究能力を修得している。	保健学専攻では，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．幅広い学問領域の知識を修得させるため，医療系研究科を横断する共通カリキュラム科目を編成する。 ２．高度な専門基礎知識の修得及び異なる医療専門職との協働力を育むための専門科目を編成する。 ３．最先端の専門的知識と技能を修得させるため，特論科目を編成する。 ４．国際的に活躍し得る人材を育成するため，優れた語学力と情報化社会への対応力を修得させる科目を教育課程に設ける。 ５．生命尊厳を基盤とした高い倫理観を形成させ，保健科学分野のリーダーを育成する科目を編成する。 ６．より良い医療・保健推進のために解決すべき新しい研究テーマを自ら選択することができ，研究成果をとりまとめ，研究発表及び論文作成ができる能力を修得させるため，複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。 ７．高度専門職業人養成のための科目を編成する。	保健学専攻では，実地臨床に役立つ新しい知識をもち，健康の維持・増進に資することができる，次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 高度専門職業人として，地域社会の保健医療に貢献する意欲の高い人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 医療人としての豊かな人間性を有し，これまでに修得した知識や技能に基づき，適切に判断し表現することができる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 自ら学ぶ姿勢を持ち学際的に協働できる人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 個別学力試験では，専門分野に関する英語力を含めた知識・技能を評価します。 面接は，知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人入試 個別学力試験では，専門分野に関する英語力を含めた知識・技能を評価します。 面接は，知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 私費外国人入試 口頭試問では，語学力（日本語，英語）および専門分野に関する知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．高度な理解力と幅広い知識 専門的知識に基づいて，高度化・専門化する医療・保健を理解し，人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	【学修内容】 ５つの研究科（医学研究科・口腔科学研究科・薬学研究科・医科栄養学研究科・保健科学研究科）　を横断する全専攻系及び各専攻系の共通科目を学ぶことで幅広い知識を修得するとともに，保健科学分野専門科目における専門的知識の修得により，高度化・専門化する医療・保健を理解し，人間理解のための幅広い知識を修得するよう教育課程を編成し，実施する。 【学修方法】 講義や演習では，国際的視点を含めた最新の知識を修得させ，授業科目に応じてアクティブラーニング等の授業形態を取り入れた教育方法を実施する。 実習では，グローバルスタンダードに基づき，高度な専門知識と技術を持ってキュアとケアの融合を図るための判断力と技術を修得する学修を実施する。 【学修成果の評価方法】 学習目標に即して，講義や演習中の発表内容やディスカッションの状況，到達度確認試験や課題レポートなどにより到達度を客観的・包括的に評価する。	（知識・技能，関心・意欲） 高度専門職業人として，地域社会の保健医療に貢献する意欲の高い人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 医療人としての豊かな人間性を有し，これまでに修得した知識や技能に基づき，適切に判断し表現することができる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 自ら学ぶ姿勢を持ち学際的に協働できる人
２．国際的なコミュニケーション能力と協働力 最先端の専門的技能を有し，チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに，国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	【学修内容】 医療・保健・看護領域において，国際的な視野や思考を育成するとともに，最先端の専門的技能を有してチーム医療を推進するために必要なコミュニケーション能力と協働力を養い，基本的な専門用語については英語で理解できる能力を修得するよう教育課程を編成し，実施する。 【学修方法】 講義や演習などの専門教育科目では，チーム医療を念頭において，国際的視点を含めた講義により，専門分野について議論を深めるとともに英語によるコミュニケーション能力や協働力およびグローバル・リテラシーを修得するよう教育方法を実施する。 【学修成果の評価方法】 学習目標に即して，講義や演習中の発表内容やディスカッションの状況，到達度確認試験や課題レポートなどにより到達度を客観的・包括的に評価する。	
３．豊かな人間力と高い倫理観 豊かな人間性を持った社会性のある医療人として，生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し，豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	【学修内容】 臨床実践や研究課程で生じる倫理的諸課題の高度化・複雑化に対応する知識を持ち，豊かな人間力と高い倫理的態度を探求する能力を修得するよう教育課程を編成し，実施する。 【学修方法】 e　ラーニングによる研究倫理教育の受講や，看護専門職としての使命感と柔軟な倫理的思考力を養うために，事例を用いた　PBL 学習やアクティブラーニング等の授業形態を取り入れた教育方法を実施する。 【学修成果の評価方法】 学修目標に即して，講義や演習中の発表内容やディスカッションの状況，到達度確認試験や課題レポートなどにより到達度を客観的・包括的に評価する。	
４．実践的な研究能力 医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し，課題の探求と，創造的，開発的な実践的研究能力を修得している。	【学修内容】 広い視野と高邁な倫理観に立ち，人々の健康と，医療・保健・看護領域の発展に寄与する研究を推進するために，課題を探究し解決に導くための，調査・分析力とともに，創造的，開発的な実践的研究能力を修得するよう教育課程を編成し，実施する。 【学修方法】 研究内容について指導教員を含めて研究グループの中で討議を行い，論文作成するとともに，複数教員による研究指導を行う教育体制を実施する。また，研究過程では，専門の枠を越えた教員や学生と議論を行う中間発表を実施する。 【学修成果の評価方法】 最終試験は，論文の口頭発表後，審査委員による口頭試問を公開で行う。審査委員は，保健科学研究科保健学専攻学位論文審査基準に基づき審査を行う。	

保健科学研究科　博士後期課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与します。 １．複合的な知識・理解 高度化・専門化する医療・保健の専門知識を基盤に，複合的な視点で医療・保健を評価・分析・理解する能力を修得している。 ２．先端的技能 医療・保健のリーダーとして，最先端の専門的教育・研究技能を備え，地域社会や国際社会に情報発信する能力を修得している。 ３．独創性・探求心 保健科学の新しい研究領域を切り拓く独創力と探求心を持ち，豊かな医療・保健を実現するためのリーダーシップを発揮できる能力を修得している。 ４．自立性・発展力 修得した知識と研究経験をもとに，自由な発想により，医療・保健の発展に寄与する学術的かつ総合的で，独創性と革新性のある研究を遂行する能力を修得している。	保健科学研究科では，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．複合的な視点で保健科学を評価・分析・理解させるため，医療系研究科を横断する共通カリキュラム科目を編成する。 ２．他領域の研究者と協力し，新たな分野を切り拓く能力を育むための専門科目を編成する。 ３．最先端の専門的知識と研究技能を修得させるため，特講科目を編成する。 ４．海外教育研究機関の研究者との交流や共同研究を実施でき，研究成果を国際学会や国際雑誌に発表できる能力を修得させるため，特講演習を編成する。 ５．生命尊厳の倫理観に立脚した保健科学の新しい研究領域を切り拓く俯瞰力と独創力を涵養する科目を編成する。 ６．より良い医療・保健推進のために解決すべき独創的な研究テーマを領域横断的視点から自ら設定し，研究成果をとりまとめ，研究発表及び論文作成，さらには，研究のマネージメントができ，研究者として自立した研究活動を行うに必要な高度な研究能力を修得させるため，複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。	保健科学研究科では，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，豊かな人間性とともに実地臨床に役立つ新しい知識・技術を有し，人々の健康の維持・増進に資する高度な実践力・研究力を獲得することができる，次のような人を求めています。 【博士後期課程】 保健科学研究科博士後期課程では，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，実地臨床に役立つ新しい知識をもち，健康の維持・増進に資することができる，次のような人を求めています。 ●求める人物像 ・臨床応用を志向し，かつ健康増進と疾病の予防，医療，回復支援及び生活支援に資する学問を推進，発展させることに意欲を持っている人 ・従来の学問の枠組みでは対応しきれない新しい医療に果敢に取り組む気概のある人 ・最新の医療に関する知識を吸収・理解する熱意と能力を有し，将来，保健科学における教育者，研究者を志望する人

（保健科学研究科：保健学専攻　博士後期課程）　【博士（保健学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与します。 １．複合的な知識・理解 高度化・専門化する医療・保健の専門知識を基盤に，複合的な視点で医療・保健を評価・分析・理解する能力を修得している。 ２．先端的技能 医療・保健のリーダーとして，最先端の専門的教育・研究技能を備え，地域社会や国際社会に情報発信する能力を修得している。 ３．独創性・探求心 保健科学の新しい研究領域を切り拓く独創力と探求心を持ち，豊かな医療・保健を実現するためのリーダーシップを発揮できる能力を修得している。 ４．自立性・発展力 修得した知識と研究経験をもとに，自由な発想により，医療・保健の発展に寄与する学術的かつ総合的で，独創性と革新性のある研究を遂行する能力を修得している。	保健学専攻では，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．複合的な視点で保健科学を評価・分析・理解させるため，医療系研究科を横断する共通カリキュラム科目を編成する。 ２．他領域の研究者と協力し，新たな分野を切り拓く能力を育むための専門科目を編成する。 ３．最先端の専門的知識と研究技能を修得させるため，特講科目を編成する。 ４．海外教育研究機関の研究者との交流や共同研究を実施でき，研究成果を国際学会や国際雑誌に発表できる能力を修得させるため，特講演習を編成する。 ５．生命尊厳の倫理観に立脚した保健科学の新しい研究領域を切り拓く俯瞰力と独創力を涵養する科目を編成する。 ６．より良い医療・保健推進のために解決すべき独創的な研究テーマを領域横断的視点から自ら設定し，研究成果をとりまとめ，研究発表及び論文作成，さらには，研究のマネージメントができ，研究者として自立した研究活動を行うに必要な高度な研究能力を修得させるため，複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。	保健学専攻では，実地臨床に役立つ新しい知識をもち，健康の維持・増進に資することができる，次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 高度専門職業人として，地域社会の保健医療に貢献する意欲の高い人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 医療人としての豊かな人間性を有し，これまでに修得した知識や技能に基づき，適切に判断し表現することができる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 自ら探求する姿勢を持ち学際的に協働して研究することができる人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 個別学力試験では，専門分野に関する英語力を含めた知識・技能を評価します。 面接は，試問試験を含み，知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人入試 個別学力試験では，専門分野に関する英語力を含めた知識・技能を評価します。 面接は，試問試験を含み，知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 私費外国人入試 口頭試問では，英語力および専門分野に関する知識技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 英語プログラム（渡日前）私費外国人留学生入試（４月入学，秋入学） 書類審査及びインターネットインタビューによる面接では，英語の読解力・表現力，専門分野に関する知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 英語プログラム（渡日前）国費外国人留学生入試（４月入学） 書類審査及びインターネットインタビューによる面接では，英語の読解力・表現力，専門分野に関する知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．複合的な知識・理解 高度化・専門化する医療・保健の専門知識を基盤に，複合的な視点で医療・保健を評価・分析・理解する能力を修得している。	【学修内容】 高度化・専門化した医療・保健の専門知識および倫理観を基盤に,複合的な視点で最先端の医療・保健を理解し分析・評価できる能力を修得できるよう教育課程を編成し，実施する。 【学修方法】 ５つの研究科（医学研究科・口腔科学研究科・薬学研究科・医科栄養学研究科・保健科学研究科）を横断する共通カリキュラム科目を通じ，e ラーニング等の授業形態を取り入れた教育方法を実施する。 【学修成果の評価方法】 学習目標に即して，ディスカッションの状況，到達確認試験や課題レポートの提出などにより到達度を客観的・包括的に評価する	（知識・技能，関心・意欲） 高度専門職業人として，地域社会の保健医療に貢献する意欲の高い人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 医療人としての豊かな人間性を有し，これまでに修得した知識や技能に基づき，適切に判断し表現することができる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 自ら探求する姿勢を持ち学際的に協働して研究することができる人
２．先端的技能 医療・保健のリーダーとして，最先端の専門的教育・研究技能を備え，地域社会や国際社会に情報発信する能力を修得している。	【学修内容】 医療・保健領域におけるリーダーとして，最先端の専門的教育・研究技能とコミュニケーション能力を備え，地域社会や国際社会に情報発信する能力を修得できるよう教育課程を編成し，実施する。 【学修方法】 専門教育科目を通じ，国内外の最先端の専門的知見・技術等について学習するとともに，アクティブラーニングやフィールドワークを取り入れた教育方法を実施する。 【学修成果の評価方法】 学修目標に即して，ディスカッションの状況，到達度確認試験や課題レポート内容により,到達度を客観的・包括的に評価する	
３．独創性・探求心 保健科学の新しい研究領域を切り拓く独創力と探求心を持ち，豊かな医療・保健を実現するためのリーダーシップを発揮できる能力を修得している。	【学修内容】 保健科学領域の新たな課題に向けた研究領域を切り拓くために，独創力と探求心を持ち，豊かな医療・保健を実現するためのリーダーシップを発揮できる能力を修得できるよう教育課程を編成し，実施する。 【学修方法】 専門教育科目を通じ，国内外の最先端の専門的知見・技術等について学習するとともに，アクティブラーニングやフィールドワークを取り入れた教育方法を実施する。 【学修成果の評価方法】 学修目標に即して，ディスカッションの状況，到達度確認試験や課題レポート内容により，到達度を客観的・包括的に評価する。	
４．自立性・発展力 修得した知識と研究経験をもとに，自由な発想により，医療・保健の発展に寄与する学術的かつ総合的で，独創性と革新性のある研究を遂行する能力を修得している。	【学修内容】 修得した知識と研究経験をもとに，医療・保健の発展に寄与する課題を発見し，自由な発想による学術的かつ総合的で，独創性と革新性のある研究を遂行する能力を修得できるよう教育課程を編成し，実施する。 【学修方法】 複数教員の研究指導体制を設けるとともに,研究グループの中でディスカッション等を行うなどの教育方法を実施する。 【学修成果の評価方法】 保健科学研究科保健学専攻学位論文審査基準に基づき最終試験を実施するとともに，研究プロセスにおける自立的な研究遂行や主体的な学術集会等への参加，研究成果の社会的貢献度などから総合的に評価を行う。	

口腔科学研究科

大学院の目的（大学院学則　第１条）	学部（学科）の教育研究上の目的（研究科規則等から抜粋）
徳島大学大学院は，徳島大学の目的使命に則り，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究め，もって文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。	本研究科における各専攻の教育研究上の目的は，次のとおりとする。 ⑴ 口腔保健学専攻は，口腔保健学を中心とした長寿福祉口腔保健学に関する豊かな専門的知識・技能及び科学的探求心を身につけた，次世代の歯科衛生士教育を担う教育・研究者又は健康長寿社会の実現に貢献する高度専門職業人の養成を目的とする。 ⑵ 口腔科学専攻は，口腔科学を中心とした生命科学に関する学術の理論及び応用の教育研究を通して，幅広い科学的基盤を持ち，かつ，専門性に秀でた，教育・研究・臨床並びに歯科行政などの分野で指導的役割を担う人材の養成を目的とする。

口腔科学研究科　博士前期課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。 １．知識 医学以外の多様な専門性を持つ学生の個性を活かすとともに，体系的，統合的に基礎医学から先端医学まで幅広い知識を身につけている。 ２．技能 生命科学の研究手技，技能を理解し，先端的知見を得るための技術を修得して国際展開するための能力を有する。 ３．倫理性・社会性 医学分野の高度専門職業人及び研究者として，生命倫理を尊重し，医学教育研究に熱意を持ち，進歩する高度先進医療に国際的な視野をもって対応することができる。 ４．実践力・思考力 医学に関する幅広い知識，技能に裏付けられた実践力を身につけ，医学・医療の学際的融合領域を推進するための先進的思考力を備えている。	口腔科学研究科では，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させる授業科目及び当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養することができる授業科目を開設するとともに，修士論文作成又は特定の課題についての研究に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。 ２．教育方法 体系的な教育課程及び研究指導を通じて，高い研究遂行能力と研究遂行に求められる高い倫理観を育む機会を提供する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。	口腔科学研究科では，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，卓越した歯科医学と口腔保健学の知識と技術を継承するとともに，学びの志と進取の気風をもち，未来へ飛躍する人材を育成するため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 【博士前期課程】 口腔保健学専攻博士前期課程では、口腔保健に関する門的知識・技能および科学的探究心に加え、豊かな人間性や倫理観を身につけた次世代の歯科衛生士教育を担う教育研究者，または健康長寿社会の実現に貢献する高度専門職業人を養成するため、次のような人材を求めています。 ●求める人物像 ・学士で得た基本的な教養，専門科目の基礎学力およびコミュニケーション能力を有し，口腔保健学への深い関心をもって教育・研究分野での活躍を目指す人 ・保健・医療・福祉分野に従事する専門家に求められる思考力・判断力に加え，生命の尊厳を尊重し，豊かな人間性の醸成を目指す人 ・保健・医療・福祉の現場において，指導的役割を果たす意欲をもつ高度専門職業人として多職種と協働し貢献しようとする人

（口腔科学研究科：口腔保健学専攻　博士前期課程）　【修士（口腔保健学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。 １．高度な知識 社会から求められる口腔保健学を理解し，これを実践するための高度な知識を有する。 ２．高度な専門技能 教育・研究者として問題解決型授業を主体的に行う能力や，口腔保健学研究・実験の基本的技能を有する。また，入院患者へ行う専門的口腔ケアや，保健福祉活動の場で求められる高度な専門技能を有する。 ３．強い責任感と指導力 学生の職業意識を培う教育担当者としての自覚を有し，科学の進歩に関心を持って継続的な生涯学習を実践できる。また，強い責任感と指導力を有し，チーム医療や医療連携を重視しながら，口腔保健を中核的に推進できる高度専門職業人として健康長寿社会に貢献できる。 ４．国際性と問題解決能力 学際的な科学的知識と国際的視野を併せ持ち，常に最新の口腔保健関連分野の情報収集と	口腔保健学専攻（博士前期課程）では，健康増進及び疾病管理の視点に立って自らの専門領域を捉えうる歯科衛生士教育の担い手や高度専門職業人を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．履修科目は口腔保健学の基礎や基盤を形成する基礎・専門科目，応用力を養う専門科目及び実践教育を行う専門科目の３段階を基本として，各レベルに必修科目を設け，学期進行とともに履修可能科目レベルも上がる段階的教科編成とする。 ２．基礎科目として，医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講させ，学際的な基礎的・臨床的知識を修得させる。 ３．専門科目に次世代の歯科衛生士教育の担い手及び研究者を養成する「教育・研究系コース」と社会が求める高度専門職業人を育成する「臨床系コース」の２コースを設け，各専門分野の担い手として卓越した能力が培えるカリキュラム構成とする。	口腔保健学専攻では，長寿福祉口腔保健学の分野で活躍できる人材の育成を目指しています。口腔保健に関する専門的知識・技能および科学的探究心に加え，豊かな人間性や倫理観を身につけた次世代の歯科衛生士教育を担う教育研究者，または健康長寿社会の実現に貢献する高度専門職業人を養成するため，課題に対して自ら進んで取り組む主体性や社会での協働性をもった次のような人材を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 学士で得た基本的な教養，専門科目の基礎学力およびコミュニケーション能力を有し，口腔保健学への深い関心をもって教育・研究分野での活躍を目指す人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 保健・医療・福祉分野に従事する専門家に求められる思考力・判断力に加え，生命の尊厳を尊重し，豊かな人間性の醸成を目指す人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 保健・医療・福祉の現場において，指導的役割を果たす意欲をもつ高度専門職業人として多職種と協働し貢献しようとする人

学習に心がけ，科学的視点から口腔保健分野の課題を分析・評価し，課題を解決する能力を有する。	４．先進的な口腔保健・歯科医療・社会福祉技術とリサーチマインドを備えた教育・研究者や高度専門職業人養成のため，必要科目を確実に履修させる体制を整え，最新の研究成果を学びながら自ら研究を遂行し，口腔保健学の進歩に貢献できるよう研究指導を実施する。	●入学者選抜の基本方針 一般入試 学力試験の「専門科目」では，人体と口腔の構造と機能，歯・口腔の健康と予防に関わる人間の社会の仕組み、臨床歯科医学，歯科予防処置、歯科保健指導など口腔保健学に関する「知識・技能」「思考力・判断力」を，また「英語」では口腔保健学全般にわたる英文情報に関する「知識・教養」「思考力・判断力」を評価します。 面接では，専門知識についての試問試験を含め，口腔保健学への「関心・意欲」「表現力」「態度・協働性」を総合的に評価します。 外国人留学生特別入試 英語での学習を希望する外国人に向け，筆記試験（専門科目・語学）と面接を英語によって実施します。評価の基準は一般入試と同じです。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．高度な知識 社会から求められる口腔保健学を理解し，これを実践するための高度な知識を有する。	【学修内容】 口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と３つの専門科目（口腔保健学基盤科目，口腔保健学特論科目，課口腔保健学課題専攻科目）を，学年進行に合わせて段階的に開講し，社会から求められる口腔保健学に関する学識と情報収集能力・分析能力を修得させる。 【学修方法】 基礎科目としてでは他の医療系研究科が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科を受講させ，多職種連携教育（IPE）を実践している。特に本科目ではアクティブラーニング（PBL，反転授業等）を積極的に取り入れて学問的・人間的な啓発を行い，保健・医療・福祉分野に従事するチームの一員として学際的な基礎的・臨床的知識を修得させる。 【学修成果の評価方法】 課題レポートや筆記試験，口頭試問，アクティブラーニングへの能動的参加状況等を総合的に評価する。	（知識・技能，関心・意欲） 学士で得た基本的な教養，専門科目の基礎学力およびコミュニケーション能力を有し，口腔保健学への深い関心をもって教育・研究分野での活躍を目指す人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 保健・医療・福祉分野に従事する専門家に求められる思考力・判断力に加え，生命の尊厳を尊重し，豊かな人間性の醸成を目指す人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 保健・医療・福祉の現場において，指導的役割を果たす意欲をもつ高度専門職業人として多職種と協働し貢献しようとする人
２．高度な専門技能 教育・研究者として問題解決型授業を主体的に行う能力や，口腔保健学研究・実験の基本的技能を有する。また，入院患者へ行う専門的口腔ケアや，保健福祉活動の場で求められる高度な専門技能を有する。	【学修内容】 専門科目には次世代の歯科衛生士教育の担い手及び研究者を養成する「教育・研究系コース」と社会が求める高度専門職業人を育成する「臨床系コース」の２コースを設け，１つを選択する。「教育・研究系コース」では，教育，とくに問題解決型授業に関する知識と能力，研究・実験の基本的技能や研究倫理に関する知識を修得し，「臨床系コース」では口腔保健の高度な臨床に求められる知識と専門技能を修得させる。 【学修方法】 社会人も含めた学生の多様な背景に応じた確実な履修が可能となるように，専門科目の講義や演習にはオムニバス形式を採用し，一部にアクティブラーニングや個別指導を実施する。 【学修成果の評価方法】 課題レポートや筆記試験，口頭試問，アクティブラーニングへの能動的参加状況等を総合的に評価する。	
３．強い責任感と指導力 学生の職業意識を培う教育担当者としての自覚を有し，科学の進歩に関心を持って継続的な生涯学習を実践できる。また，強い責任感と指導力を有し，チーム医療や医療連携を重視しながら，口腔保健を中核的に推進できる高度専門職業人として健康長寿社会に貢献できる。	【学修内容】 先進的な口腔保健・歯科医療・社会福祉技術とリサーチマインドを備えた教育・研究者や高度専門職業人養成のため，３つの専門科目に加えて，必修の口腔保健学課題研究演習を設けている。この演習では最新の研究成果を学びながら，口腔保健学の進歩に貢献できるよう自らの研究を遂行させる。 【学修方法】 各自の研究課題に応じた専門的研究を行い，得られた研究成果を分析・考察し研究成果をまとめ，修士論文を作成させる。 【学修成果の評価方法】 公開審査会において修士論文の研究発表や口頭試	

	問等を行い，評価する。	
４．国際性と問題解決能力 学際的な科学的知識と国際的視野を併せ持ち，常に最新の口腔保健関連分野の情報収集と学習に心がけ，科学的視点から口腔保健分野の課題を分析・評価し，課題を解決する能力を有する。	【学修内容】 グローバル化を見据え，全専攻系共通カリキュラムでは「英語論文作成法」を開講し，また一部の専門科目においても英語による授業を実践する。 【学修方法】 一部の専門科目の講義や研究発表に英語を組み入れ，また多くの科目や演習には英語論文の抄読を組み入れる。さらに国際交流プログラムにおいて，交換留学生との交流を積極的に担わせる。 【学修成果の評価方法】 英語による課題レポートや口頭試問，研究発表における英語による討議，国際学会への参加・発表，国際交流プログラムへの能動的参加状況などで総合的に評価する。	

口腔科学研究科　博士後期課程及び博士課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。 １．学識，研究能力及び高度専門職業能力 口腔科学における広い視野と高度な専門知識・技能を身につけ，自立して研究を遂行し後進を指導できる又は当該専門的な職業に従事できる卓越した能力を有している。 ２．倫理観，責任感，創造力，応用力、洞察力及び指導力 高い倫理観と強固な責任感,独自の発想力や豊かな創造力,広範な応用力及び深い洞察力をもって,自立して行動できるとともに、歯科臨床の現場や保健福祉活動の場で求められる高度な専門技能の応用及び他分野との連携を指導者として遂行できる。 ３．国際的発信力及び社会貢献 高度な国際的視野を有し，世界をリードする研究成果を発信するとともに,長寿社会の課題解決を通して人々の健康と福祉に貢献することができる。	口腔科学研究科では，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成することをめざし，以下の教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 専攻分野に関する卓越した専門的知識及び能力を修得させる授業科目を開設するとともに，博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。 ２．教育方法 体系的な教育課程と研究指導を通じて，自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。学位研究の中間段階から，複数教員による指導体制の場を提供する。優秀な研究活動に対する表彰制度を実施する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して形成的評価として，成績評価基準を各学年毎のアカデミックレコードの評価項目として明示し，評価を行い，最終評価は，博士論文の審査及び最終試験を厳格に行う。	口腔科学研究科では，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，卓越した歯科医学と口腔保健学の知識と技術を継承するとともに，学びの志と進取の気風をもち，未来へ飛躍する人材を育成するため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 【博士後期課程及び博士課程】 口腔科学専攻博士課程及び口腔保健学専攻博士後期課程では，口腔科学，口腔保健学ならびに隣接する分野に関する学術の理論および応用を教授研究し，幅広い科的基盤をもち，かつ専門性にも秀でた，教育・研究・臨床ならびに歯科行政などの分野で指導的役割を担う人材ならびに高度専門職業人を養成するため，次のような人物を求めています。 ●求める人物像 ・口腔科学に関する高度な専門的知識・技能と，隣接する分野にわたる広い視野を身につけ，自立して研究を遂行し後進を指導する能力，又は専門医等の資格取得につながる卓越した能力を修得しようとする人 ・高い倫理観と強固な責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力，深い洞察力を備え，　地域保健医療と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人 ・高度な国際的視野を有し，世界をリードする研究成果を発信し，他分野とも協働して高度専門分野を開拓・牽引しようとする人

（口腔科学研究科：口腔保健学専攻　博士後期課程）　【博士（口腔保健学)】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。 １．高度な理解力と課題解決能力 長寿福祉口腔保健学に関する学識と多職種連携を活用して科学的視点から関連の諸課題を解決できる。 ２．教育・研究指導能力 長寿福祉口腔保健学領域の教育を行う大学等において，倫理観を備えた教育者・研究者として指導できる。	口腔保健学専攻（博士後期課程）では，長寿福祉口腔保健学の学際領域の教育・研究を自ら構築し展開できる人材を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．履修科目は長寿福祉口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と３つの専門科目（専門基礎科目，専門展開科目，課題研究科目）から構成され，学年進行に併せた段階的な教育課程の編成としている。 ２．基礎科目として，医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキ	口腔保健学専攻では，長寿福祉口腔保健学の分野で活躍できる人材の育成を目指しています。口腔保健に関する専門的知識・技能および科学的探究心に加え，豊かな人間性や倫理観を身につけた次世代の歯科衛生士教育を担う教育研究者，または健康長寿社会の実現に貢献する高度専門職業人を養成するため，課題に対して自ら進んで取り組む主体性や社会での協働性をもった次のような人材を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲）

３．高度な専門技能と指導能力 　自らも高度な専門技能を有し，歯科臨床の場や保健福祉活動の場で求められる高度な専門技能の応用及び他分野との連携を指導者として遂行できる。 ４．国際性と情報発信能力 　長寿福祉口腔保健学領域に関連する世界の諸課題にも積極的に取り組み，得られた成果を国際社会に向けて情報発信できる。 ５．社会貢献 　長寿社会の口腔保健や社会福祉に関与して人々の健康と福祉に貢献することができる。	ュラム科目を受講し，多様な学生が学生間で切磋琢磨しながら，学際的な基礎的・臨床的知識を修得する。 ３．専門展開科目では特色を有する６領域を設定しており，このうちの２領域の専門展開科目を修得することにより，養成の目的に応じたカリキュラム体制が構築できる。 ４．グローバル化を見据えて大学院授業科目の受講や研究発表に英語を組み入れ，国際社会で通用するコミュニケーション能力を獲得させる。 ５．博士論文の作成と研究成果の発表を通じて，超高齢社会における諸問題の理解・解決能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけ，長寿福祉口腔保健学の進歩に貢献できるよう研究指導を実施する。	博士前期課程で培った研究活動を遂行する上で必要な専門分野の学力やコミュニケーション能力を有し，長寿福祉口腔保健学に対する深い関心を持って教育・研究分野での活躍を目指す人 (思考力・判断力・表現力等の能力) 　豊かな人間性と生命倫理の尊重に加え，口腔保健・栄養・社会福祉に関する卓越した思考力・判断力を身につけ，指導的役割を担う高度専門職業人を目指す人 (主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度) 　我が国の口腔保健・栄養・社会福祉分野での卓越した研究手法を修得し，その成果をアジア諸国においても展開するなど，関係する人々と協働して長寿福祉口腔保健学の発展を志す人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 　学力試験の「専門科目」では，長寿福祉口腔保健学に関する「知識・技能」「思考力・判断力」を，また「英語」では長寿福祉口腔保健学などの英文情報に関する「知識・教養」「思考力・判断力」を評価します。 　面接では、専門知識についての試問試験を含め、長寿福祉口腔保健学への「関心・意欲」「表現力」「態度・協働性」を総合的に評価します。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．高度な理解力と課題解決能力 　長寿福祉口腔保健学に関する学識と多職種連携を活用して科学的視点から関連の諸課題を解決できる。	【学修内容】 　長寿福祉口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と３つの専門科目（専門基礎科目，専門展開科目，課題研究科目）を，学年進行に合わせて段階的に開講し，長寿福祉口腔保健学に関する学識と情報収集能力・分析能力を修得させる。 【学修方法】 　共通カリキュラム科目では他専攻の大学院生とともに学ぶ内容を取り入れ多職種連携教育（IPE）を実践している。特に本科目ではアクティブラーニング（PBL，反転授業）を積極的に取り入れて学問的・人間的な啓発を行い，保健医療・福祉に従事するチームの一員として諸問題を解決できる能力を修得させる。 【学修成果の評価方法】 　英語による筆記試験，レポート，口頭試問，アクティブラーニングへの能動的参加状況等を総合的に評価する。	(知識・技能，関心・意欲) 　博士前期課程で培った研究活動を遂行する上で必要な専門分野の学力やコミュニケーション能力を有し，長寿福祉口腔保健学に対する深い関心を持って教育・研究分野での活躍を目指す人 (思考力・判断力・表現力等の能力) 　豊かな人間性と生命倫理の尊重に加え，口腔保健・栄養・社会福祉に関する卓越した思考力・判断力を身につけ，指導的役割を担う高度専門職業人を目指す人 (主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度) 　我が国の口腔保健・栄養・社会福祉分野での卓越した研究手法を修得し，その成果をアジア諸国においても展開するなど，関係する人々と協働して長寿福祉口腔保健学の発展を志す人
２．教育・研究指導能力 　長寿福祉口腔保健学領域の教育を行う大学等において，倫理観を備えた教育者・研究者として指導できる。	【学修内容】 　長寿福祉口腔保健学領域の教育者・研究者養成を目的に６つの演習科目から二つを選択し，教育に関する知識と手法，研究倫理に関する知識・技能を修得させる。 【学修方法】 　社会人も含めた学生の多様な背景に応じた確実な履修が可能となるように，上記演習にはオムニバス形式を採用し，すべての科目において英語論文の抄読を組み入れる。 【学修成果の評価方法】 　英語による筆記試験，レポート，口頭試問，少人数グループ討議への能動的参加状況等を総合的に評価する。	
３．高度な専門技能と指導能力 　自らも高度な専門技能を有し，歯科臨床の場や保健福祉活動の場で求められる高度な専門技能の応用及び他分野との連携を指導者として遂行できる。	【学修内容】 　高度な専門職職業人の養成を目的に６つの選択科目（特別研究）から１科目以上選択し，研究指導者のもとに研究課題を遂行させる。 【学修方法】 　各自の研究課題に応じた専門的研究を行い，得られた研究成果を分析・考察し研究成果を広く公表するとともに博士論文（英語）を作成させる。 【学修成果の評価方法】 　博士論文の作成・英文雑誌への投稿・採択の可否・審査会における発表をもって評価する。	
４．国際性と情報発信能力 　長寿福祉口腔保健学領域に関連する世界の諸課題にも積極的に取り組み，得られた成果を国際社会に向けて情報発信できる。	【学修内容】 　グローバル化を見据え，共通カリキュラムでは「英語論文作成法」を開講し，また多くの専門基礎科目でも英語による授業を実施する。 【学修方法】	

	大学院授業科目の受講や研究発表に英語を組み入れ，さらにすべての科目において英語論文の抄読を組み入れる。また，国際交流プログラムにおいても交換留学生との合同授業やグループディスカッションに積極的に参加させ，英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。 【学修成果の評価方法】 英語による口頭試問，研究発表における英語の討議，レポート，国際交流プログラムへの能動的参加状況などで総合的に評価する。	
５．社会貢献 長寿社会の口腔保健や社会福祉に関与して人々の健康と福祉に貢献することができる。	【学修内容】 「口腔保健栄養福祉学特論」を必修とし，口腔機能を踏まえた栄養学や社会福祉学に関する制度の基本とその現状を修得させる。 【学修方法】 英語によるオムニバス方式の授業とし，実践的な統計関連学や保健医療・福祉に関連するトピックスについて学び，これらの知識を活用して長寿社会の課題を解決する手法を修得させる。また，各指導者は積極的にアクティブラーニング（多職種によるグループディスカッション）を取り入れて学生の課題可決能力を向上させ，最終的に人々の健康と福祉に貢献できる人材を育成する。 【学修成果の評価方法】 英語によるレポートと筆記試験，アクティブラーニングへの能動的参加状況等で総合的に評価する。	

（口腔科学研究科：口腔保健学専攻　博士後期課程）　【博士（学術）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。 １．高度な理解力と課題解決能力 長寿福祉口腔保健学に関する諸問題に対して情報収集と分析を行い，科学的視点から保健医療・福祉に従事するチームの一員として関連の諸課題を解決できる。 ２．教育・研究指導能力 長寿福祉口腔保健学領域の教育と研究を行う大学等において，その領域を展開できる教育者・研究者として指導できる。 ３．高度な専門技能と指導能力 口腔保健と地域医療福祉に関連する高度な専門技能を有し，医療と福祉の現場において両者の知識と技能を駆使した解決策を見いだし，指導的立場から実践できる。 ４．国際性と情報発信能力 国際社会における口腔保健と社会福祉に関する諸問題に対して情報収集能力と分析能力を有し，あわせて高度なコミュニケーション力を活用してその対策を立案し，国際社会に向けて発信できる。 ５．社会貢献 口腔保健から見た栄養学や地域社会福祉制度に関する研究成果を広く社会に開示することで人々の健康と福祉に貢献することができる。	口腔保健学専攻（博士後期課程）では，長寿福祉口腔保健学の学際領域の教育・研究を自ら構築し展開できる人材を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．履修科目は長寿福祉口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と３つの専門科目（専門基礎科目，専門展開科目，課題研究科目）から構成され，学年進行に併せた段階的な教育課程の編成としている。 ２．基礎科目として，医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講し，多様な学生が学生間で切磋琢磨しながら，学際的な基礎的・臨床的知識を修得する。 ３．専門展開科目では特色を有する６領域を設定しており，このうちの２領域の専門展開科目を修得することにより，養成の目的に応じたカリキュラム体制が構築できる。	口腔保健学専攻では，長寿福祉口腔保健学の分野で活躍できる人材の育成を目指しています。口腔保健に関する専門的知識・技能および科学的探究心に加え，豊かな人間性や倫理観を身につけた次世代の歯科衛生士教育を担う教育研究者，または健康長寿社会の実現に貢献する高度専門職業人を養成するため，課題に対して自ら進んで取り組む主体性や社会での協働性をもった次のような人材を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 博士前期課程で培った研究活動を遂行する上で必要な専門分野の学力やコミュニケーション能力を有し，長寿福祉口腔保健学に対する深い関心を持って教育・研究分野での活躍を目指す人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 豊かな人間性と生命倫理の尊重に加え，口腔保健・栄養・社会福祉に関する卓越した思考力・判断力を身につけ，指導的役割を担う高度専門職業人を目指す人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 我が国の口腔保健・栄養・社会福祉分野での卓越した研究手法を修得し，その成果をアジア諸国においても展開するなど，関係する人々と協働して長寿福祉口腔保健学の発展を志す人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 学力試験の「専門科目」では，長寿福祉口腔保健学に関する「知識・技能」「思考力・判断力」を，また「英語」では長寿福祉口腔保健学などの英文情報に関する「知識・教養」「思考力・判断力」を評価します。 面接では、専門知識についての試問試験を含め，長寿福祉口腔保健学への「関心・意欲」「表現力」「態度・協働性」を総合的に評価します。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．高度な理解力と課題解決能力 長寿福祉口腔保健学に関する諸問題に対して	【学修内容】 長寿福祉口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と	（知識・技能，関心・意欲） 博士前期課程で培った研究活動を遂行する上

情報収集と分析を行い，科学的視点から保健医療・福祉に従事するチームの一員として関連の諸課題を解決できる。	３つの専門科目（専門基礎科目，専門展開科目，課題研究科目）を，学年進行に合わせて段階的に開講し，長寿福祉口腔保健学に関する学識と情報収集能力・分析能力の修得を目指す。 【学修方法】 共通カリキュラム科目では他専攻の大学院生とともに学ぶ内容を取り入れ多職種連携教育（IPE）を実践する。特に本科目では積極的にアクティブラーニング（PBL，反転授業）を取り入れて学問的・人間的な啓発を行い，保健医療・福祉に従事するチームの一員として諸問題を解決できる能力を修得させる。 【学修成果の評価方法】 英語による筆記試験，レポート，口頭試問，アクティブラーニングへの能動的参加状況等を総合的に評価する。	で必要な専門分野の学力やコミュニケーション能力を有し，長寿福祉口腔保健学に対する深い関心を持って教育・研究分野での活躍を目指す人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 豊かな人間性と生命倫理の尊重に加え，口腔保健・栄養・社会福祉に関する卓越した思考力・判断力を身につけ，指導的役割を担う高度専門職業人を目指す人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 我が国の口腔保健・栄養・社会福祉分野での卓越した研究手法を修得し，その成果をアジア諸国においても展開するなど，関係する人々と協働して長寿福祉口腔保健学の発展を志す人
２．教育・研究指導能力 長寿福祉口腔保健学領域の教育と研究を行う大学等において，その領域を展開できる教育者・研究者として指導できる。	【学修内容】 長寿福祉口腔保健学領域の教育者・研究者養成を目的に６つの専門展開科目（演習）から二つを選択し，教育に関する知識と手法，研究倫理に関する知識・技能を修得する。なお「博士（学術）」の学位付与にあたっては専門展開科目として「口腔保健福祉学特別演習」または「地域医療福祉学特別演習」を履修した学生を対象とする。 【学修方法】 社会人も含めた学生の多様な背景に応じた確実な履修が可能となるように，上記６つの専門展開科目（演習）にはオムニバス形式を採用し，個別指導を取り入れている。また，全ての科目に英語論文の抄読を組み入れる 【学修成果の評価方法】 英語による筆記試験，レポート，口頭試問，少人数グループ討議への能動的参加状況等を総合的に評価する。	
３．高度な専門技能と指導能力 口腔保健と地域医療福祉に関連する高度な専門技能を有し，医療と福祉の現場において両者の知識と技能を駆使した解決策を見いだし，指導的立場から実践できる。	【学修内容】 高度な専門職職業人の養成を目的に６つの選択科目（特別研究）から１科目以上選択し，研究指導者のもとに研究課題を遂行させる。なお「博士（学術）」の学位付与に当たっては課題研究科目において「口腔保健福祉学特別研究」または「地域医療福祉学特別研究」を履修した学生を対象とする。 【学修方法】 各自の研究課題に応じた専門的研究を行い，得られた研究成果を分析・考察し研究成果を広く公表するとともに博士論文（英語）を作成させる。 【学修成果の評価方法】 博士論文の作成・英文雑誌への投稿・採択の可否・審査会における発表をもって評価する。	
４．国際性と情報発信能力 国際社会における口腔保健と社会福祉に関する諸問題に対して情報収集能力と分析能力を有し，あわせて高度なコミュニケーション力を活用してその対策を立案し，国際社会に向けて発信できる。	【学修内容】 グローバル化を見据え，共通カリキュラムでは「英語論文作成法」を開講し，また多くの専門基礎科目でも英語による授業を実践する。 【学修方法】 大学院授業科目の受講や研究発表に英語を組み入れ，さらにすべての科目において英語論文の抄読を組み入れる。また国際交流プログラムにおいても交換留学生との合同授業やグループディスカッションに積極的に参加させ，英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。 【学修成果の評価方法】 英語による口頭試問，研究発表における英語の討議，レポート，国際交流プログラムへの能動的参加状況などで総合的に評価する。	
５．社会貢献 口腔保健から見た栄養学や地域社会福祉制度に関する研究成果を広く社会に開示することで人々の健康と福祉に貢献することができる。	【学修内容】 「口腔保健栄養福祉学特論」を必修とし，口腔機能を踏まえた栄養学や社会福祉学に関する制度の基本とその現状を修得させる。 【学修方法】 英語によるオムニバス方式の授業とし，実践的な統計関連学や保健医療・福祉に関連するトピックスについて学び，これらの知識を活用して長寿社会の課題を解決する手法を修得する。また各指導者は積極的にアクティブラーニング（多職種によるグループディスカッション）を取り入れて学生の課題可決能力を向上させ，最終的に人々の健康と福祉に貢献できる人材を育成する。 【学修成果の評価方法】 英語によるレポートと筆記試験，アクティブラーニングへの能動的参加状況等で総合的に評価する。	

（口腔科学研究科：口腔科学専攻　博士課程）　【博士（歯学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。 幅広い科学的基盤を持ち，口腔科学に関する研究を立案，実行するとともに，実践的な英語能力を含め，国際社会で活躍できる人材。加えて，各種専門医取得のために基本的ならびに先進的な臨床経験を積むとともに，生命倫理・研究倫理を理解し，ヒトを対象とした臨床研究から，臨床の科学的根拠見出せる人材。 修得すべき能力は以下のとおりである。 １．高度な理解力 口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解できる能力 ２．国際性と課題解決能力 科学的思考に基づいた論理展開を行い，倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力 ３．新たな可能性の探索能力 固定概念にとらわれない自由な発想により，新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力 ４．高度専門技術 修得した幅広い学識と高度な臨床・研究能力に基づき，口腔関連領域の研究指導ができるとともに，高度専門技術とリサーチマインドを備えた医療人として臨床教育，臨床研究指導ができる能力	口腔科学専攻（博士課程）では，国際的に通用する研究者及びリサーチマインドを備えた専門的医療人を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目の学習を通じて，広い視野から基礎的・臨床的知識を習得させ，医学系研究者としての倫理観を育成する。（基盤的な知識と倫理観） ２．口腔科学に関する各専門分野の講義，演習，実験実習を展開させ，歯科医療の進歩に寄与できる口腔科学研究のエキスパートとしての能力を獲得させる。（専門的知識） ３．口腔科学における課題を見出し，研究活動を通して問題解決能力を育成する。（課題解決能力） ４．英語による大学院授業科目の受講や研究発表を通して，国際社会で通用するコミュニケーション能力を獲得させる。（国際性） ５．先端医学を学びながら口腔科学の進歩に貢献できる基盤的研究を展開し，国際的に活躍できる研究者を育成できるカリキュラム構成とするとともに，先進的な歯科医療技術とリサーチマインドを備えた専門的医療人養成のため，種々の臨床技術（診断，検査，治療など）を習得させ，ヒトを対象とした臨床研究を行いながら，高度な歯科専門教育の指導者を養成できるカリキュラム構成とする。	口腔科学専攻では，口腔科学ならびに隣接する分野に関する学術の理論および応用を教授研究し，幅広い科学的基盤をもち，かつ専門性にも秀でた，教育・研究・臨床ならびに歯科行政などの分野で指導的役割を担う人材の養成を目指しています。そのために，次のような人物を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 口腔科学に関する興味と情熱に溢れ，歯学科課程（6 年制）で修得すべきレベルの口腔科学および歯科臨床についての高度な専門的知識と技能を有し，これをさらに磨くことにより後進を指導する能力を身につけ，口腔科学の進歩と社会的課題の解決に意欲を燃やす人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 生命倫理を尊重し，論理的思考と科学的根拠に基づく歯科医療の開発と実践を志す人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 自立して社会や地域の問題に向き合い，その課題解決のために他者の意見を真摯に受けとめ，協働して国際社会や地域社会の発展に貢献しようする人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 個別学力検査では，主として専門分野に係る語学力を含めた知識・技能を評価します。 「専門科目」試験では，人体と口腔の構造・機能，歯と口腔の健康と疾患発症に関する生命科学，臨床歯科医学に関する歯学科課程（6 年制）で修得するレベルの専門的な問題とします。 「英語」試験では，一般医学・歯学の全般に関わる英文情報の理解を問う問題とします。 面接では，専門知識と技能に関する試問試験を含め，歯学・口腔科学への関心・意欲，思考力・判断力・表現力，倫理観，主体性，協働性を総合的に評価します。 社会人特別入試 社会の現場で活躍している開業医及び勤務医，大学院修士課程修了後，研究又は医療業務などに従事している社会人等に対し，リカレント教育の門戸を開く目的で，入学時の学力試験を免除した特別入試を実施します。 面接では，専門知識と技能に関する試問験を含め，　先端の歯学・口腔科学への強い関心・学習意欲と合わせて　，思考力・判断力・表現力，倫理観，主体性，協働性を総合的に評価します。入学後，在学中に語学試験（英語）に合格することが要求されます。 外国人留学生特別入試 英語での学習を希望する外国人に向け，筆記試験（専門科目・語学）と面接を英語によって実施します。評価の基準は一般入試と同じです。 GRE(Graduate Record Examination)等を課す外国人留学生特別入試 入学試験を受験するために来日することが困難な外国人に対して実施します。選考は，GRE 及び TOEFL の成績並びに出願書類に基づく書類審査の結果を総合して判定します。GRE と TOEFL の成績は 2 年以内のものを用います。なお英語が母国語の応募者には TOEFL は免除します。 モンゴルと ASEAN 諸国における国際高度医療人育成プログラム特別入試 日本国政府奨学金により，　徳島大学大学院

		（医学，医科栄養学，保健科学，口腔科学，薬学）研究科において博士号の取得を目指す外国人で，指定の国籍を保有し新たに海外から留学を希望する者を対象に実施します。直近過去 2 年間の学業成績係数が 2.30 以上で十分な英語能力（英語能力証明書を提出）が条件となり，採用は徳島大学からの推薦に基づき文部科学省が決定します。 統合医療学際教育英語プログラム私費外国人留学生特別入試 本プログラムでは21 世紀における世界的課題である人間環境，栄養，保健，感染予防並びに医薬の分野における諸問題に対応できるように，世界の各国で活躍できる教育・研究者及び行政の専門家を育成することを目的として，医学，栄養学，保健学，歯学，薬学に関する講義・実習・セミナーを全て英語で行います 。入学選抜は，指導予定教授による推薦調書と 3 名以上の面接教員によるインターネットインタビューの結果に基づき，本研究科教授会で決定されます。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
1．高度な理解力 口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解できる能力	【学修内容】 口腔科学に関する高度な理解力を修得するために，シラバスから講義，実験，実習を選択させる。さらに，随時開催される最新研究を踏まえた講義，セミナーなどを有効に活用するとともに，実験，実習では最新技術，高度な専門技術を積極的に習得できる学修内容を設定する。ならびに臨床実地の中から得られる知識とともに，最新臨床歯学の研究動向を十分に理解できる学修内容を盛り込む。 【学修方法】 講義，演習，実験，実習，アクティブラーニングなどを中心に，個々の能力，目標に沿った学修方法を設定する。中間発表会では，複数の指導教員による研究の方向性についての確認を行い，研究の質ならびに発展性を検討する。また，英語による理解力を深める学修指導を実践する。 【学修成果の評価方法】 試験，口頭試問，レポート，実習，英文論文作成， 学会への能動的参加状況などについてのアカデミックレコードを総合的に評価する。	（知識・技能，関心・意欲） 口腔科学に関する興味と情熱に溢れ，歯学科課程（6 年制）で修得すべきレベルの口腔科学および歯科臨床についての高度な専門的知識と技能を有し，これをさらに磨くことにより後進を指導する能力を身につけ，口腔科学の進歩と社会的課題の解決に意欲を燃やす人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 生命倫理を尊重し，論理的思考と科学的根拠に基づく歯科医療の開発と実践を志す人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 自立して社会や地域の問題に向き合い，その課題解決のために他者の意見を真摯に受けとめ，協働して国際社会や地域社会の発展に貢献しようする人
2．国際性と課題解決能力 科学的思考に基づいた論理展開を行い、倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力	【学修内容】 国際性と課題解決能力を修得させるために，最新研究の理解，研究課題に関する方針などを十分に検討するとともに，科学的思考を植え付け，研究者としての基本的能力を開発する。また，研究倫理を十分に身につけることができる学修内容を提案する。また，臨床医科学概論や先端口腔医科学特論など国際性および地域性を兼ね備えた医療人として，十分な課題解決能力を修得できる学修内容を設定する。 【学修方法】 講義，演習，実験，実習，アクティブラーニングなどを中心に，個々の能力，目標に沿った学修方法を設定する。各学修項目に英語による内容を盛り込む。また， 国内外の学会への参加を促進させることによって，国際性ならびに課題解決能力を修得させる。さらに，研究倫理の講義などに注力する。英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。中間発表会では， 英語による発表を行い，国際性への対応を学習させる。 【学修成果の評価方法】 試験，口頭試問，レポート，実習，英語論文作成， 学会への能動的参加状況などについてのアカデミックレコードを総合的に評価する。	
3．新たな可能性の探索能力 固定概念にとらわれない自由な発想により，新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力	【学修内容】 新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力を養うために，指導教員とのコミュニケーションを十分にとりながら，研究の進捗を議論することによって，発展的な進展を目指し，探索能力を培う学修内容を設定する。さらに，臨床研究の発展性を探索する契機になるような学修内容を設定する。 【学修方法】 講義，演習，実験，実習，アクティブラーニングなどを中心に，個々の能力，目標に沿った学修方法を設定する。中間発表会では，多様な研究に触れ，新たな可能性の探索を図る。 【学修成果の評価方法】 試験，口頭試問，レポート，実習，英文論文作成， 学会への能動的参加状況などについてのアカデミック	

	レコードを総合的に評価する。	
４．高度専門技術 　修得した幅広い学識と高度な臨床・研究能力に基づき，口腔関連領域の研究指導ができるとともに，高度専門技術とリサーチマインドを備えた医療人として臨床教育，臨床研究指導ができる能力	【学修内容】 リサーチマインドを備えた医療人の育成を目指して，研究課題とともに幅広い異分野の研究内容，実験技術を身につけることのできる学修内容を設定する。英語論文作成技術の修得にも務めさせる。幅広い臨床研究が実践でき，さらに，指導者としてのコースワークを修得できる学修内容を設定する。 【学修方法】 講義，演習，実験，実習，アクティブラーニング， 学内外のセミナーなどを中心に，個々の能力，目標に沿った，高度専門技術の修得に必要な学修方法を設定する。 【学修成果の評価方法】 試験，口頭試問，レポート，実習，英文論文作成， 学会への能動的参加状況などについてのアカデミックレコードを総合的に評価する。	

（口腔科学研究科：口腔科学専攻　博士課程）　【博士（学術）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。 科学的・学際的基盤を持ち，口腔科学領域にとらわれず，幅広い分野で研究を立案，実行するとともに，実践的な英語能力を持った，国際社会で活躍できる人材。 修得すべき能力は以下のとおりである。 １．高度な理解力 口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解できる能力 ２．国際性と課題解決能力 科学的思考に基づいた論理展開を行い、倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力 ３．新たな可能性の探索能力 固定概念にとらわれない自由な発想により，新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力 ４．高度専門技術 修得した高度な専門知識・研究技術と経験に基づき，口腔領域にとらわれず幅広い分野で研究指導ができる能力	口腔科学専攻（博士課程）では，国際的に通用する研究者及びリサーチマインドを備えた専門的医療人を養成することをめざし，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目の学習を通じて，広い視野から基礎的・臨床的知識を習得させ，医学系研究者としての倫理観を育成する。（基盤的な知識と倫理観） ２．口腔科学に関する各専門分野の講義，演習，実験実習を展開させ，歯科医療の進歩に寄与できる口腔科学研究のエキスパートとしての能力を獲得させる。（専門的知識） ３．口腔科学における課題を見出し，研究活動を通して問題解決能力を育成する。（課題解決能力） ４．英語による大学院授業科目の受講や研究発表を通して，国際社会で通用するコミュニケーション能力を獲得させる。（国際性） ５．先端医学を学びながら口腔科学の進歩に貢献できる基盤的研究を展開し，国際的に活躍できる研究者を育成できるカリキュラム構成とする。	口腔科学専攻では，口腔科学ならびに隣接する分野に関する学術の理論および応用を教授研究し，幅広い科学的基盤をもち，かつ専門性にも秀でた，教育・研究・臨床ならびに歯科行政などの分野で指導的役割を担う人材の養成を目指しています。そのために，次のような人物を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 口腔科学に関する興味と情熱に溢れ，歯学科課程（6 年制）で修得すべきレベルの口腔科学および歯科臨床についての高度な専門的知識と技能を有し，これをさらに磨くことにより後進を指導する能力を身につけ，口腔科学の進歩と社会的課題の解決に意欲を燃やす人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 生命倫理を尊重し，論理的思考と科学的根拠に基づく歯科医療の開発と実践を志す人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 自立して社会や地域の問題に向き合い，その課題解決のために他者の意見を真摯に受けとめ，協働して国際社会や地域社会の発展に貢献しようする人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 個別学力検査では，主として専門分野に係る語学力を含めた知識・技能を評価します。 「専門科目」試験では，人体と口腔の構造・機能，歯と口腔の健康と疾患発症に関する生命科学，臨床歯科医学に関する歯学科課程（6 年制）で修得するレベルの専門的な問題とします。 「英語」試験では，一般医学・歯学の全般に関わる英文情報の理解を問う問題とします。 面接では，専門知識と技能に関する試問試験を含め，歯学・口腔科学への関心・意欲，思考力・判断力・表現力，倫理観，主体性，協働性を総合的に評価します。 外国人留学生特別入試 英語での学習を希望する外国人に向け，筆記試験（専門科目・語学）と面接を英語によって実施します。評価の基準は一般入試と同じです。 GRE(Graduate Record Examination)等を課す外国人留学生特別入試 入学試験を受験するために来日することが困難な外国人に対して実施します。選考は，GRE 及び TOEFL の成績並びに出願書類に基づく書類審査の結果を総合して判定します。GRE と TOEFL の成績は 2 年以内のものを用います。なお英語が母国語の応募者には TOEFL は免除します。 統合医療学際教育英語プログラム私費外国人留学生特別入試 本プログラムでは21 世紀における世界的課題である人間環境，栄養，保健，感染予防並びに医薬の分野における諸問題に対応できるように，世界の各国で活躍できる教育・研究者及び行政の専門家を育成することを目的として，医学，栄養学，保健学，歯学，薬学に関する講義・実習・セミナーを全て英語で行います。入学選抜は，指導予定教授による推薦調書と 3 名以上の面接教員によるインターネットインタビューの結果に基づき，本研究科教授会で決定されます。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．高度な理解力 口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解できる能力	【学修内容】 口腔科学に関する高度な理解力を修得するために，最新研究を踏まえた講義，セミナーなどを有効に活用するとともに，実験，実習では最新技術，高度な専門	（知識・技能，関心・意欲） 口腔科学に関する興味と情熱に溢れ，歯学科課程（6 年制）で修得すべきレベルの口腔科学お

	技術を積極的に修得できる学修内容を設定する。先端口腔科学特論などで最新臨床歯学とともに生命科学の研究動向を十分に理解できる学修内容を盛り込む。 【学修方法】 講義，演習，実験，実習，アクティブラーニングなどを中心に，個々の能力，目標に沿った学修方法を設定する。英語による理解力を深める学修指導を実践する。 【学修成果の評価方法】 試験，口頭試問，レポート，実習，英文論文作成，学会への能動的参加状況などについてのアカデミックレコードを総合的に評価する。	よび歯科臨床についての高度な専門的知識と技能を有し，これをさらに磨くことにより後進を指導する能力を身につけ，口腔科学の進歩と社会的課題の解決に意欲を燃やす人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 生命倫理を尊重し，論理的思考と科学的根拠に基づく歯科医療の開発と実践を志す人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 自立して社会や地域の問題に向き合い，その課題解決のために他者の意見を真摯に受けとめ，協働して国際社会や地域社会の発展に貢献しようする人
２．国際性と課題解決能力 科学的思考に基づいた論理展開を行い、倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力	【学修内容】 国際性と課題解決能力を修得させるために，最新研究の理解，研究課題に関する方針などを十分に検討するとともに，科学的思考を植え付け，研究者としての基本的能力を開発する。また，研究倫理を十分に身につけることができる学修内容を提案する。 【学修方法】 講義，演習，実験，実習，アクティブラーニングなどを中心に，個々の能力，目標に沿った学修方法を設定する。各学修項目に英語による内容を盛り込む。また，国内外の学会への参加を促進させることによって，国際性ならびに課題解決能力を修得させる。さらに，研究倫理の講義などに注力する。英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。 【学修成果の評価方法】 試験，口頭試問，レポート，実習，英文論文作成，学会への能動的参加状況などについてのアカデミックレコードを総合的に評価する。	
３．新たな可能性の探索能力 固定概念にとらわれない自由な発想により，新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力	【学修内容】 新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力を養うために，指導教員とのコミュニケーションを十分にとりながら，研究の進捗を議論することによって，発展的な進展を目指し，探索能力を培う学修内容を設定する。 【学修方法】 講義，演習，実験，実習，アクティブラーニングなどを中心に，個々の能力，目標に沿った学修方法を設定する。 【学修成果の評価方法】 試験，口頭試問，レポート，実習，英文論文作成，学会への能動的参加状況などについてのアカデミックレコードを総合的に評価する。	
４．高度専門技術 修得した高度な専門知識・研究技術と経験に基づき，口腔領域にとらわれず幅広い分野で研究指導ができる能力	【学修内容】 リサーチマインドを備えた医療人の育成を目指して，研究課題とともに幅広い異分野の研究内容，実験技術を身につけることのできる学修内容を設定する。英語論文作成技術の修得にも務める。さらに，指導者としてのコースワークを修得できる学修内容を設定する。 【学修方法】 講義，演習，実験，実習，アクティブラーニングなどを中心に，個々の能力，目標に沿った学修方法を設定する。 【学修成果の評価方法】 試験，口頭試問，レポート，実習，英文論文作成，学会への能動的参加状況などについてのアカデミックレコードを総合的に評価する。	

薬学研究科

大学院の目的（大学院学則　第１条）
徳島大学大学院は，徳島大学の目的使命に則り，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究め，もって文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。

薬学研究科の教育研究上の目的（薬学研究科規則から抜粋）
本研究科における各専攻の教育研究上の目的は，次のとおりとする。 (1)　創薬科学専攻は，創薬科学に関する体系的な教育及び研究指導を通して，広い視野及び国際的に通用する力量を持った創薬・製薬の研究を遂行できる人材の養成を目的とする。 (2)　薬学専攻は，医療現場に直結した研究指導及び臨床薬剤師としてのリスクマネジメント等の実務実習を通して，最先端の薬物治療を支える研究実践能力を備えた高度な職能を有し，国民の健康増進に寄与する指導的薬剤師及び医療薬学研究者の養成を目的とする。

薬学研究科　博士前期課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次に掲げる目標を達成した学生に修士の学位を授与します。 １．学識，研究能力及び高度専門職業能力 幅広い教養と論理的思考を備え，創薬科学の専門知識を体系的に修復し，創薬に関する問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に展開する能力に加え，専門的な職業に従事できる高度な能力を有している。 ２．倫理観及び責任感 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い医療倫理観・責任感を備え，創薬科学の分野において自立して行動できる。 ３．国際的発信力及び社会貢献 国際社会で通用するコミュニケーション能力を身につけ，世界水準を目指す研究を通じて，創薬・製薬・育薬の研究者，技術者として社会に貢献することができる。	薬学研究科では，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の教育方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 創薬科学分野の知識を体系的に修得し，関連分野の研究展開能力を高めるため，複数教員による分野横断的創薬関連８特論を提供するとともに，国際コミュニケーション力を醸成するため，英語論文作成科目を設置する。さらに，医療倫理観醸成に関する講義を配し，人権，生命倫理，個人情報保護，実験動物愛護に関する基本的知識を修得させる。 ２．教育方法 体系的な教育課程と指導教員制度による教育指導を通じて骨太かつきめ細やかな指導体制を実現する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文の審査及び最終試験を適切に行う。	薬学研究科では，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，創薬・製薬および医療薬学の知識と技術を継承するとともに，志気と向上心をもち，高い倫理観と責任感を備え，薬学への見識のある人材を養成するため，課題に対し自ら積極的に取り組む行動力，社会の多様性を理解できる能力，協調性をもった次のような人を求めています。 【博士前期課程】 博士前期課程では，創薬・製薬に関心を持ち，専攻分野に関する研究を通じて社会に貢献する意欲のある者で，未知の課題に対し自ら研究計画を立案でき，問題解決能力・研究推進能力を備えた国際的に通用する研究者および薬学教育者を目指す人を求めています。 ●求める人物像 ・創薬・製薬研究を学ぶために必要な専門的知識と論理的思考を備え，明確な問題意識をもって研究を進める能力に加え，専門的な職業に従事できる高度な能力を修得しようとする人 ・創薬・製薬研究の専門家として，修得した知識・教養を基盤に思考を深化，展開し，科学的根拠に基づいて未知の課題に対して適切な解法を見いだせる素養を有する人 ・世界に通用する研究成果の発信を通じて，地域の発展や医療の深化・発展のために貢献しようとする人

（薬学研究科：創薬科学専攻博士前期課程）　　【修士（薬科学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次に掲げる目標を達成した学生に修士の学位を授与します。 １．学識，研究能力及び高度専門職業能力 幅広い教養と論理的思考を備え，創薬科学の専門知識を体系的に修復し，創薬に関する問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に展開する能力に加え，専門的な職業に従事できる高度な能力を有している。 ２．倫理観及び責任感 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を備え，創薬科学の分野において自立して行動できる。 ３．国際的発信力及び社会貢献 国際社会で通用するコミュニケーション能力を身につけ，世界水準を目指す研究を通じて，創薬・製薬・育薬の研究者，技術者として社会に貢献することができる。	創薬科学専攻では，創薬科学の専門知識を体系的に学習し，深い探究心や豊かな創造力及び国際的に通用する力量を身につけ，高い応用力，洞察力，国際コミュニケーション力，医療倫理観を併せ持つ創薬・製薬研究者を養成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 創薬科学分野の知識を体系的に修得し，関連分野の研究展開能力を高めるため，複数教員による分野横断的創薬関連８特論を提供するとともに，国際コミュニケーション力を醸成するため，英語論文作成科目を設置する。さらに，医療倫理観醸成に関する講義を配し，人権，生命倫理，個人情報保護，実験動物愛護に関する基本的知識を修得させる。 ２．教育方法 体系的な教育課程と指導教員制度による教育指導を通じて骨太かつきめ細やかな指導体制を実現する ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文の審査及び最終試験を適切に行う。	創薬科学専攻では，生命科学に根ざした創薬・製薬に関心を持ち，専攻分野に関する未知の課題に対し自ら研究計画を立案でき，主体的に課題に取り組むことで，問題解決能力・学際的な研究推進能力を備えた国際的に通用する研究者および薬学教育者の育成をめざしています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 創薬・製薬研究を学ぶために必要な，薬学の広範な知識・技能を有する人 創薬・製薬研究に関わる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり，自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 創薬・製薬研究の専門家として，習得した知識・教養を基盤に思考を深化，展開し，科学的根拠に基づいて未知の課題に対して適切な解法を見いだせる素養を有する人 自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に，相手の視点に立って表現できる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 創薬・製薬研究の専門家として，他分野の人と協働でき，活躍できる素養を有する人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 出願書類により知識・技能，関心・意欲，態度を評価します。個別学力検査では，生命科学分野に関する設問に筆答させることで，思考力・判断力・表現力を評価します。これらの結果を総合して判定します。 社会人特別入試 出願書類により知識・技能，関心・意欲，態度を評価します。個別学力検査では，生命科学分野に関する設問に筆答させることで，思考力・判断力・表現力を評価します。これらの結果を総合して判定します。 外国人留学生特別入試 出願書類により知識・技能，関心・意欲，態度を評価します。個別学力検査では，生命科学分野に関する設問に筆答させることで，思考力・判断力・表現力を評価します。さらに志望する研究室分野の研究概要に対する知識と見識を筆答させ，これらの結果を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．学識，研究能力及び高度専門職業能力
幅広い教養と論理的思考を備え，創薬科学の専門知識を体系的に修復し，創薬に関する問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に展開する能力に加え，専門的な職業に従事できる高度な能力を有している。</td><td>【学修内容】
複数教員による全専攻系共通カリキュラム科目，各専攻系間共通カリキュラム科目および専門科目の履修を通し，幅広い領域に触れる学修を実施する。

【学修方法】
講義については，対面又は e-learning の形式で行う。

【学修成果の評価方法】
レポートを主に，試験，出席率等を含め客観的に評価する。</td><td rowspan="3">（知識・技能，関心・意欲）
創薬・製薬研究を学ぶために必要な，薬学の広範な知識・技能を有する人
創薬・製薬研究に関わる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり，自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人

（思考力・判断力・表現力等の能力）
創薬・製薬研究の専門家として，習得した知識・教養を基盤に思考を深化，展開し，科学的根拠に基づいて未知の課題に対して適切な解法を見いだせる素養を有する人
自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に，相手の視点に立って表現できる人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
創薬・製薬研究の専門家として，他分野の人と協働でき，活躍できる素養を有する人</td></tr>
<tr><td>２．倫理観及び責任感
コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を備え，創薬科学の分野において自立して行動できる。</td><td>【学修内容】
薬科学演習１および薬科学特別研究による教員との交流・指導を通じて高い倫理観・責任感を備え，創薬科学の分野において自立して行動できる学修を実施する。

【学修方法】
演習，実習，実験等の必修科目における少人数指導。修士論文の作成指導。

【学修成果の評価方法】
修士論文を審査によって評価する。
ルーブリック評価表を作成し，到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>３．国際的発信力及び社会貢献
国際社会で通用するコミュニケーション能力を身につけ，世界水準を目指す研究を通じて，創薬・製薬・育薬の研究者，技術者として社会に貢献することができる。</td><td>【学修内容】
英語によって誌上，口頭発表し国際社会でコミュニケーションできるスキルを学修する。

【学修方法】
講義・プレゼンテーションやディスカッションを行う。

【学修成果の評価方法】
レポート等によって到達度を客観的に評価する。
ルーブリック評価表を作成し，到達度を客観的に評価する。</td></tr>
</table>

薬学研究科　博士後期課程及び博士課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与します。 １．学識，研究能力及び高度専門職業能力 広範な教養と最先端の薬学に関する知識・技能を身につけ，未知の課題に対し自ら研究計画を立案し，問題解決を図ることができる研究能力を有する。さらに博士後期課程では後進を指導できる又は当該専門的な職業に従事できる卓越した能力を，博士課程では臨床薬剤師，専門薬剤師，レギュラトリーサイエンスに精通した薬剤師研究者，及びこれらの人材を養成できる医療系教育者として卓越した能力を有している。 ２．倫理観，責任感，創造力，応用力及び洞察力 医療倫理観を備え，強い責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力，深い洞察力及び客観的な判断力を身につけ，自立して行動できる。 ３．国際的発信力及び社会貢献 国際的に通用する力量を身につけ，世界をリードする研究成果を発信することができる。さらに博士後期課程では先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者として国際的・学際的に活躍することを通じ，博士課程では指導的薬剤師や臨床薬剤師として活躍することを通じ，社会の発展に高度に貢献することができる	薬学研究科では，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の教育方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 広範な教養と客観的な判断力を養うための分野横断的な演習科目及び特論を開設するとともに，博士論文研究では，広い視点からの研究指導を目的とした主指導教員と２名の副指導教員による複数指導体制を実現する。博士後期課程では国際的視野で活躍できる人材の養成を目指し，国際学会発表，国際誌への論文投稿，英語論文の査読を体系的に学ぶ特論を設置する。博士課程では国際コミュニケーション醸成のため英語論文作成科目，がん専門薬剤師養成を目的としたアドバンス科目群を設置する。 ２．教育方法 博士後期課程ではプレゼンテーション力や質疑応答能力の涵養を行う演習科目，及び分野横断的な演習科目の導入と複数指導体制を通じて，未知の課題に対して自ら研究計画を立案でき，問題解決能力・学際的な研究推進能力を備えた国際的に通用する力量を持った先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者となれる機会を提供する。 博士課程では大学病院と連携した実践演習と複数指導体制を通じて，臨床への橋渡し研究を遂行できる能力と国際的に通用する力量を持ち，臨床に根ざした先端的研究能力を有した臨床薬剤師，高度な職能を持つ専門薬剤師，レギュラトリーサイエンスに精通した医療薬学研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者になれる機会を提供する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。	薬学研究科では，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，創薬・製薬および医療薬学の知識と技術を継承するとともに，志気と向上心をもち，高い倫理観と責任感を備え，薬学への見識のある人材を養成するため，課題に対し自ら積極的に取り組む行動力，社会の多様性を理解できる能力，協調性をもった次のような人を求めています。 【博士後期課程】 博士後期課程では，創薬・製薬を中心に生命科学全般に関心を持ち，高い倫理観と責任感をもって独創的な研究を推進し，これを通じて創薬・製薬研究の発展に貢献する意欲のある者で，未知の課題に対し自立して研究を遂行し世界に向けて成果を発表するとともに後進を指導する能力を修得しようとする次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・創薬・製薬研究に関わる未知の課題を解決するために必要な，薬学の広範な知識・技能を有する人 ・創薬・製薬研究に関わる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり，独創的な研究を推進し，これを通じて創薬・製薬研究の発展に貢献しようとする姿勢・態度を有する人 （思考力・判断力・表現力等の能力） ・創薬・製薬研究の専門家として，修得した専門知識及び教養を基盤に思考を深化，展開し，科学的根拠に基づいて未知の課題に対して適切な解法を見いだせる素養を有する人 ・自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に，相手の視点に立って表現できる人 （主体性を持って様々な人々と協働して学ぶ態度） ・創薬・製薬研究の専門家として，他分野の人と協働でき，活躍できる素養を有する人 【博士課程】 博士課程では，生命科学に関心を持ち，高い倫理観と責任感をもって臨床に根ざした先端的研究能力を有する臨床薬剤師を志望する者，高度な職能を持つ専門薬剤師を志望する者，そして医療薬学研究者を志望する者で，未知の課題に対し自立して研究を遂行し国際的に通用する pharmacist-scientist を目指すとともに，後進を指導する能力を有する医療系薬学教育者への能力を修得しようとする意欲のある次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・薬学部で習得すべき基礎的かつ広範な知識や技能及び教養を有する人 ・薬剤師免許を有する人，もしくは取得する可能性のある人 ・生命科学を主体とする薬学に関わる広範な領域に強い関心と，医薬品の適正使用及び薬物治療の安全性確保に貢献する意欲を持ち，自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人 （思考力・判断力・表現力等の能力） ・薬物療法の専門家として，習得した知識・技能を基盤に，思考を深化，展開し，科学的根拠に基づいて未知の課題に対して適切な解法を見いだせる素養を有する人 ・自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に，相手の視点に立って表現できる人 （主体性を持って様々な人々と協働して学ぶ態度） ・薬物療法の専門家として，他職種の人と協働でき，活躍できる素養を有する人 ・チーム医療を推進できる協調性を有する人

（薬学研究科：創薬科学専攻　博士後期課程）　【博士（薬科学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与します。 １．学識，研究能力及び高度専門職業能力 広範な教養及び高度な専門知識・技能を身につけ，創薬に関する未知の課題に対し自立した創薬・製薬研究者として自ら研究計画を立案でき，問題解決に向けた研究推進能力を有し，後進を指導できる又は当該専門的な職業に従事できる卓越した能力を有している。 ２．倫理観，責任感，創造力，応用力及び洞察力 医療倫理観を備え，強い責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力，深い洞察力及び客観的な判断力を身につけ，自立して行動できる。 ３．国際的発信力及び社会貢献 国際的に通用する力量を身につけ，世界をリードする研究成果を発信し，先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者として国際的・学際的に活躍することを通じ，社会の発展に貢献することができる。	創薬科学専攻では，薬学の専門性を確保した上で広範な教養を持ち，未知の課題に対し自ら研究計画を立案でき，問題解決能力・学際的な研究推進能力を備えた国際的に通用する力量を持った先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者を養成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 広範な教養と客観的な判断力を養うための分野横断的な演習科目を設置するとともに，国際的視野で活躍できる人材の養成をめざし，国際学会発表，国際誌への論文投稿，英語論文の査読を体系的に学ぶ特論を設置する。さらに，博士論文研究では，広い視点からの研究指導を目的とした主指導教員と２名の副指導教員による複数指導体制を実現する。 ２．教育方法 プレゼンテーション力や質疑応答能力の涵養を行う演習科目，及び分野横断的な演習科目の導入と主指導教員と２名の副指導教員による複数指導体制を通じて，未知の課題に対して自ら研究計画を立案でき，問題解決能力・学際的な研究推進能力を備えた国際的に通用する力量を持った先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者となれる機会を提供する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。	創薬科学専攻では，博士前期課程創薬科学専攻の方針に加え，創薬・製薬に関する未知の課題に対し自立して研究を遂行し，世界に向けて成果を発表するとともに後進を指導する能力を有する者の育成を目指しています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 創薬・製薬研究に関わる未知の課題を解決するために必要な，薬学の広範な知識・技能を有する人 創薬・製薬研究に関わる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり，独創的な研究を推進し，これを通じて創薬・製薬研究の発展に貢献しようとする姿勢・態度を有する人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 創薬・製薬研究の専門家として，修得した専門知識及び教養を基盤に思考を深化，展開し，科学的根拠に基づいて未知の課題に対して適切な解法を見いだせる素養を有する人 自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に，相手の視点に立って表現できる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 創薬・製薬研究の専門家として，他分野の人と協働でき，活躍できる素養を有する人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 出願書類により知識・技能，関心・意欲を評価します。個別学力検査では，生命科学分野に関する設問に筆答させることで，思考力・表現力・判断力を評価します。口頭試問では出願書類に基づいた研究発表を実施し，思考力，判断力，表現力および態度を評価します。これらの結果を総合して判定します。 社会人特別入試 出願書類により知識・技能，関心・意欲を評価します。個別学力検査では，生命科学分野に関する設問に筆答させることで，思考力・表現力・判断力を評価します。口頭試問では出願書類に基づいた研究発表を実施し，思考力，判断力，表現力および態度を評価します。これらの結果を総合して判定します。 外国人留学生特別入試 出願書類により知識・技能，関心・意欲を評価します。個別学力検査では，生命科学分野に関する設問に筆答させることで，思考力・表現力・判断力を評価します。口頭試問では出願書類に基づいた研究発表を実施し，思考力，判断力，表現力および態度を評価します。これらの結果を総合して判定します。 モンゴルと ASEAN 諸国における国際高度医療人育成プログラム特別入試 日本国政府奨学金により，　徳島大学大学院（医学，医科栄養学，保健科学，口腔科学，薬学）研究科において博士号の取得を目指す外国人で，指定の国籍を保有し新たに海外から留学を希望する者を対象に実施します。直近過去2年間の学業成績係数が 2.30 以上で十分な英語能力（英語能力証明書を提出）を有することが条件となり，採用は徳島大学からの推薦に基づき文部科学省が決定します。 統合医療学際教育英語プログラム私費外国人留学生特別入試 本プログラムでは 21 世紀における世界的課題である人間環境，栄養，保健，医療の分野における諸問題に対応できるように，世界の各国で活躍できる教育・研究者及び行政の専門家を育成することを目的として，医学，栄養学，保健学，歯学，薬学に関する講義・実習・セミナーを全て英語で行います 。入学選抜は，提出された書類に基づき行います。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．学識，研究能力及び高度専門職業能力
広範な教養及び高度な専門知識・技能を身につけ，創薬に関する未知の課題に対し自立した創薬・製薬研究者として自ら研究計画を立案でき，問題解決に向けた研究推進能力を有し，後進を指導できる又は当該専門的な職業に従事できる卓越した能力を有している。</td><td>【学修内容】
専門分野の演習を通じて高度な専門知識・技能の修得をするとともに自立した研究者としての態度を養う学修を実施する。講義，演習等の専門教育科目における教育および所属研究室を中心としたゼミナール及び少人数教育，博士論文の作成の指導を行う。

【学修方法】
研究室での教員による指導を通じて倫理観，責任感，創造力，応用力，洞察力等を身につける学修を実施する。

【学修成果の評価方法】
博士論文を審査によって評価する。その他の項目は，ルーブリック評価表を作成し到達度を客観的に評価する。</td><td rowspan="3">（知識・技能，関心・意欲）
創薬・製薬研究に関わる未知の課題を解決するために必要な，薬学の広範な知識・技能を有する人
創薬・製薬研究に関わる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり，独創的な研究を推進し，これを通じて創薬・製薬研究の発展に貢献しようとする姿勢・態度を有する人

（思考力・判断力・表現力等の能力）
創薬・製薬研究の専門家として，修得した専門知識及び教養を基盤に思考を深化，展開し，科学的根拠に基づいて未知の課題に対して適切な解法を見いだせる素養を有する人
自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に，相手の視点に立って表現できる人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
創薬・製薬研究の専門家として，他分野の人と協働でき，活躍できる素養を有する人</td></tr>
<tr><td>２．倫理観，責任感，創造力，応用力及び洞察力
医療倫理観を備え，強い責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力，深い洞察力及び客観的な判断力を身につけ，自立して行動できる。</td><td>【学修内容】
研究室での教員による指導を通じて倫理観，責任感，創造力，応用力，洞察力を身につける学修を実施する。

【学修方法】
ゼミナール，実験等の少人数指導。

【学修成果の評価方法】
ルーブリック評価表を作成し到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>３．国際的発信力及び社会貢献
国際的に通用する力量を身につけ，世界をリードする研究成果を発信し，先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者として国際的・学際的に活躍することを通じ，社会の発展に貢献することができる。</td><td>【学修内容】
英語によって誌上，口頭発表し国際学会でコミュニケーションできるスキルを学修させる。

【学修方法】
ゼミナール，実験等の少人数指導。

【学修成果の評価方法】
ルーブリック評価表を作成し到達度を客観的に評価する。</td></tr>
</table>

（薬学研究科：薬学専攻　　博士課程）　　【博士（薬学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与します。 １．学識，研究能力及び高度専門職業能力 広範な教養，最先端の薬物治療を支える研究実践能力及び客観的な判断力を身につけ，臨床に根ざした新たな医療薬学研究の道を切り開き，臨床薬剤師，専門薬剤師，レギュラトリーサイエンスの精通した薬剤師研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者として卓越した能力を有している。 ２．倫理観，責任感，創造力，応用力及び洞察力 医療倫理観を備え，強い責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力及び深い洞察力を身につけ，自立して行動できる。 ３．国際的発信力及び社会貢献 国際的に通用する力量を身につけ，世界をリードする研究成果を発信し，指導的薬剤師や臨床薬剤師として活躍することを通じ，社会の発展に貢献することができる。	薬学専攻では，臨床への橋渡し研究を遂行できる能力と国際的に通用する力量を持ち，臨床に根ざした先端的研究能力を有した臨床薬剤師，高度な職能を持つ専門薬剤師，レギュラトリーサイエンスに精通した医療薬学研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者を養成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 広範な教養と客観的な判断力を養うための分野横断的な演習科目及び特論を設置するとともに，国際コミュニケーション力醸成のため英語論文作成科目，がん専門薬剤師養成を目的としたアドバンスド科目群を設置する。さらに，博士論文研究では，広い視点からの研究指導を目的とした主指導教員と２名の副指導教員による複数指導体制を実現する。 ２．教育方法 大学病院と連携した実践演習と指導教員と２名の副指導教員による複数指導体制を通じて，臨床への橋渡し研究を遂行できる能力と国際的に通用する力量を持ち，臨床に根ざした先端的研究能力を有した臨床薬剤師，高度な職能を持つ専門薬剤師，レギュラトリーサイエンスに精通した医療薬学研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者になれる機会を提供する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文の審査及び最終試験を適切に行う	薬学専攻では，生命科学に関心を持ち，高い倫理観と責任感をもって臨床に根ざした先端的研究能力を有する臨床薬剤師を志望する者，高度な職能を持つ専門薬剤師を志望する者，そして医療薬学研究者を志望する者で，未知の課題に対し自立して研究を遂行し国際的に通用するpharmacist-scientist を目指すとともに，後進を指導する能力を有する医療系薬学教育者への能力を修得しようとする意欲のある次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） 薬学部で習得すべき基礎的かつ広範な知識や技能及び教養を有する人 薬剤師免許を有する人，もしくは取得する可能性のある人 生命科学を主体とする薬学に関わる広範な領域に強い関心と，医薬品の適正使用及び薬物治療の安全性確保に貢献する意欲を持ち，自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 薬物療法の専門家として，習得した知識・技能を基盤に，思考を深化，展開し，科学的根拠に基づいて未知の課題に対して適切な解法を立案できる素養を有する人 自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に，相手の視点に立って表現できる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 薬物療法の専門家として，他職種の人と協働でき，活躍できる素養を有する人 チーム医療を推進できる協調性を有する人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 出願書類により知識・技能，関心・意欲を評価します。個別学力検査では，生命科学分野に関する設問に筆答させることで，思考力・表現力・判断力を評価します。口頭試問では出願書類に基づいた研究発表を実施し，思考力，判断力，表現力および態度を評価します。これらの結果を総合して判定します。 社会人特別入試 出願書類により知識・技能，関心・意欲を評価します。個別学力検査では，生命科学分野に関する設問に筆答させることで，思考力・表現力・判断力を評価します。口頭試問では出願書類に基づいた研究発表を実施し，思考力，判断力，表現力および態度を評価します。これらの結果を総合して判定します。 外国人留学生特別入試 出願書類により知識・技能，関心・意欲を評価します。個別学力検査では，生命科学分野に関する設問に筆答させることで，思考力・表現力・判断力を評価します。口頭試問では出願書類に基づいた研究発表を実施し，思考力，判断力，表現力および態度を評価します。これらの結果を総合して判定します。 モンゴルと ASEAN 諸国における国際高度医療人育成プログラム特別入試 日本国政府奨学金により，徳島大学大学院（医学，医科栄養学，保健科学，口腔科学，薬学）研究科において博士号の取得を目指す外国人で，指定の国籍を保有し新たに海外から留学を希望する者を対象に実施します。直近過去2年間の学業成績係数が 2.30 以上で十分な英語能力（英語能力証明書を提出）を有することが条件となり，採用は徳島大学からの推薦に基づき文部科学省が決定します。 統合医療学際教育英語プログラム私費外国人留学生特別入試 本プログラムでは 21 世紀における世界的課題である人間環境，栄養，保健，医療の分野における諸問題に対応できるように，世界の各国で活躍できる教育・研究者及び行政の専門家を

		育成することを目的として，医学，栄養学，保健学，歯学，薬学に関する講義・実習・セミナーを全て英語で行います 。入学選抜は，提出された書類に基づき行います。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．学識，研究能力及び高度専門職業能力 広範な教養，最先端の薬物治療を支える研究実践能力及び客観的な判断力を身につけ，臨床に根ざした新たな医療薬学研究の道を切り開き，臨床薬剤師，専門薬剤師，レギュラトリーサイエンスの精通した薬剤師研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者として卓越した能力を有している。	【学修内容】 複数教員による全学共通カリキュラム，各専攻間共通カリキュラム科目および専門科目の履修を通し，広汎な領域に触れる学修を実施する。さらに専門分野の演習を通じて高度な専門知識・技能の修得をするとともに自立した研究者としての態度を養う学修を実施する。 【学修方法】 講義及び演習形式。 【学修成果の評価方法】 レポートを主に，試験，出席率も含め，客観的に評価する。博士論文を審査によって評価する。 さらに，ルーブリック評価表を作成し到達度を客観的に評価する。	（知識・技能，関心・意欲） 薬学部で習得すべき基礎的かつ広範な知識や技能及び教養を有する人 薬剤師免許を有する人，もしくは取得する可能性のある人 生命科学を主体とする薬学に関わる広範な領域に強い関心と，医薬品の適正使用及び薬物治療の安全性確保に貢献する意欲を持ち，自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人 （思考力・判断力・表現力等の能力） 薬物療法の専門家として，習得した知識・技能を基盤に，思考を深化，展開し，科学的根拠に基づいて未知の課題に対して適切な解法を立案できる素養を有する人 自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に，相手の視点に立って表現できる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 薬物療法の専門家として，他職種の人と協働でき，活躍できる素養を有する人 チーム医療を推進できる協調性を有する人
２．倫理観，責任感，創造力，応用力及び洞察力 医療倫理観を備え，強い責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力及び深い洞察力を身につけ，自立して行動できる。	【学修内容】 研究室での教員による指導を通じて倫理観，責任感，創造力，応用力，洞察力を身につける学修を実施する。 【学修方法】 ゼミナール，実験等の少人数指導。 【学修成果の評価方法】 ルーブリック評価表を作成し到達度を客観的に評価する。	
３．国際的発信力及び社会貢献 国際的に通用する力量を身につけ，世界をリードする研究成果を発信し，指導的薬剤師や臨床薬剤師として活躍することを通じ，社会の発展に貢献することができる。	【学修内容】 英語によって誌上，口頭発表し国際学会でコミュニケーションできるスキルを学修させる。 【学修方法】 ゼミナール，実験等の少人数指導。 【学修成果の評価方法】 ルーブリック評価表を作成し到達度を客観的に評価する。	

先端技術科学教育部

大学院の目的（大学院学則　第１条）	学部（学科）の教育研究上の目的（教育部部規則等から抜粋）
徳島大学大学院は，徳島大学の目的使命に則り，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究め，もって文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。	本教育部の教育研究上の目的は，次のとおりとする。 (1) 豊かな人格と教養並びに自発的意欲を育て，工学の基礎知識を基とした分析力や課題探求・解決能力を備え，社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を持つ技術者・研究者を育成する。 (2) 工業分野の広角的な教育を実施し，幅広い視点で現代社会に生じている問題の分析力や解決能力を備えた人材を育成する。 (3) 国際レベルの先進的研究を推進し，豊かで健全な社会の創造に貢献する。 (4)地域社会の活力ある発展のために，社会人の再教育，地域企業との共同研究による技術開発を推進する。 (5)平和な国際社会を構築するための国際交流を活性化する。

先端技術科学教育部　博士前期課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。 １．学識と研究能力及び高度職業能力 工学分野の基礎知識を基にした分析力や課題探求・解決能力を備え，社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を有している。 ２．豊かな人格と教養及び自発的意欲 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ，知性，理性及び感性が調和し，自立して行動できる。 ３．国際的発信力及び社会貢献 工学分野の幅広い視点で現代社会に生じている問題を分析し，その解決に向けた世界水準の研究成果を発信する能力を備えるとともに，地域を発展させる産業創出に貢献できる。	先端技術科学教育部では，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 豊かな人格と教養並びに自発的意欲を育て，工学分野の広角的な基礎知識を基とした分析力や課題探求・解決能力を涵養することができる授業科目を開設するとともに，修士論文作成に係る研究指導体制を整備した教育課程を編成する。 ２．教育方法 国際レベルの先進的研究並びに地域企業との共同研究による技術開発を推進し，体系的な教育と研究指導を行うとともに，国際交流を活性化し，社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を育む機会を提供する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。	先端技術科学教育部は，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，卓越した学術及び文化を継承するとともに，学びの志と進取の気風をもって未来へ飛躍する人材を養成します。そのため，課題に対して自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 【博士前期課程】 先端技術科学教育部博士前期課程は，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，卓越した学術及び文化を継承するとともに，学びの志と進取の気風をもって未来へ飛躍する人材を養成します。そのため，課題に対して自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 ・社会人としてだけでなく，研究者あるいは技術者としての高い倫理観を持ち，社会を豊かにすることを目的とした科学技術の習得に意欲的に取り組むことができる人 ・与えられた問題に対して，自身の専門分野の立場から論理的に解決法を提案し，それを遂行できる人 ・自分の専門分野に限らず幅広い学問分野に対する興味を持ち合わせ，積極的に知識獲得を進めることができる人

（先端技術科学教育部：知的力学システム工学専攻　建設創造システム工学コース）　【修士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与する。 １．専門知識と技能 工学における幅広い教養と建設工学分野における専門知識及びスキルを備え，それらを実社会で応用する能力を有する。 ２．問題解決能力と創造力 現代社会に生じている問題に対して幅広い視点から分析・問題解決にあたる能力を有し，かつ，社会・自然の変化に柔軟に対応できる自立的な応用力及び創造力を有する。 ３．論理的表現能力 社会の問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に表現する能力を有する。 ４．自立的学習能力 未知の分野に対する興味を持ち，不足する知識を自覚し自発的な学習をする能力を有する。 ５．コミュニケーション及びリーダシップ能力 コミュニケーション及び役割分担を確立して，グループによる共同プロジェクトを運営する能力を有する。 ６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 国際社会に対するコミュニケーション能力を有し，平和な社会の構築と国際化に対応できる能力を有する。	建設創造システム工学コースでは，社会基盤を担う建造物の建設技術と自然環境の保全技術に関する高度な知識を有し，問題探求・解決能力，計画・企画力及び実行力を身につけるとともに，豊かな人格と教養及び自発的意欲を持ち、建設創造システム工学の創造的展開に貢献できる人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している １．多様な分野の科目を履修させることで，正しい倫理感を持たせ，総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．各専攻における共通的な科目群を設定し，専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら，専攻を横断する広い視野を養わせる。特に組織的・系統的なハードウェアとソフトウェア系を対象としたシステム工学に関わる能力を身につけさせる。 ４．社会基盤を構築する各種施設・構造物の設計や施工，保全・補修に関する力学的理論と環境エネルギー工学の基礎を身につけさせるとともに，工学技術が環境に及ぼす影響を理解し，かつ，最新の情報システムと環境システムを融合した高度な知的力学システムを独創的に創造できる能力を涵養させる。 ５．社会基盤を構築する各種施設・構造物の設計・施工・維持や，人間社会が環境に及ぼす影響の評価とその緩和に関する基礎的及び実践的なテーマ設定のもとに，課題演習・調査・実験を遂行し，対象とする現象への理解を深めるとともに，問題抽出・解決能力並びに創造性を高めさせる。さらに，修士論文の作成と公聴会を通じて，論理的表現能力と情報発信能力を高めさせる。	知的力学システム工学専攻では，基礎的知識である力学的理論を学習した上で，豊かな人格と教養及び自発的意欲を持ち，知的力学システムを独創的に創造できる人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・工学に関する基礎技術・知識を修得したうえで，専門分野に関する基礎知識を学修し，自立的かつ自発的に探究しようとする人 ・生活・生産基盤施設，交通施設，防災施設，環境保全施設等の調査・解析・計画，設計・施工・運用システム及び維持管理に関わる技術を研究するのに必要な基礎学力を持ち，向学心の旺盛な学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） 論理的な思考や判断に基づいた表現力を有し，社会や自然の変化に柔軟に対応しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 責任感と倫理感を有し，かつ，自主的・継続的に学習し，多様な人々と協働して地域や国際社会に貢献しようとする人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能を評価します 学力検査では，基礎学力及び各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 推薦入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 面接では，口述試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する語学力を含めた知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 他分野選抜特別入試 書類審査では，専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 学部３年次学生を対象とする特別入試 書類審査では，専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．専門知識と技能
工学における幅広い教養と建設工学分野における専門知識及びスキルを備え，それらを実社会で応用する能力を有する。</td><td>【学修内容】
工学分野の共通的な知識と，社会基盤システムと自然環境の保全に関する専門知識とスキルについて学修させる。

【学修方法】
専攻内共通科目や専門科目の講義や演習により学修させる。

【学修成果の評価方法】
試験等により到達度を客観的に評価する。</td><td rowspan="5">（知識・技能，関心・意欲）
・工学に関する基礎技術・知識を修得したうえで，専門分野に関する基礎知識を学修し，自立的かつ自発的に探究しようとする人
・生活・生産基盤施設，交通施設，防災施設，環境保全施設等の調査・解析・計画，設計・施工・運用システム及び維持管理に関わる技術を研究するのに必要な基礎学力を持ち，向学心の旺盛な学生を求めています。

（思考力・判断力・表現力等の能力）
論理的な思考や判断に基づいた表現力を有し，社会や自然の変化に柔軟に対応しようとする人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
責任感と倫理感を有し，かつ，自主的・継続的に学習し，多様な人々と協働して地域や国際社会に貢献しようとする人</td></tr>
<tr><td>２．問題解決能力と創造力
現代社会に生じている問題に対して幅広い視点から分析・問題解決にあたる能力を有し，かつ，社会・自然の変化に柔軟に対応できる自立的な応用力及び創造力を有する。</td><td>【学修内容】
専門分野との関連性を意識しながら，幅広い分野の問題点を認識でき，問題解決にあたる能力を養う。

【学修方法】
総合科目をはじめとする多様な分野の科目の履修により学修させる。

【学修成果の評価方法】
試験等により到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>３．論理的表現能力
社会の問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に表現する能力を有する。</td><td>【学修内容】
専門分野を中心として，論理的表現能力と情報発信力を養う。

【学修方法】
社会基盤に関する基礎的及び実践的なテーマ設定のもとに行われた課題演習・調査・実験を通じて学修させる。

【学修成果の評価方法】
修士論文の中間発表を評価基準に基づき評価するなどして，定量的に行う。</td></tr>
<tr><td>４．自立的学習能力
未知の分野に対する興味を持ち，不足する知識を自覚し自発的な学習をする能力を有する。</td><td>【学修内容】
課題発見能力を養うとともに，解決に導くための必要な知識を自覚し，身に付ける能力を養う。

【学修方法】
社会基盤に関する実践的なテーマ設定がなされた修士論文の研究を通じて学修させる。

【学修成果の評価方法】
複数の審査員が修士論文を評価するとともに，公聴会を実施する。</td></tr>
<tr><td>５．コミュニケーション及びリーダシップ能力
コミュニケーション及び役割分担を確立して，グループによる共同プロジェクトを運営する能力を有する。</td><td>【学修内容】
豊かな教養及び専門知識に基づいた計画・企画の実施，実行方法を学修する。

【学修方法】
少人数グループにおける演習・実習・実験や，修士論文の研究を通じて学修させる。

【学修成果の評価方法】
レポート等により到達度を客観的に評価する。修士論文の発表等を通して評価する。</td></tr>
<tr><td>６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力
国際社会に対するコミュニケーション能力を有し，平和な社会の構築と国際化に対応できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高め，国際や実社会で活躍できる能力を身に付けさせる。

【学修方法】
技術英語関連科目の履修，欧文論文の輪講や国際学会での発表を通じて学修させる。

【学修成果の評価方法】
レポート等により到達度を客観的に評価する。</td></tr>
</table>

（先端技術科学教育部：知的力学システム工学専攻　機械創造システム工学コース）　【修士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与する。 １．応用力及び創造力 分析力や課題探求能力・解決能力を備え，社会の変化に柔軟に対応できる自立的な応用力及び創造力を有する。 ２．分析力及び解決能力 幅広い視点で現代社会に生じている問題の分析力及び解決能力を有する。 ３．コミュニケーション能力 社会の問題を解決する方法及び解決結果を的確に，かつ論理的に表現できるコミュニケーション能力を有する。 ４．倫理感と自発学習能力 豊かで健全な社会を創造するために技術者としての倫理観を持ち，常に自発的に学習する能力を有する。 ５．国際化対応力 平和な国際社会を構築し，国際化に対応できる能力を有する。	機械創造システム工学コースでは，基礎的知識である力学的理論を学習した上で、豊かな人格と教養及び自発的意欲を持ち、機械創造システム工学を独創的に創造できる人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。 １．多様な分野の科目を履修させることで，正しい倫理感を持たせ，総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．各専攻における共通的な科目群を設定し，専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら，専攻を横断する広い視野を養わせる。特に組織的・系統的なハードウェアとソフトウェア系を対象としたシステム工学に関わる能力を身につけさせる。 ４．機械工学科に関する学部教育で培われた専門基礎能力を基に，専門性を一層向上させると同時に，職業倫理など人間性の涵養に努めるカリキュラムを編成する。また，機械工学とは異なる専門分野の学士課程を修めた大学院生に対して，必要な科目の学修を可能とするカリキュラムを編成する。 ５．機械創造システム特別演習を通して，機械工学に関する特定分野に関する理解を深めさせ，それに基づき機械創造システム特別研究を行うことにより，創造的思考力をもって課題を深く探求する能力を養成する。	知的力学システム工学専攻では，基礎的知識である力学的理論を学習した上で，豊かな人格と教養及び自発的意欲を持ち，知的力学システムを独創的に創造できる人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・工学に関する基礎技術・知識を修得したうえで，専門分野に関する基礎知識を学修し，自立的かつ自発的に探究しようとする人 ・機械工学に関する基礎学力を有し，より高い専門性と幅広い専門基礎の素養を身につけたい優秀な学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） 論理的な思考や判断に基づいた表現力を有し，社会や自然の変化に柔軟に対応しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 責任感と倫理感を有し，かつ，自主的・継続的に学習し，多様な人々と協働して地域や国際社会に貢献しようとする人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能を評価します 学力検査では，基礎学力及び各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 推薦入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 面接では，口述試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する語学力を含めた知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 他分野選抜特別入試 書類審査では，専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 学部３年次学生を対象とする特別入試 書類審査では，専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．応用力及び創造力
分析力や課題探求能力・解決能力を備え，社会の変化に柔軟に対応できる自立的な応用力及び創造力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目，環境工学科目，専攻内共通科目，及び，専門科目を通じて，様々な分野における課題を探求，解決する能力を醸成する基礎を備えさせる。これによって，社会や環境の変化にも耐えうる柔軟な課題探求能力・解決能力の基盤を身に付けさせる。さらに，専門科目に含まれる機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験を通して，機械工学の特定分野に関する理解を深化させるとともに，実際に当該分野における課題を探求，解決させる。ここでは，総合科目等を通じて身に付けた課題探求能力・解決能力の基盤を応用する経験，及び，自らが見出した課題を自らが考案した創造性や独創性のある手法によって解き明かす経験を積ませる。これによって，基盤として身に付けた課題探求能力・解決能力を向上させるともに，自立的な応用力と創造力を育成させる。
【学修方法】
総合科目，環境工学科目，専攻内共通科目，及び，専門科目においては，講義，実験，演習等による教育と指導を実施する。また，機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験においては，個別指導による少人数教育を実施する。
【学修成果の評価方法】
試験やレポート等により到達度を客観的に評価する。ただし，機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験については，研究室での取組み状況，修士論文及び中間発表会と修士論文公聴会における発表等を厳正に審査する。</td><td rowspan="4">（知識・技能，関心・意欲）
・工学に関する基礎技術・知識を修得したうえで，専門分野に関する基礎知識を学修し，自立的かつ自発的に探究しようとする人
・機械工学に関する基礎学力を有し，より高い専門性と幅広い専門基礎の素養を身につけたい優秀な学生を求めています。

（思考力・判断力・表現力等の能力）
論理的な思考や判断に基づいた表現力を有し，社会や自然の変化に柔軟に対応しようとする人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
責任感と倫理感を有し，かつ，自主的・継続的に学習し，多様な人々と協働して地域や国際社会に貢献しようとする人</td></tr>
<tr><td>２．分析力及び解決能力
幅広い視点で現代社会に生じている問題の分析力及び解決能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目，環境工学科目，専攻内共通科目，及び，専門科目を通じて，様々な分野における問題を分析，解決する能力を醸成する基礎を備えさせる。これによって，現代社会における問題を対象とした幅広い視点からの分析力及び解決能力の基盤を身に付けさせる。さらに，専門科目に含まれる機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験を通して，機械工学の特定分野に関する理解を深化させるとともに，実際に当該分野における問題を分析，解決させる。ここでは，総合科目等を通じて身に付けた分析力及び解決能力の基盤を応用する経験を積ませる。これによって，基盤として身に付けた分析力及び解決能力を向上させる。
【学修方法】
総合科目，環境工学科目，専攻内共通科目，及び，専門科目においては，講義，実験，演習等による教育と指導を実施する。また，機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験においては，個別指導による少人数教育を実施する。
【学修成果の評価方法】
試験やレポート等により到達度を客観的に評価する。ただし，機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験については，研究室での取組み状況，修士論文及び中間発表会と修士論文公聴会における発表等を厳正に審査する。</td></tr>
<tr><td>３．コミュニケーション能力
社会の問題を解決する方法及び解決結果を的確に，かつ論理的に表現できるコミュニケーション能力を有する。</td><td>【学修内容】
プレゼンテーションやコミュニケーションに関する総合科目及び機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験を通じて，現代社会における問題と解決方法及びその結果を正確に伝達できるプレゼンテーション能力を練成させる。これによって，伝えるべき情報や事柄を的確に表現しつつ論理的に説明できる実践的なコミュニケーション能力を身に付けさせる。
【学修方法】
プレゼンテーションやコミュニケーションに関する総合科目においては，講義，演習等による教育と指導や学会発表等についての個別指導を実施する。また，　機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験においては，個別指導による少人数教育を実施する。
【学修成果の評価方法】
プレゼンテーションやコミュニケーションに関する総合科目については，レポートやポートフォリオ等により到達度を客観的に評価する。また，機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験については，　研究室での取組み状況，修士論文及び中間発表会と修士論文公聴会における発表等を厳正に審査する。</td></tr>
<tr><td>４．倫理感と自発学習能力
豊かで健全な社会を創造するために技術者としての倫理観を持ち，常に自発的に学習する能</td><td>【学修内容】
環境工学関連科目及び専攻内共通科目と専門科目に含まれる多様な機械工学関連科目を通して，機械工学</td></tr>
</table>

力を有する。	が人と社会を支え，工業分野から地球環境・エネルギーに至る課題を解決する学問であることを理解させ，持続可能な社会システムを構築するための倫理観を涵養させる。加えて，技術者としての意識を持ち，多様な機械工学関連の課題に対処するための知識を自発的に獲得する資質を養成させる。 【学修方法】 環境工学科目，専攻内共通科目，及び，専門科目においては，講義，実験，演習等による教育と指導を実施する。また，機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験においては，個別指導による少人数教育を実施する。さらに，入学時に e-ラーニングによる研究倫理教育プログラムを受講することを義務付けることによって，倫理観の涵養を図る。 【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により到達度を客観的に評価する。ただし，機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験については，研究室での取組み状況，修士論文及び中間発表会と修士論文公聴会における発表等を厳正に審査する。また，e-ラーニングによる研究倫理教育プログラムを受講し，修了することを義務化する。	
５．国際化対応力 平和な国際社会を構築し，国際化に対応できる能力を有する。	【学修内容】 総合科目，環境工学科目，及び，専門科目，その中でも特に，国際先端技術科学特論 1，2，プレゼンテーション技法（M），環境システム工学特論，機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験を通じて，国際的な課題に関する知見を深めさせるとともに，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を向上させる。これによって，異文化圏出身者に対してもコミュニケーションがとれ，情報を正確に理解し，論理的に整理して，的確に伝達できる能力を身に付けさせる。 【学修方法】 総合科目，環境工学科目，及び，専門科目においては，講義，実験，演習等による教育と指導を実施する。また，機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験においては，個別指導による少人数教育を実施する。 【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により到達度を客観的に評価する。ただし，機械創造システム工学論文輪講・工学演習・特別実験については，研究室での取組み状況，修士論文及び中間発表会と修士論文公聴会における発表等を厳正に審査する。	

（先端技術科学教育部：物質生命システム工学専攻　化学機能創生コース）　【修士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与する。 １．専門知識と技能 物質創生の基礎としての化学分野を，幅広くその周辺領域－物理学や生命科学等－も含め，深く理解し応用させることのできる能力を有する。また，環境工学科目を履修することで，環境に与える化学及び化学技術の影響を具体的に把握する能力を有する。さらに，環境工学履修モデルの学生は，その課程を修了することで，高度環境工学技術者としての能力を有する。 ２．問題解決能力 現代社会が直面する種々の問題を主として化学的な視点から分析し，解決する能力を有する。特に，化学物質の創製を，人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら進展させることができる能力を有する。 ３．論理的表現能力及びコミュニケーション能力 問題分析過程において，問題点を論理的，かつ明確に表現し伝えるコミュニケーション能力を有する。 ４．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に積極的に寄与できる能力を有する。 ５．統合的な研究推進力と創造的思考力 化学及び化学技術に関する特定分野とそれに関連する分野を統合的に理解し，その分野に応じた研究手法を用いて，創造的思考力をもって深く探求することができる能力を有する。	化学機能創生コースでは，化学及び化学技術に関する幾つかのことを深く探求し、その成果を社会に還元させることにより産業界の要請に応えることのできる人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。 １．問題分析過程において，問題点を明確に表現し伝えるコミュニケーション能力，地域社会を含む産業界の活性化に貢献する能力及び豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に積極的に寄与できる能力を養成する（学習・教育目標のＤ及びＥに対応する総合科目及び企業関連の総合科目の履修により実施）。 ２．環境に与える化学及び化学技術の影響を具体的に把握する能力を養成する（化学環境工学特論，生物環境工学特論，環境システム工学特論の履修により実施）。さらに，環境工学履修モデルの学生には，その課程を修了させることで，高度環境工学技術者としての能力を養成する（他コースの環境関連科目の履修により実施）。 ３．物質創生の基礎としての化学分野を，幅広くその周辺領域－物理学や生命科学等－も含め，深く理解し応用させることのできる能力を養成する（学習・教育目標のＡに対応する総合科目・専門科目の履修により実施）。 ４．化学物質の創製を，人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら進展させることのできる能力及び現代社会が直面する種々の問題を主として化学的な視点から分析し，解決する能力を養成する（学習・教育目標のＢ及びＣに対応する専門科目からの選択履修により実施）。 ５．化学及び化学技術に関する特定分野とそれに関連する分野を統合的に理解し，その分野に応じた研究手法を用いて，創造的思考力をもって深く探求することができる能力を養成する（化学機能創生輪講及び演習，化学機能創生特別実験１，化学機能創生特別実験２の履修により実施）。	物質生命システム工学専攻では，化学工学，生物工学を融合させ，新素材の開発，生体分子の構造と機能解析，資源循環，化学プラントの開発及び生命現象の解明と技術応用を通じて，人間性豊かで想像力に富み，工学の幅広い分野に関する汎用的能力を備えた人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・生命及び地球環境の保全，グリーン・ケミストリー，食料・化学物質・資源などの物質循環，生物多様性の保全，などのテーマに関する高度な知識や技能を習得し，修了後は当該研究分野のさらなる発展や，社会の発展に貢献しようとする人 ・化学及び化学技術に関する研究テーマを深く探求し，その過程で身につけた高度な専門知識や実験技能，問題解決能力などを通じて社会や産業界に貢献できる学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） グローバル化へ向かう多種多様な情報や価値観の中において，自分独自の思考力，判断力に基づいて問題を考察し，国際的コミュニケーションを通じてその結果を表現しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 様々な問題を解決する上で，自らの主体性を持つと同時に，異なる教育・研究の背景を持つ人々の考えも尊重して学び，協働しようとする人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能を評価します 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 推薦入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 面接では，口述試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する語学力を含めた知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する語学力を含めた知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 学部３年次学生を対象とする特別入試 書類審査では，専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．専門知識と技能

物質創生の基礎としての化学分野を，幅広くその周辺領域－物理学や生命科学等－も含め，深く理解し応用させることのできる能力を有する。また，環境工学科目を履修することで，環境に与える化学及び化学技術の影響を具体的に把握する能力を有する。さらに，環境工学履修モデルの学生は，その課程を修了することで，高度環境工学技術者としての能力を有する。</td><td>【学修内容】
専門科目群及び総合科目群から，化学の様々な専門分野及び周辺分野に関する科目を履修する。また環境工学科目である環境システム工学特論を履修させる。

【学修方法】
講義及び演習による。

【学修成果の評価方法】
試験などによって到達度を客観的に評価する。</td><td rowspan="4">（知識・技能，関心・意欲）
・生命及び地球環境の保全，グリーン・ケミストリー，食料・化学物質・資源などの物質循環，生物多様性の保全，などのテーマに関する高度な知識や技能を習得し，修了後は当該研究分野のさらなる発展や，社会の発展に貢献しようとする人
・化学及び化学技術に関する研究テーマを深く探求し，その過程で身につけた高度な専門知識や実験技能，問題解決能力などを通じて社会や産業界に貢献できる学生を求めています。

（思考力・判断力・表現力等の能力）
グローバル化へ向かう多種多様な情報や価値観の中において，自分独自の思考力，判断力に基づいて問題を考察し，国際的コミュニケーションを通じてその結果を表現しようとする人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
様々な問題を解決する上で，自らの主体性を持つと同時に，異なる教育・研究の背景を持つ人々の考えも尊重して学び，協働しようとする人</td></tr>
<tr><td>２．問題解決能力

現代社会が直面する種々の問題を主として化学的な視点から分析し，解決する能力を有する。特に，化学物質の創製を，人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら進展させることができる能力を有する。</td><td>【学修内容】
専門科目群から，化学の様々な専門分野及び周辺分野に関する科目を履修する。また環境工学科目である環境システム工学特論を履修させる。

【学修方法】
講義及び演習による。

【学修成果の評価方法】
試験などによって到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>３．論理的表現能力及びコミュニケーション能力

問題分析過程において，問題点を論理的，かつ明確に表現し伝えるコミュニケーション能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目群からプレゼンテーション技法，専門科目群から科学技術コミュニケーション，化学機能創生特別実験 1，同 2 を履修させる。

【学修方法】
講義や演習，さらに学生によるプレゼンテーションをコース内の発表会，学外の研究集会において行う。

【学修成果の評価方法】
講義や演習は試験などにより評価し，プレゼンテーションは指導教員らが審査，評価する。</td></tr>
<tr><td>４．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力

豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に積極的に寄与できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目群から国際先端技術科学特論 1 及び同 2，専門科目群から科学技術コミュニケーション，化学機能創生輪講及び演習，化学機能創生特別実験 1，同 2 を履修させる。

【学修方法】
講義や演習，輪講，さらに学生によるプレゼンテーションをコース内の発表会や，学外の研究集会において行う。これらのために必要な指導を指導教員から受ける。

【学修成果の評価方法】
講義や演習は試験などにより評価し，輪講やプレゼンテーションは指導教員らが口頭試問を含む審査を行い評価する。</td></tr>
<tr><td>５．統合的な研究推進力と創造的思考力

化学及び化学技術に関する特定分野とそれに関連する分野を統合的に理解し，その分野に応じた研究手法を用いて，創造的思考力をもって深く探求することができる能力を有する。</td><td>【学修内容】
化学機能創生輪講及び演習，化学機能創生特別実験 1 及び同 2 を履修させる。

【学修方法】
研究室における輪講及び実験，修士論文の執筆，そして学外の学会における発表活動などを行う。これらのために必要な指導を指導教員から受けさせる。

【学修成果の評価方法】
輪講，実験，プレゼンテーションなどは指導教員が評価する。修士論文は指導教員を含む複数の教員により審査の上，プレゼンテーションを行い，口頭試問を経て評価する。</td></tr>
</table>

（先端技術科学教育部：物質生命システム工学専攻　生命テクノサイエンスコース）　【修士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与する。 １.専門知識の自立的学習能力と活用能力 生命科学研究の基礎として生命科学の幅広い分野を自立的に学習・理解し、それを応用する能力を有する。 ２．生命科学技術者倫理の理解と活用能力 生物の多様性や生物工学技術が生物及び地球環境に与える影響を理解し、健全な社会や環境の保全・創造に寄与する能力を修得している。 ３．問題分析力と解決能力 主として生物工学的な視点から、現代社会が直面する種々の問題を論理的かつ明確に分析し、それを解決する能力を有する。 ４．論理的コミュニケーション能力と情報発信能力 問題点の把握・分析・解決策立案の過程を論理的に表現して伝え議論するコミュニケーション能力を有する。また，研究成果等の情報を分かり易く社会に発信できる能力を有する。 ５．国際的貢献能力 豊かで健全な国際社会構築のための国際交流や国際協力に積極的に寄与できる能力を有する。	生命テクノサイエンスコースでは，国際的視野と生命倫理の観点から先端的生物工学の知識を技術、製品開発に活かし、国内外で活躍できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。 １．多様な分野の科目を履修させることで，正しい倫理感を持たせ，総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．各専攻における共通的な科目群を設定し，専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら，専攻を横断する広い視野を養わせる。特に物質循環，化学物質，そして生物多様性の保全や環境問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。 ４．生命の優れた機能と構造を科学的に解明し、産業に応用するための生物工学分野を周辺領域も含めて深く理解し、応用させる能力を「微生物工学特論」、「酵素学特論」、「分子生物工学」、「生化学特論」」等により修得させる。 ５．生命科学の最新の専門的研究手法を用いて社会的ニーズの解決を図るとともに、その過程で開発した技術等をさらに高度に応用・発展させ、またそれを社会に発信する能力を「生物テクノサイエンス特別実験」等で培い、「修士論文」において研究成果として結実させる。	物質生命システム工学専攻では，化学工学，生物工学を融合させ，新素材の開発，生体分子の構造と機能解析，資源循環，化学プラントの開発及び生命現象の解明と技術応用を通じて，人間性豊かで想像力に富み，工学の幅広い分野に関する汎用的能力を備えた人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・生命及び地球環境の保全，グリーン・ケミストリー，食料・化学物質・資源などの物質循環，生物多様性の保全，などのテーマに関する高度な知識や技能を習得し，修了後は当該研究分野のさらなる発展や，社会の発展に貢献しようとする人 ・生物工学技術者・研究者をめざし，本コースに強い入学意欲を持った向学心の旺盛な学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） グローバル化へ向かう多種多様な情報や価値観の中において，自分独自の思考力，判断力に基づいて問題を考察し，国際的コミュニケーションを通じてその結果を表現しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 様々な問題を解決する上で，自らの主体性を持つと同時に，異なる教育・研究の背景を持つ人々の考えも尊重して学び，協働しようとする人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 推薦入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 面接では，口述試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する語学力を含めた知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する語学力を含めた知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 学部３年次学生を対象とする特別入試 書類審査では，専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>1．専門知識の自立的学習能力と活用能力
生命科学研究の基礎として生命科学の幅広い分野を自立的に学習・理解し、それを応用する能力を有する。</td><td>【学修内容】
専門科目群の各特論科目において生命科学の諸分野を幅広く学修させる。

【学修方法】
講義形式による少人数指導を実施する。

【学修成果の評価方法】
試験・レポート・プレゼンテーションにより到達度を客観的に評価する。</td><td rowspan="4">（知識・技能，関心・意欲）
・生命及び地球環境の保全，グリーン・ケミストリー，食料・化学物質・資源などの物質循環，生物多様性の保全，などのテーマに関する高度な知識や技能を習得し，修了後は当該研究分野のさらなる発展や，社会の発展に貢献しようとする人
・生物工学技術者・研究者をめざし，本コースに強い入学意欲を持った向学心の旺盛な学生を求めています。

（思考力・判断力・表現力等の能力）
グローバル化へ向かう多種多様な情報や価値観の中において，自分独自の思考力，判断力に基づいて問題を考察し，国際的コミュニケーションを通じてその結果を表現しようとする人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
様々な問題を解決する上で，自らの主体性を持つと同時に，異なる教育・研究の背景を持つ人々の考えも尊重して学び，協働しようとする人</td></tr>
<tr><td>2．生命科学技術者倫理の理解と活用能力
生物の多様性や生物工学技術が生物及び地球環境に与える影響を理解し、健全な社会や環境の保全・創造に寄与する能力を修得している。</td><td>【学修内容】
環境工学科目群の環境システム工学特論において環境問題に対して工学的・技術的に解決する能力を身に付ける学修を実施する。

【学修方法】
複数の専門教員によるオムニバス形式やアクティブラーニングを取り入れた教育を実施する。

【学修成果の評価方法】
試験やレポートにより到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>3．問題分析力と解決能力
主として生物工学的な視点から、現代社会が直面する種々の問題を論理的かつ明確に分析し、それを解決する能力を有する。</td><td>【学修内容】
専門科目群の生命テクノサイエンス演習・特別実験や修士論文において種々の科学的問題を論理的かつ明確に分析し，それを解決する能力を身に付ける学修を実施する。

【学修方法】
演習・実験・研究における少人数指導や修士論文の作成の指導を実施する。

【学修成果の評価方法】
試験・レポート・プレゼンテーションにより到達度を客観的に評価する。修士論文は審査会及び主査・副査の教員によって総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>4．論理的コミュニケーション能力と情報発信能力
問題点の把握・分析・解決策立案の過程を論理的に表現して伝え議論するコミュニケーション能力を有する。また，研究成果等の情報を分かり易く社会に発信できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目のプレゼンテーション技法においてコミュニケーション能力や研究成果等の情報発信能力を身に付ける学修を実施する。

【学修方法】
指導教員による少人数指導を実施する。

【学修成果の評価方法】
学会発表やレポートにより到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>5．国際的貢献能力
豊かで健全な国際社会構築のための国際交流や国際協力に積極的に寄与できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
専門科目の生命テクノサイエンス論文輪読において各専門分野の諸外国の研究者と交流し，国際協力に積極的に寄与できる能力を身に付ける学修を実施する。

【学修方法】
指導教員による少人数指導を実施する。

【学修成果の評価方法】
レポート・プレゼンテーションにより到達度を客観的に評価する。</td></tr>
</table>

（先端技術科学教育部：システム創生工学専攻　電気電子創生工学コース）　【修士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与する。 １．専門知識と深い理解力 工学・電気電子工学の幅広い先端知識をベースに専門分野に関する深い理解と応用力を有する。 ２．コミュニケーション能力・情報収集・発信能力 コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力、情報収集・処理・発信能力を有する。 ３．国際的視野と高い倫理観 電気電子工学に関する諸現象を様々な視点から考察でき、国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力を有する。 ４．問題解決能力 電気電子工学に関する諸問題について分析する能力を有し、自ら、その解決のための課題設定能力及び解決能力を有する。	電気電子創生工学コースでは，電気電子工学に関する課題を、幅広い視野と論理的な思考で解決し、地域社会、国際社会に貢献できる人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。 １．多様な分野の科目を履修させることで，正しい倫理感を持たせ，総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．各専攻における共通的な科目群を設定し，専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら，専攻を横断する広い視野を養わせる。特に組織的・系統的なハードウェアとソフトウェア系を対象としたシステム工学に関わる能力を身につけさせる。 ４．電気電子工学に関する深い専門知識と先端技術に関する科目を設置し，専門分野の深い理解力を持つと同時に幅広い分野にわたる学識を有する高度技術者を養成する。 ５．修士論文に関連した実験研究を学生による主体的学修と個別指導による研修方式で、『電気電子創生工学特別実験１・２』とし，課題設定能力や問題解決能力に関する高い能力を養成する。	システム創生工学専攻では，デバイス，ハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク等の基礎技術を体系的に教育したうえで，これらの技術を統合したシステムを創生することのできる総合的な人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを応用したシステムを創生するための基礎的な知識と技能を体系的に修得しており，地域及び国際社会が抱える技術課題に高い関心を持って自ら課題探求とその解決に努めることができる人 ・電気電子工学に関する課題を，幅広い視野と論理的な思考で解決し，地域社会，国際社会に貢献できる研究者・技術者を育成するため，勉学に強い意欲を持った学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を豊かな表現力で社会に発信しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 推薦入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 面接では，口述試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 学部３年次学生を対象とする特別入試 書類審査では，専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．専門知識と深い理解力
工学・電気電子工学の幅広い先端知識をベースに専門分野に関する深い理解と応用力を有する。</td><td>【学修内容】
専攻内共通科目群及び専門科目群を通して，基礎的な専門分野を発展させた特定専門分野あるいはそれらを融合発展させた新しい専門分野に関する高度な専門知識・技術・応用力を有する専門技術者を育成する学修を実施する。

【学修方法】
講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導。

【学修成果の評価方法】
試験，口頭試問，レポート等によって到達度を客観的に評価する。</td><td rowspan="4">（知識・技能，関心・意欲）
・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを応用したシステムを創生するための基礎的な知識と技能を体系的に修得しており，地域及び国際社会が抱える技術課題に高い関心を持って自ら課題探求とその解決に努めることができる人
・電気電子工学に関する課題を，幅広い視野と論理的な思考で解決し，地域社会，国際社会に貢献できる研究者・技術者を育成するため，勉学に強い意欲を持った学生を求めています。

（思考力・判断力・表現力等の能力）
システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を豊かな表現力で社会に発信しようとする人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人</td></tr>
<tr><td>２．コミュニケーション能力・情報収集・発信能力
コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力、情報収集・処理・発信能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目群及び電気電子創生工学特別実験１・２を通して，専門技術分野に関する情報収集，解析能力を有し問題点を探求し論理的な思考をもとに解決し，情報発信できる能力を養う学修を実施する。

【学修方法】
講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導。個別指導による研究内容の対外発表指導及び修士論文作成の指導。

【学修成果の評価方法】
試験，口頭試問，レポート，修士論文の発表等によって到達度を客観的に評価する。修士論文は審査によって評価する。</td></tr>
<tr><td>３．国際的視野と高い倫理観
電気電子工学に関する諸現象を様々な視点から考察でき、国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目群及び専攻内共通科目群などを通して，地域社会・国際社会における豊かで健全な社会発展を目指し，安全性と信頼性をベースとした高い視野から物事を捉え判断する能力を養う学修を実施する。

【学修方法】
講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導。個別指導による研究内容の対外発表指導及び修士論文作成の指導。

【学修成果の評価方法】
試験，口頭試問，レポート等によって到達度を客観的に評価する。修士論文は審査によって評価する。</td></tr>
<tr><td>４．問題解決能力
電気電子工学に関する諸問題について分析する能力を有し、自ら、その解決のための課題設定能力及び解決能力を有する。</td><td>【学修内容】
コース専門科目群及び電気電子創生工学特別実験１・２を通して，電気電子工学内の専門分野の問題点や研究課題を明確に認識理解し，創造性・独創性豊かな研究開発を，自律的・計画的に行う問題解決能力を養う学修を実施する。

【学修方法】
講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導。個別指導による研究内容の対外発表指導及び修士論文作成の指導。

【学修成果の評価方法】
試験，口頭試問，レポート等によって到達度を客観的に評価する。修士論文は審査によって評価する。</td></tr>
</table>

（先端技術科学教育部：システム創生工学専攻　知能情報システム工学コース）　【修士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与する。 １．専門知識と技能 工学における幅広い教養と情報通信及び知能工学における専門的な知識及びスキルを備え，それらを実社会で応用する能力を有する。 ２．問題解決能力 問題を発見，設定，分析，解決する能力を有する。 ３．論理的表現能力 問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。 ４．自立的学習能力 未知の分野に対する興味を持ち，不足している知識があれば，自発的に修得する能力を有する。 ５．コミュニケーション及びリーダシップ能力 コミュニケーション及び役割分担を確立して，グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。 ６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 国内のみならず国際社会に対して，情報を発信したり，吸収したりする能力を有する。	知的情報システム工学コースでは，知能情報工学の技術者としての標準的水準の能力を持ち、広い視野と自律的に行動できる能力を持つ国内外の社会に貢献できる人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。 １．多様な分野の科目を履修させることで，正しい倫理感を持たせ，総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．各専攻における共通的な科目群を設定し，専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら，専攻を横断する広い視野を養わせる。特に組織的・系統的なハードウェアとソフトウェア系を対象としたシステム工学に関わる能力を身につけさせる。 ４．学部教育で培われた専門基礎能力を応用し，専門性を一層向上させることができる専門応用能力を身につけさせる。また，創造性の育成を目指したチームによるプロジェクト達成型の創成科目「知能情報システム工学輪講及び演習」により，単に創造性のみならず，チームによるプロジェクト達成にとって不可欠となるコミュニケーション並びに自己学習などの能力を身につけさせる。 ５．１年次の後半に実施している学内ポスター発表会における研究内容を発表させる。また，在学中に少なくとも一回，国内外の学会にて研究発表をさせる。修士研究においては，与えられた研究テーマについて 2 年間を通して研究を行い，口頭発表を最終試験として実施することで，これまで学んだ最先端の専門的知識・技術を活用し，専門性と創造性の視点を生かしながら課題解決力や研究開発力を身につけさせる。	システム創生工学専攻では，デバイス，ハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク等の基礎技術を体系的に教育したうえで，これらの技術を統合したシステムを創生することのできる総合的な人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを応用したシステムを創生するための基礎的な知識と技能を体系的に修得しており，地域及び国際社会が抱える技術課題に高い関心を持って自ら課題探求とその解決に努めることができる人 ・知能情報工学の技術者としての標準的水準の能力を持ち，広い視野と自律的に行動できる能力を持つ国内外の社会に貢献できる人材を育成するために，基礎学力と旺盛な勉学意欲を持つ学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を豊かな表現力で社会に発信しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 推薦入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 面接では，口述試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 学部３年次学生を対象とする特別入試 書類審査では，専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，

		表現力，主体性，協働性を総合して評価します。
【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．専門知識と技能 工学における幅広い教養と情報通信及び知能工学における専門的な知識及びスキルを備え，それらを実社会で応用する能力を有する。	【学修内容】 専攻内共通科目，専門科目の履修を通じて，幅広い教養と専門知識，応用能力を身につける学修を実施する。 【学修方法】 講義及び演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	（知識・技能，関心・意欲） ・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを応用したシステムを創生するための基礎的な知識と技能を体系的に修得しており，地域及び国際社会が抱える技術課題に高い関心を持って自ら課題探求とその解決に努めることができる人 ・知能情報工学の技術者としての標準的水準の能力を持ち，広い視野と自律的に行動できる能力を持つ国内外の社会に貢献できる人材を育成するために，基礎学力と旺盛な勉学意欲を持つ学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を豊かな表現力で社会に発信しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人
２．問題解決能力 問題を発見，設定，分析，解決する能力を有する。	【学修内容】 環境工学科目，総合科目の履修を通じて，問題を発見，設定，分析，解決する能力を養う学修を実施する。 【学修方法】 講義及び演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	
３．論理的表現能力 問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。	【学修内容】 専門科目の履修を通じて，問題解決方法及び結果を論理的に表現する能力を養う学修を実施する。 【学修方法】 講義及び演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	
４．自立的学習能力 未知の分野に対する興味を持ち，不足している知識があれば，自発的に修得する能力を有する。	【学修内容】 創成科目の履修を通じて，未知の分野への興味や，自己学習能力を身につける学修を実施する。 【学修方法】 講義及び演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	
５．コミュニケーション及びリーダシップ能力 コミュニケーション及び役割分担を確立して，グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。	【学修内容】 総合科目及び創成科目の履修を通じて，コミュニケーション能力及びチームによるプロジェクト管理能力を養う学修を実施する。 【学修方法】 講義及び演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	
６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 国内のみならず国際社会に対して，情報を発信したり，吸収したりする能力を有する	【学修内容】 総合科目の履修を通じて，実践的な英語力やプレゼンテーション能力，国際や実社会で活躍できる能力を身につける学修を実施する。 【学修方法】 講義及び演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	

（先端技術科学教育部：システム創生工学専攻　光システム工学コース）　【修士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与する。 １．専門知識と技能 工学における幅広い教養と情報通信及び光応用工学における専門的な知識及びスキルを備え，それらを実社会で応用する能力を有する。 ２．問題解決能力 問題を発見，設定，分析，解決する能力を有する。 ３．論理的表現能力 問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。 ４．自立的学習能力 未知の分野に対する興味を持ち，不足している知識があれば，自発的に修得する能力を有する。 ５．コミュニケーション及びリーダシップ能力 コミュニケーション及び役割分担を確立して，グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。 ６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 国内のみならず国際社会に対して，情報を発信したり，吸収したりする能力を有する。	光システム工学コースでは，光技術の専門家として国際的に通用する活力のある自立的な人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。 １．多様な分野の科目を履修させることで，正しい倫理感を持たせ，総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．各専攻における共通的な科目群を設定し，専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら，専攻を横断する広い視野を養わせる。特に組織的・系統的なハードウェアとソフトウェア系を対象としたシステム工学に関わる能力を身につけさせる。 ４．光応用工学分野の基礎知識を活用しつつ，幅広く環境問題を工学的・技術的に解決できる高度サステナブル社会の構築に資する能力を身につけさせる。 ５．これまでに学んだ専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし，質の高い研究論文を作成させる。	システム創生工学専攻では，デバイス，ハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク等の基礎技術を体系的に教育したうえで，これらの技術を統合したシステムを創生することのできる総合的な人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを応用したシステムを創生するための基礎的な知識と技能を体系的に修得しており，地域及び国際社会が抱える技術課題に高い関心を持って自ら課題探求とその解決に努めることができる人 ・高い専門能力と広い視野で，社会のリーダーとなり，また国際的なコミュニケーション能力を身につけた研究者・技術者を育成します。 （思考力・判断力・表現力等の能力） システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を豊かな表現力で社会に発信しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 推薦入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 面接では，口述試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 書類審査では，主として各コースについての専門的知識・技能，関心・意欲を評価します。 学力検査では，各コース専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 学部３年次学生を対象とする特別入試 書類審査では，専門的知識・技能を評価します。 学力検査では，専門分野に関する知識・技能を評価します。 面接では，主として知識・技能，関心・意欲，表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．専門知識と技能 工学における幅広い教養と情報通信及び光応用工学における専門的な知識及びスキルを備え，それらを実社会で応用する能力を有する。	【学修内容】 専攻内共通科目及び専門科目にて，工学における幅広い教養と，情報通信及び光応用工学における専門的知識やスキルを学び，総合科目において実社会で応用するための力を養う。 【学修方法】 講義及び演習・実習等による教育の実施。 【学修成果の評価方法】 試験，レポート等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別実験１，２は審査によって評価する。	（知識・技能，関心・意欲） ・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを応用したシステムを創生するための基礎的な知識と技能を体系的に修得しており，地域及び国際社会が抱える技術課題に高い関心を持って自ら課題探求とその解決に努めることができる人 ・高い専門能力と広い視野で，社会のリーダーとなり，また国際的なコミュニケーション能力を身につけた研究者・技術者を育成します。 （思考力・判断力・表現力等の能力） システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を豊かな表現力で社会に発信しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人
２．問題解決能力 問題を発見，設定，分析，解決する能力を有する。	【学修内容】 工学に関わる問題点の発見，課題の設定や，調査，分析を経て解決に導くための力を養う。 【学修方法】 講義及び演習・実習・実験等による教育の実施。研究室単位での少人数指導。 【学修成果の評価方法】 試験，レポート，演習・実習等への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別実験１，２は審査によって評価する。	
３．論理的表現能力 問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。	【学修内容】 工学に関わる問題とその解決方法及び解決結果を，明確かつ論理的に表現するための力を養う。 【学修方法】 演習・実習・実験等による教育の実施。学会等における研究成果発表の指導。修士論文の作成の指導。 【学修成果の評価方法】 レポートや演習・実習・学会等への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別実験１，２は審査によって評価する。	
４．自立的学習能力 未知の分野に対する興味を持ち，不足している知識があれば，自発的に修得する能力を有する。	【学修内容】 光システム工学輪講及び演習１，２，光システム工学特別実験１，２において，未知の分野に対する興味を持ち，不足している知識を自発的に修得する能力を養う。 【学修方法】 研究室単位での少人数指導。 【学修成果の評価方法】 演習・実験への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別実験１，２は審査によって評価する。	
５．コミュニケーション及びリーダシップ能力 コミュニケーション及び役割分担を確立して，グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。	【学修内容】 ニュービジネス特論，光システム工学特別実験１，２において，コミュニケーション及び役割分担を確立し，グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を養う。 【学修方法】 講義等による教育の実施。研究室単位での少人数指導。 【学修成果の評価方法】 レポート等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別実験１，２は審査によって評価する。	
６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 国内のみならず国際社会に対して，情報を発信したり，吸収したりする能力を有する。	【学修内容】 プレゼンテーション技法，光システム工学特別実験１，２等において，国内外の社会に対する情報発信・吸収を行う力を養う学修を実施する。 【学修方法】 実習・実験等による教育の実施。研究室単位での少人数指導。学会等における研究成果発表の指導。 【学修成果の評価方法】 演習・実習，学会等への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別実験１，２は審査によって評価する。	

先端技術科学教育部

大学院の目的（大学院学則　第１条）
徳島大学大学院は，徳島大学の目的使命に則り，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究め，もって文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。

学部（学科）の教育研究上の目的（教育部部規則等から抜粋）
本教育部の教育研究上の目的は，次のとおりとする。 ⑴ 豊かな人格と教養並びに自発的意欲を育て，工学の基礎知識を基とした分析力や課題探求・解決能力を備え，社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を持つ技術者・研究者を育成する。 ⑵ 工業分野の広角的な教育を実施し，幅広い視点で現代社会に生じている問題の分析力や解決能力を備えた人材を育成する。 ⑶ 国際レベルの先進的研究を推進し，豊かで健全な社会の創造に貢献する。 ⑷地域社会の活力ある発展のために，社会人の再教育，地域企業との共同研究による技術開発を推進する。 ⑸平和な国際社会を構築するための国際交流を活性化する。

先端技術科学教育部　博士後期課程

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。 １．深い学識と自立的な研究能力及び高度専門職業能力 広い視野と高度な専門知識・技能を身につけ，自立して研究を遂行できる能力を備えるとともに，後進を指導し，工学分野の専門的な職業に従事できる卓越した能力を有している。 ２．倫理観，責任感，創造力，応用力及び洞察力 高い倫理観と強固な責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力及び深い洞察力をもって，自立して行動できる。 ３．国際的発信力及び社会貢献 高度な国際的視野を有し，世界をリードする研究成果を発信するとともに，専門分野を牽引して地域と国際社会の発展に貢献することができる。	先端技術科学教育部では，学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために，以下の方針で教育課程を編成・実施します。 １．教育課程の編成 豊かな人格と教養並びに自発的意欲を育て，工学分野の卓越した専門的知識及び能力を修得させる授業科目を開設するとともに，博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。 ２．教育方法 国際レベルの先進的研究並びに地域企業との共同研究による技術開発を推進し，体系的な教育と研究指導を行うとともに，国際交流を活性化し，自立して独創的な研究を遂行できる能力と高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。 ３．学修成果の評価 客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。	先端技術科学教育部は，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，卓越した学術及び文化を継承するとともに，学びの志と進取の気風をもって未来へ飛躍する人材を養成します。そのため，課題に対して自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 【博士後期課程】 先端技術科学教育部博士後期課程は，その理念，目標，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，卓越した学術及び文化を継承するとともに，学びの志と進取の気風をもって未来へ飛躍する人材を養成します。そのため，課題に対して自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 ・社会人としてだけでなく，研究者あるいは技術者としての高い倫理観を持ち，社会を豊かにすることを目的とした科学技術の創造及び学問分野の開拓に熱意をもって取り組むことができる人 ・自身の専門の立場から現代の科学技術に対する課題を提起し，専門知識と洞察力を発揮してその本質を捉え，独自の発想や創造によって解決することに旺盛な意欲を持っている人 ・豊かな国際的視野と社会性を持ち，世界をリードする研究者として最先端の研究成果を世界に発信し，かつ地域社会の中で技術を牽引する立場として活躍することを強く望む人

（先端技術科学教育部：知的力学システム工学専攻　建設創造システム工学コース）　【博士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。 １．専門知識と卓抜した技能 工学における幅広い教養と建設工学分野における高度な専門知識及び卓抜したスキルを備え，即戦力として実社会で応用する能力や先駆的な学術研究を推進できる能力を有する。 ２．問題解決能力と新分野創造力 現代社会に生じている問題に対して指導的な立場から分析・問題解決にあたる能力を有し，かつ，社会・自然の変化に柔軟に対応しつつ新たな分野を創造・構築することのできる能力を有する。 ３．論理的表現能力 社会の問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に表現する能力を有する。 ４．自立的学習能力 未知の分野に対する興味を持ち，旺盛な自発的学習能力を有する。 ５．コミュニケーション及びリーダシップ能力 コミュニケーション及び役割分担を指導的立場から確立して，グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。 ６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 国際社会に対する高度なコミュニケーション能力を有し，平和な社会の構築と国際化を指導的立場から推進できる能力を有する。	建設創造システム工学コースでは，社会基盤を担う建造物の建設技術と自然環境の保全技術に関する高度かつ広範な知識を有し，指導的な立場から問題を解決するのみならず自ら問題を探求・設定する能力を身につけるとともに，豊かな人格と教養及び自発的意欲を模範的に示し、建設創造システム工学を独創的に創造できる人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。 １．多様な分野の科目を履修させることで，学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．自身の専門領域以外に関する演習を行うことで，他の領域からの視点や方法論などを学ばせ，幅広い知識を身につけさせる。 ４．博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで，専門性を深めさせる。 ５．社会基盤を構築する各種施設・構造物の設計や施工，保全・補修に関する高度な力学的理論と専門的な研究手法と，環境エネルギー工学の基礎知識に基づき工学技術が環境に及ぼす影響を考慮しながら建設工学に関わる先駆的な学術研究を推進・展開する能力を身につけさせるとともに，最新の情報システムと環境システムを融合した高度な知的力学システムの創造を指導的な立場から推進できる能力を涵養させる。 ６．これまでに学んだ 2 つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし，国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。	知的力学システム工学専攻では，基礎的知識である力学的理論を学習した上で，豊かな人格と教養及び自発的意欲を持ち，知的力学システムを独創的に創造できる人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・工学における幅広い教養と知的力学システム工学における高い専門知識を修得し，幅広い視点から問題を分析・解決しようとする人 ・生活・生産基盤施設，交通施設，防災施設，環境保全施設等の調査・解析・計画，設計・施工・運用システム及び維持管理に関わる技術を研究するのに必要な高い専門能力と自立的に行動できる能力を持つ学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） 論理的な思考や判断に基づいた豊かな表現力を有し，応用力及び創造力を駆使して社会や自然の変化に柔軟に対応しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 強い責任感と高い倫理観を有し，かつ，自主的・継続的に学習し，多様な人々と協働して地域や国際社会に貢献しようとする人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，語学力，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．専門知識と卓抜した技能
工学における幅広い教養と建設工学分野における高度な専門知識及び卓抜したスキルを備え，即戦力として実社会で応用する能力や先駆的な学術研究を推進できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
工学分野の共通的な知識と，社会基盤システムと自然環境の保全に関する専門知識とスキルについて学修し，それらを活用できる能力を養う。

【学修方法】
総合科目や専門科目の講義や演習により学修させる。

【学修成果の評価方法】
試験等により到達度を客観的に評価する。</td><td rowspan="5">（知識・技能，関心・意欲）
・工学における幅広い教養と知的力学システム工学における高い専門知識を修得し，幅広い視点から問題を分析・解決しようとする人
・生活・生産基盤施設，交通施設，防災施設，環境保全施設等の調査・解析・計画，設計・施工・運用システム及び維持管理に関わる技術を研究するのに必要な高い専門能力と自立的に行動できる能力を持つ学生を求めています。

（思考力・判断力・表現力等の能力）
論理的な思考や判断に基づいた豊かな表現力を有し，応用力及び創造力を駆使して社会や自然の変化に柔軟に対応しようとする人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
強い責任感と高い倫理観を有し，かつ，自主的・継続的に学習し，多様な人々と協働して地域や国際社会に貢献しようとする人</td></tr>
<tr><td>２．問題解決能力と新分野創造力
現代社会に生じている問題に対して指導的な立場から分析・問題解決にあたる能力を有し，かつ，社会・自然の変化に柔軟に対応しつつ新たな分野を創造・構築することのできる能力を有する。</td><td>【学修内容】
幅広い分野の問題点を認識でき，問題解決にあたる能力と新たな研究分野を創造する能力を養う。

【学修方法】
総合科目をはじめとする多様な分野の科目の履修により学修させる。

【学修成果の評価方法】
試験等により到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>３．論理的表現能力
社会の問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に表現する能力を有する。</td><td>【学修内容】
社会問題の解決に向けた論理的表現能力と情報発信力を養う。

【学修方法】
異分野を含む基礎的及び実践的なテーマ設定のもとに行われた課題演習・調査・実験を通じて学修させる。

【学修成果の評価方法】
レポート等に基づいて評価する。</td></tr>
<tr><td>４．自立的学習能力
未知の分野に対する興味を持ち，不足する知識を自覚し自発的な学習をする能力を有する。</td><td>【学修内容】
課題発見能力を養うとともに，解決に導くための必要な知識を自覚し，身に付ける能力を養う。

【学修方法】
社会基盤に関する応用的，実践的な研究を通じて学修させる。

【学修成果の評価方法】
博士論文として評価する。</td></tr>
<tr><td>５．コミュニケーション及びリーダシップ能力
コミュニケーション及び役割分担を確立して，グループによる共同プロジェクトを運営する能力を有する。</td><td>【学修内容】
豊かな教養及び専門知識に基づいた計画・企画の実施，実行方法を学修させる。

【学修方法】
少人数グループにおける演習・実習・実験や，博士論文の研究を通じて学修させる。

【学修成果の評価方法】
博士論文等の発表を通して評価する。</td></tr>
<tr><td>６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力
国際社会に対する高度なコミュニケーション能力を有し，平和な社会の構築と国際化を指導的立場から推進できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高め，国際や実社会で活躍できる能力を身に付けさせる。

【学修方法】
国際共同研究や国際学会での発表等を通じて学修させる。

【学修成果の評価方法】
レポート等により到達度を客観的に評価する。</td></tr>
</table>

（先端技術科学教育部：知的力学システム工学専攻　機械創造システム工学コース）　【博士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。 １．高度な専門知識 知的力学システム工学における最先端の高度な専門知識を有する。 ２．創造的解決能力 現代社会に生じている問題の本質を分析するとともに，専門知識を高度に駆使し，創造的に解決する能力を有する。 ３．リーダシップ 問題解決に向けてプロジェクトを立案するとともに，リーダーとしてグループを牽引するリーダシップを有する。 ４．国際的コミュニケーション能力 自らの成し遂げた成果を広く社会に発信することのできる国際的なコミュニケーション能力を有する。 ５．人間的品格 国際社会に通用する高い見識と倫理観を有する。	機械創造システム工学コースでは，機械工学に関する高度の専門知識と研究能力を有する創造的な技術者・研究者を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。 １．多様な分野の科目を履修させることで，学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．自身の専門領域以外に関する演習を行なうことで，他の領域からの視点や方法論などを学ばせ，幅広い知識を身につけさせる。 ４．博士論文に関連の深い分野の演習を行なうことで，専門性を深めさせる。 ５．機械工学に関する専門性を更に深化・発展させるとともに，周辺分野との学際的な専門知識を有する創造的技術者・研究者を養成する。また，プロジェクトリーダーとして研究開発を主導できるコミュニケーション能力やリーダシップを有し，創造的に問題解決を成し遂げることで豊かで健全な社会の構築に貢献するとともに，高い倫理感を涵養する。 ６．これまでに学んだ 2 つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし，国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。	知的力学システム工学専攻では，基礎的知識である力学的理論を学習した上で，豊かな人格と教養及び自発的意欲を持ち，知的力学システムを独創的に創造できる人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・工学における幅広い教養と知的力学システム工学における高い専門知識を修得し，幅広い視点から問題を分析・解決しようとする人 ・機械工学に関する基礎学力を有し，より高い専門性と幅広い専門基礎の素養を身につけたい優秀な学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） 論理的な思考や判断に基づいた豊かな表現力を有し，応用力及び創造力を駆使して社会や自然の変化に柔軟に対応しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 強い責任感と高い倫理観を有し，かつ，自主的・継続的に学習し，多様な人々と協働して地域や国際社会に貢献しようとする人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，語学力，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．高度な専門知識
知的力学システム工学における最先端の高度な専門知識を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目，環境工学科目，専門科目，及び，特別演習・実験科目を通して，機械工学に関する専門性をさらに深化，発展させるとともに，多様な分野の科目を履修させることによって，専門知識の高度化と総合化を促進させる。
【学修方法】
総合科目，環境工学科目，及び，専門科目においては，講義・演習等による教育と指導を実施する。また，特別演習・実験科目に含まれる機械創造システム工学特別演習・特別研究においては，個別指導による少人数教育を実施する。
【学修成果の評価方法】
試験やレポート等により到達度を客観的に評価する。ただし，機械創造システム工学特別演習・特別研究については，研究室での取組み状況，学位論文及び学位論文公聴会における発表等を厳正に審査する。</td><td rowspan="4">（知識・技能，関心・意欲）
・工学における幅広い教養と知的力学システム工学における高い専門知識を修得し，幅広い視点から問題を分析・解決しようとする人
・機械工学に関する基礎学力を有し，より高い専門性と幅広い専門基礎の素養を身につけたい優秀な学生を求めています。

（思考力・判断力・表現力等の能力）
論理的な思考や判断に基づいた豊かな表現力を有し，応用力及び創造力を駆使して社会や自然の変化に柔軟に対応しようとする人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
強い責任感と高い倫理観を有し，かつ，自主的・継続的に学習し，多様な人々と協働して地域や国際社会に貢献しようとする人</td></tr>
<tr><td>２．創造的解決能力
現代社会に生じている問題の本質を分析するとともに，専門知識を高度に駆使し，創造的に解決する能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目，環境工学科目，専門科目，及び，特別演習・実験科目を通して，幅広い視点から現代社会における問題の本質を分析し，高度な知識を利用して解決する能力の基盤を身に付けさせる。さらに，特別演習・実験科目に含まれる機械創造システム工学特別演習・特別研究を通して，機械工学の特定分野に関する専門知識と他分野に関する専門知識を高度に駆使することによって，対象とする問題を多様な方法論を用いて創造的に解決する経験を積ませる。これによって，自身で問題を発見，理解，分析し，多角的な視野から創造的に解決する能力を養成する。
【学修方法】
総合科目，環境工学科目，及び，専門科目においては，講義・演習等による教育と指導を実施する。また，特別演習・実験科目に含まれる機械創造システム工学特別演習・特別研究においては，個別指導による少人数教育を実施する。
【学修成果の評価方法】
試験やレポート等により到達度を客観的に評価する。ただし，機械創造システム工学特別演習・特別研究については，研究室での取組み状況，学位論文及び学位論文公聴会における発表等を厳正に審査する。</td></tr>
<tr><td>３．リーダシップ
問題解決に向けてプロジェクトを立案するとともに，リーダーとしてグループを牽引するリーダシップを有する。</td><td>【学修内容】
機械創造システム工学特別演習・特別研究を通じて，所属する研究室において，その主宰教員の指導の下，自身が従事する研究開発をプロジェクトとして立案させるとともに，自身がそのプロジェクトのリーダーとして，同研究室の博士前期課程学生や学部学生に対して指導的な役割を果たしつつ，その研究開発を主導，牽引する経験を積ませる。これによって，研究開発におけるリーダーシップを醸成する。
【学修方法】
個別指導による少人数教育を実施する。
【学修成果の評価方法】
研究室での取組み状況，学位論文及び学位論文公聴会における発表等を厳正に審査する。</td></tr>
<tr><td>４．国際的コミュニケーション能力
自らの成し遂げた成果を広く社会に発信することのできる国際的なコミュニケーション能力を有する。</td><td>【学修内容】
プレゼンテーションやコミュニケーションに関する総合科目及び機械創造システム工学特別演習・特別研究を通じて，対象とする問題と解決方法及びその結果を英語により正確に伝達することによって，自らが成し遂げた成果を世界に的確に発信できるプレゼンテーション能力，及び，世界の研究者や技術者と意見交換できる能力を練成させる。これによって，外国人に対して，伝えるべき情報や事柄を的確に表現しつつ論理的に説明でき，かつ，議論できる国際的なコミュニケーション能力を身に付けさせる。
【学修方法】
プレゼンテーションやコミュニケーションに関する総合科目においては，講義，演習等による教育と指導や学会発表等についての個別指導を実施する。また，　機械創造システム工学特別演習・特別研究においては，個別指導による少人数教育を実施する。
【学修成果の評価方法】
プレゼンテーションやコミュニケーションに関する総合科目については，レポートやポートフォリオ等により到達度を客観的に評価する。また，機械創造システム工学特別演習・特別研究については，研究室での</td></tr>
</table>

	取組み状況，学位論文及び学位論文公聴会における発表等を厳正に審査する。	
５．人間的品格 国際社会に通用する高い見識と倫理観を有する。	【学修内容】 総合科目，環境工学科目，専門科目，特別演習・実験科目，及び，自由科目を通して，専門分野を含めた多様な分野に関する高い見識と国際的なコミュニケーション能力を身に付かせるとともに，機械工学が人と国際社会を支え，工業分野から地球環境・エネルギーに至る地球規模の課題を解決する学問であることを理解させ，持続可能な国際的な社会システムを構築するための倫理観を涵養する。 【学修方法】 総合科目，環境工学科目，専門科目，特別演習・実験科目，及び，自由科目においては，講義，実験，演習等による教育と指導を実施する。さらに，入学時にe-ラーニングによる研究倫理教育プログラムを受講することを義務付けることによって，倫理観の涵養を図る。 【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により到達度を客観的に評価する。ただし，機械創造システム工学特別演習・特別研究については，研究室での取組み状況，学位論文及び学位論文公聴会における発表等を厳正に審査する。また， e-ラーニングによる研究倫理教育プログラムを受講し，修了することを義務化している。	

（先端技術科学教育部：物質生命システム工学専攻　化学機能創生コース）　【博士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。 １．専門知識と技能 物質創生の基礎としての化学分野を，幅広くその周辺領域－物理学や生命科学等－も含め，深く理解し応用させるだけではなく，新たな分野を構築することのできる能力を有する。また，環境工学科目を履修することで，環境に与える化学及び化学技術の影響を具体的に把握する能力を有する。さらに，環境工学履修モデルの学生は，その課程を修了することで，高度環境工学技術者としての能力を有する。 ２．問題解決能力 現代社会が直面する種々の問題を主として化学的な視点から指導的立場で分析し，解決する能力を有する。特に，化学物質の創製を，人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら指導的立場で進展させることができる能力を有する。 ３．論理的表現能力及びコミュニケーション能力 問題分析過程において，問題点を論理的，かつ明確に表現し伝えるコミュニケーション能力を有する。 ４．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に指導的な立場で積極的に寄与できる能力を有する。 ５．統合的な研究推進力と新たなる分野の構築・発展能力 化学及び化学技術に関する高度に専門的な研究手法を用いて，新しい原理，方法，現象等の探求を行い．更に高度に発展させる能力を有する。	化学機能創生コースでは，化学及び化学技術に関する新しい原理、方法、現象等の探求を通じてその成果を更に高度に発展させることに興味を持ち、将来、国際的、学際的な研究プロジェクトの中核となる人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。 １．問題分析過程において，指導的立場で，問題点を明確に表現し伝えるコミュニケーション能力，地域社会を含む産業界の活性化に指導的立場で貢献する能力及び豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に指導的な立場で寄与できる能力を養成する（学習・教育目標のＤ及びＥに対応する総合科目及び企業関連の総合科目の履修により実施）。 ２．環境に与える化学及び化学技術の影響を指導的立場で具体的に把握する能力を養成する（資源エネルギー変換特論の履修により実施）。 ３．物質創生の基礎としての化学分野を，幅広くその周辺領域－物理学や生命科学等－も含め，深く理解し応用させるだけではなく，新たな分野を構築することのできる能力を養成する（学習・教育目標のＡに対応する総合科目・専門科目の履修により実施）。 ４．化学物質の創製を，人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら指導的立場で進展させることができる能力及び現代社会が直面する種々の問題を主として化学的な視点から指導的立場で分析し，解決する能力を養成する（学習・教育目標のＢ及びＣに対応する専門科目からの履修により実施）。 ５．化学及び化学技術に関する高度に専門的な研究手法を用いて，新しい原理，方法，現象等の探求を行い，さらに高度に発展させる能力を養成する（化学機能創生特別演習，化学機能創生特別研究の履修により実施）。	物質生命システム工学専攻では，化学工学，生物工学を融合させ，新素材の開発，生体分子の構造と機能解析，資源循環，化学プラントの開発及び生命現象の解明と技術応用を通じて，人間性豊かで想像力に富み，工学の幅広い分野に関する汎用的能力を備えた人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・生命及び地球環境の保全，グリーン・ケミストリー，食料・化学物質・資源などの物質循環，生物多様性の保全，などのテーマに関する高度な知識や技能を習得し，修了後は当該研究分野のさらなる発展や，社会の発展に貢献しようとする人 ・化学及び化学技術に関する研究テーマを深く探求し，その過程で身につけた高度な専門知識や実験技能，問題解決能力などを通じて社会や産業界に貢献できる学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） グローバル化へ向かう多種多様な情報や価値観の中において，自分独自の思考力，判断力に基づいて問題を考察し，国際的コミュニケーションを通じてその結果を表現しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 様々な問題を解決する上で，自らの主体性を持つと同時に，異なる教育・研究の背景を持つ人々の考えも尊重して学び，協働しようとする人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，語学力，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．専門知識と技能
物質創生の基礎としての化学分野を，幅広くその周辺領域－物理学や生命科学等－も含め，深く理解し応用させるだけではなく，新たな分野を構築することのできる能力を有する。また，環境工学科目を履修することで，環境に与える化学及び化学技術の影響を具体的に把握する能力を有する。さらに，環境工学履修モデルの学生は，その課程を修了することで，高度環境工学技術者としての能力を有する。</td><td>【学修内容】
専門科目群及び総合科目群から，化学の様々な専門分野及び周辺分野に関する科目を履修する。また環境工学科目である資源エネルギー変換特論を履修させる。

【学修方法】
講義及び演習による。

【学修成果の評価方法】
試験などによって到達度を客観的に評価する。</td><td rowspan="5">（知識・技能，関心・意欲）
・生命及び地球環境の保全，グリーン・ケミストリー，食料・化学物質・資源などの物質循環，生物多様性の保全，などのテーマに関する高度な知識や技能を習得し，修了後は当該研究分野のさらなる発展や，社会の発展に貢献しようとする人
・化学及び化学技術に関する研究テーマを深く探求し，その過程で身につけた高度な専門知識や実験技能，問題解決能力などを通じて社会や産業界に貢献できる学生を求めています。

（思考力・判断力・表現力等の能力）
グローバル化へ向かう多種多様な情報や価値観の中において，自分独自の思考力，判断力に基づいて問題を考察し，国際的コミュニケーションを通じてその結果を表現しようとする人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
様々な問題を解決する上で，自らの主体性を持つと同時に，異なる教育・研究の背景を持つ人々の考えも尊重して学び，協働しようとする人</td></tr>
<tr><td>２．問題解決能力
現代社会が直面する種々の問題を主として化学的な視点から指導的立場で分析し，解決する能力を有する。特に，化学物質の創製を，人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら指導的立場で進展させることができる能力を有する。</td><td>【学修内容】
専門科目群から，化学の様々な専門分野及びその周辺分野に関する科目を履修させる。また環境工学科目である資源エネルギー変換特論を履修させる。

【学修方法】
講義及び演習による。

【学修成果の評価方法】
試験などによって到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>３．論理的表現能力及びコミュニケーション能力
問題分析過程において，問題点を論理的，かつ明確に表現し伝えるコミュニケーション能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目群からプレゼンテーション技法を，特別演習・実験科目群から化学機能創生特別演習及び化学機能創生特別研究を履修させる。

【学修方法】
講義や演習，さらに学生によるプレゼンテーションをコース内の発表会，学外の研究集会において行う。

【学修成果の評価方法】
講義や演習は試験などにより評価し，プレゼンテーションは指導教員らが審査，評価する。</td></tr>
<tr><td>４．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力
豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に指導的な立場で積極的に寄与できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目群から国際先端技術科学特論 1 及び同 2 を，特別演習・実験科目群から化学機能創生特別演習及び化学機能創生特別研究を履修させる。

【学修方法】
講義や演習，輪講，さらに学生によるプレゼンテーションをコース内の発表会や，学外の研究集会において行う。これらのために必要な指導を指導教員から受ける。

【学修成果の評価方法】
講義や演習は試験などにより評価し，輪講やプレゼンテーションは指導教員らが審査，評価する。</td></tr>
<tr><td>５．統合的な研究推進力と新たなる分野の構築・発展能力
化学及び化学技術に関する高度に専門的な研究手法を用いて，新しい原理，方法，現象等の探求を行い．更に高度に発展させる能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目群から国際先端技術科学特論 1 及び同 2 を，特別演習・実験科目群から化学機能創生特別演習及び化学機能創生特別研究を履修させる。

【学修方法】
研究室における輪講や日々の研究活動，博士論文の執筆，そして学会における発表活動などを行う。これらのために必要な指導を指導教員から受ける。

【学修成果の評価方法】
輪講，研究活動，プレゼンテーションなどは指導教員が評価する。博士論文は指導教員を含む複数の教員による審査の上，プレゼンテーション（公聴会）を行い，　口頭試問を行った後に評価する。</td></tr>
</table>

（先端技術科学教育部：物質生命システム工学専攻　生命テクノサイエンスコース）　【博士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。 １．　専門知識の自立的学習能力と活用能力 生命科学研究の基礎として生命科学の幅広い分野を自立的に学習・理解し、それを応用する能力を有する。 ２．生命科学技術者倫理の理解と活用能力 生物の多様性や生物工学技術が生物及び地球環境に与える影響を理解し、健全な社会や環境の保全・創造に寄与する能力を修得している。 ３．問題分析力と解決能力 主として生物工学的な視点から、現代社会が直面する種々の問題を論理的かつ明確に分析し、それを解決する能力を有する。 ４．論理的コミュニケーション能力と情報発信能力 問題点の把握・分析・解決策立案の過程を論理的に表現して伝え議論するコミュニケーション能力を有する。また研究成果等の情報を分かり易く社会に発信できる能力を有する。 ５．国際的貢献能力 豊かで健全な国際社会構築のための国際交流や国際協力に積極的に寄与できる能力を有する。 ６.リーダシップ能力 生命科学の課題解決と発展にリーダシップを発揮できる能力を有する。	生命テクノサイエンスコースでは、世界をリードする生物工学、生命科学の研究、技術開発を行い、環境、医薬、化学エネルギー、食糧生産の分野での諸問題を生物工学により解決し、国際的に活躍できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。 １．多様な分野の科目を履修させることで，学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．自身の専門領域以外に関する演習を行うことで，他の領域からの視点や方法論などを学ばせ，幅広い知識を身につけさせる。 ４．博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで，専門性を深めさせる。 ５．生物工学領域の高度な専門的知識を理解し、それを最先端技術開発や社会・環境の保全・創造に活用する能力を養わせるとともに、学会発表・原著論文作成・特許申請等を通じて研究成果を広く世界に発信し、国際的かつ学術的な研究プロジェクトを推進できる能力を「微生物分子論」、「酵素機能工学」、「生体機能工学」、「分子病源微生物論」等により修得させる。 ６．これまでに学んだ 2 つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし，国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。	物質生命システム工学専攻では，化学工学，生物工学を融合させ，新素材の開発，生体分子の構造と機能解析，資源循環，化学プラントの開発及び生命現象の解明と技術応用を通じて，人間性豊かで想像力に富み，工学の幅広い分野に関する汎用的能力を備えた人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・生命及び地球環境の保全，グリーン・ケミストリー，食料・化学物質・資源などの物質循環，生物多様性の保全，などのテーマに関する高度な知識や技能を習得し，修了後は当該研究分野のさらなる発展や，社会の発展に貢献しようとする人 ・生物工学技術者・研究者をめざし，本コースに強い入学意欲を持った向学心の旺盛な学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） グローバル化へ向かう多種多様な情報や価値観の中において，自分独自の思考力，判断力に基づいて問題を考察し，国際的コミュニケーションを通じてその結果を表現しようとする人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 様々な問題を解決する上で，自らの主体性を持つと同時に，異なる教育・研究の背景を持つ人々の考えも尊重して学び，協働しようとする人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，語学力，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．　専門知識の自立的学習能力と活用能力
　生命科学研究の基礎として生命科学の幅広い分野を自立的に学習・理解し、それを応用する能力を有する。</td><td>【学修内容】
専門科目群において生命科学の諸分野を幅広く学修させる。

【学修方法】
講義形式による少人数指導を実施する。

【学修成果の評価方法】
試験・レポート・プレゼンテーションにより到達度を客観的に評価する。</td><td rowspan="5">（知識・技能，関心・意欲）
・生命及び地球環境の保全，グリーン・ケミストリー，食料・化学物質・資源などの物質循環，生物多様性の保全，などのテーマに関する高度な知識や技能を習得し，修了後は当該研究分野のさらなる発展や，社会の発展に貢献しようとする人
・生物工学技術者・研究者をめざし，本コースに強い入学意欲を持った向学心の旺盛な学生を求めています。

（思考力・判断力・表現力等の能力）
　グローバル化へ向かう多種多様な情報や価値観の中において，自分独自の思考力，判断力に基づいて問題を考察し，国際的コミュニケーションを通じてその結果を表現しようとする人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
　様々な問題を解決する上で，自らの主体性を持つと同時に，異なる教育・研究の背景を持つ人々の考えも尊重して学び，協働しようとする人</td></tr>
<tr><td>２．生命科学技術者倫理の理解と活用能力
　生物の多様性や生物工学技術が生物及び地球環境に与える影響を理解し、健全な社会や環境の保全・創造に寄与する能力を修得している。</td><td>【学修内容】
環境工学科目群の資源エネルギー変換特論において健全な社会や環境の保全・創造に寄与する能力を身に付ける学修を実施する。

【学修方法】
講義形式による少人数指導を実施する。

【学修成果の評価方法】
試験やレポートにより到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>３．問題分析力と解決能力
　主として生物工学的な視点から、現代社会が直面する種々の問題を論理的かつ明確に分析し、それを解決する能力を有する。</td><td>【学修内容】
専門科目群の生命テクノサイエンス特別演習・特別実験において種々の科学的問題を論理的かつ明確に分析し，それを解決する能力を身に付ける学修を実施する。

【学修方法】
演習・実験・研究における少人数指導を実施する。

【学修成果の評価方法】
試験やレポートにより到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>４．論理的コミュニケーション能力と情報発信能力
　問題点の把握・分析・解決策立案の過程を論理的に表現して伝え議論するコミュニケーション能力を有する。また研究成果等の情報を分かり易く社会に発信できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目のプレゼンテーション技法においてコミュニケーション能力や研究成果等の情報発信能力を身に付ける学修を実施する。

【学修方法】
集中講義形式による少人数指導を実施する。

【学修成果の評価方法】
学会発表やレポートにより到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>５．国際的貢献能力
　豊かで健全な国際社会構築のための国際交流や国際協力に積極的に寄与できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目の国際先端技術科学特論において世界の先端技術・科学の動向や実情に関する理解を深め，国際交流や国際協力に積極的に寄与できる能力を身に付ける学修を実施する。

【学修方法】
指導教員による少人数指導を実施する。

【学修成果の評価方法】
レポート及びポートフォリオにより到達度を客観的に評価する。</td></tr>
<tr><td>６．リーダシップ能力
　生命科学の課題解決と発展にリーダシップを発揮できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
博士論文の研究において生命科学の課題解決と発展にリーダシップを発揮できる能力を身に付ける学修を実施する。

【学修方法】
博士論文の作成の指導を実施する。

【学修成果の評価方法】
博士論文は指導教員を含む複数の教員による審査の上，プレゼンテーション（公聴会）を行い，口頭試問を行った後に評価する。</td></tr>
</table>

（先端技術科学教育部：システム創生工学専攻　電気電子創生工学コース）　【博士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。 １．専門知識と深い理解力 工学・電気電子工学の幅広い先端知識をベースに専門分野に関する深い理解と応用力を有する。 ２．コミュニケーション能力・情報収集・発信能力 コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力，情報収集・処理・発信能力を有する。 ３．国際的視野と高い倫理観 電気電子工学に関する諸現象を様々な視点から考察でき，国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力を有する。 ４．問題解決能力 電気電子工学に関する諸問題について分析する能力を有し，自ら，その解決のための課題設定能力及び解決能力を有する。	電気電子創生工学コースでは，デバイス、エネルギー、電子回路、システム等の技術を統合した電気電子システムを創生することのできる総合的な人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。 １．多様な分野の科目を履修させることで，学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．自身の専門領域以外に関する演習を行うことで，他の領域からの視点や方法論などを学ばせ，幅広い知識を身につけさせる。 ４．博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで，専門性を深めさせる。 ５．電気電子工学に関する高度な専門知識を教授する専門科目を設置し、専攻分野において国際水準の研究を実施できる技術者を養成する。 ６．これまでに学んだ 2 つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし，国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。	システム創生工学専攻では，デバイス，ハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク等の基礎技術を体系的に教育したうえで，これらの技術を統合したシステムを創生することのできる総合的な人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを統合したシステムを創生できる十分な知識と技能を持つ研究者としての素養を備えており，地域及び国際社会が抱える技術課題にいち早く着眼し，その解決を自立的に進めることができる人 ・電気電子工学に関する課題を，幅広い視野と論理的な思考で解決し，地域社会，国際社会に貢献できる研究者・技術者を育成するため，勉学に強い意欲を持った学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を正確かつ豊かな表現力で社会に発信できる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，語学力，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．専門知識と深い理解力
工学・電気電子工学の幅広い先端知識をベースに専門分野に関する深い理解と応用力を有する。</td><td>【学修内容】
専門科目群を通して，基礎的な専門分野を発展させた特定専門分野あるいはそれらを融合発展させた新しい専門分野に関する高度な専門知識・技術・応用力を有する専門技術者を育成する学修を実施する。

【学修方法】
講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導

【学修成果の評価方法】
試験，口頭試問，レポート等によって到達度を客観的に評価する。</td><td rowspan="4">（知識・技能，関心・意欲）
・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを統合したシステムを創生できる十分な知識と技能を持つ研究者としての素養を備えており，地域及び国際社会が抱える技術課題にいち早く着眼し，その解決を自立的に進めることができる人
・電気電子工学に関する課題を，幅広い視野と論理的な思考で解決し，地域社会，国際社会に貢献できる研究者・技術者を育成するため，勉学に強い意欲を持った学生を求めています。

（思考力・判断力・表現力等の能力）
システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を正確かつ豊かな表現力で社会に発信できる人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人</td></tr>
<tr><td>２．コミュニケーション能力・情報収集・発信能力
コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力，情報収集・処理・発信能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目群及び電気電子創生工学特別研究を通して，専門技術分野に関する情報収集，解析能力を有し問題点を探求し論理的な思考をもとに解決し，情報発信できる能力を養う学修を実施する。

【学修方法】
講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導。個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。

【学修成果の評価方法】
試験，口頭試問，レポート，博士論文の発表等によって到達度を客観的に評価する。博士論文は審査によって評価する。</td></tr>
<tr><td>３．国際的視野と高い倫理観
電気電子工学に関する諸現象を様々な視点から考察でき，国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力を有する。</td><td>【学修内容】
総合科目群及びコース専門科目群などを通して，地域社会・国際社会における豊かで健全な社会発展を，安全性と信頼性をベースとした高い視野から物事を捉え判断する能力を養う学習を実施する。

【学修方法】
講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導。個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。

【学修成果の評価方法】
試験，口頭試問，レポート等によって到達度を客観的に評価する。博士論文は審査によって評価する。</td></tr>
<tr><td>４．問題解決能力
電気電子工学に関する諸問題について分析する能力を有し，自ら，その解決のための課題設定能力及び解決能力を有する。</td><td>【学修内容】
コース専門科目群及び電気電子創生工学特別研究を通して，電気電子工学内の専門分野の問題点や研究課題を明確に認識理解し，創造性・独創性豊かな研究開発を，自律的・計画的に行う問題解決能力を養う学修を実施する。

【学修方法】
講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導。個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。

【学修成果の評価方法】
試験，口頭試問，レポート等によって到達度を客観的に評価する。博士論文は審査によって評価する。</td></tr>
</table>

（先端技術科学教育部：システム創生工学専攻　知能情報システム工学コース）　【博士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。 １．専門知識と卓抜した技能 工学における幅広い教養と情報通信及び知能工学における専門的な知識及び卓抜したスキルを備え，即戦力として実社会で応用する能力を有する。 ２．問題解決能力と創造能力 問題を発見，設定，分析，解決するだけでなく，それをヒントに新しいものを生み出す能力を有する。 ３．論理的表現能力 問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。 ４．自立的学習能力 未知の分野に対する興味を持ち，不足している知識があれば，自発的に修得する能力を有する。 ５．コミュニケーション及びリーダシップ能力 コミュニケーション及び役割分担を確立して，グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。 ６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 国内のみならず国際社会に対して，情報を発信したり，吸収したりする能力を有する。	知能情報システム工学コースでは，デバイス、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク等の技術を統合した知能情報システムを創生することのできる総合的な人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。 １．多様な分野の科目を履修させることで，学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．自身の専門領域以外に関する演習を行うことで，他の領域からの視点や方法論などを学ばせ，幅広い知識を身につけさせる。 ４．博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで，専門性を深める。 ５．専攻分野において国際水準の研究を実施できるように，社会での実応用を意識した実践的な専門応用技術を身につけさせる。 ６．これまでに学んだ 2 つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし，国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。	システム創生工学専攻では，デバイス，ハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク等の基礎技術を体系的に教育したうえで，これらの技術を統合したシステムを創生することのできる総合的な人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを統合したシステムを創生できる十分な知識と技能を持つ研究者としての素養を備えており，地域及び国際社会が抱える技術課題にいち早く着眼し，その解決を自立的に進めることができる人 ・知能情報工学の技術者としての標準的水準の能力を持ち，広い視野と自律的に行動できる能力を持つ国内外の社会に貢献できる人材を育成するために，基礎学力と旺盛な勉学意欲を持つ学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を正確かつ豊かな表現力で社会に発信できる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，語学力，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
１．専門知識と卓抜した技能 　工学における幅広い教養と情報通信及び知能工学における専門的な知識及び卓抜したスキルを備え，即戦力として実社会で応用する能力を有する。	【学修内容】 環境工学科目，専門科目の履修を通じて，幅広い教養と専門知識，応用能力を身につける学修を実施する。 【学修方法】 講義・演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	（知識・技能，関心・意欲） ・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを統合したシステムを創生できる十分な知識と技能を持つ研究者としての素養を備えており，地域及び国際社会が抱える技術課題にいち早く着眼し，その解決を自立的に進めることができる人 ・知能情報工学の技術者としての標準的水準の能力を持ち，広い視野と自律的に行動できる能力を持つ国内外の社会に貢献できる人材を育成するために，基礎学力と旺盛な勉学意欲を持つ学生を求めています。 （思考力・判断力・表現力等の能力） 　システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を正確かつ豊かな表現力で社会に発信できる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 　課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人
２．問題解決能力と創造能力 　問題を発見，設定，分析，解決するだけでなく，それをヒントに新しいものを生み出す能力を有する。	【学修内容】 総合科目，専門科目の履修を通じて，問題発見，設定，分析，解決力を高め，創造能力を養う学修を実施する。 【学修方法】 講義・演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	
３．論理的表現能力 　問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。	【学修内容】 専門科目の履修を通じて，問題解決方法及び結果を論理的に表現する能力を養う学修を実施する。 【学修方法】 講義・演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	
４．自立的学習能力 　未知の分野に対する興味を持ち，不足している知識があれば，自発的に修得する能力を有する。	【学修内容】 特別演習・実験科目の履修を通じて，未知の分野への興味や，自己学習能力を身につける学修を実施する。 【学修方法】 講義・演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	
５．コミュニケーション及びリーダシップ能力 　コミュニケーション及び役割分担を確立して，グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。	【学修内容】 特別演習・実験科目の履修を通じて，コミュニケーション能力及びチームによるプロジェクト管理能力を養う学修を実施する。 【学修方法】 講義・演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	
６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 　国内のみならず国際社会に対して，情報を発信したり，吸収したりする能力を有する。	【学修内容】 総合科目及び特別演習・実験科目の履修を通じて，国際や実社会で活躍できる情報発信能力を身につける学修を実施する。 【学修方法】 講義・演習・実習等により教育を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート，実習への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。	

（先端技術科学教育部：システム創生工学専攻　光システム工学コース）　【博士（工学）】

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。 １．専門知識と卓抜した技能 工学における幅広い教養と情報通信及び光応用工学における専門的な知識及び卓抜したスキルを備え，即戦力として実社会で応用する能力を有する。 ２．問題解決能力と創造能力 問題を発見，設定，分析，解決するだけでなく，それをヒントに新しいものを生み出す能力を有する。 ３．論理的表現能力 問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。 ４．自立的学習能力 未知の分野に対する興味を持ち，不足している知識があれば，自発的に修得する能力を有する。 ５．コミュニケーション及びリーダシップ能力 コミュニケーション及び役割分担を確立して，グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。 ６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 国内のみならず国際社会に対して，情報を発信したり，吸収したりする能力を有する。	光システム工学コースでは，デバイス、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク等の技術を統合した光応用システムを創生することのできる総合的な人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。 １．多様な分野の科目を履修させることで，学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化，ベンチャー企業の立ち上げができる能力，実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて，国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 ２．持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ，再生可能エネルギー，ＣＯ２削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 ３．自身の専門領域以外に関する演習を行うことで，他の領域からの視点や方法論などを学ばせ，幅広い知識を身につけさせる。 ４．博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで，専門性を深めさせる。 ５．光応用工学分野の基礎知識を活用しつつ，幅広く環境問題を工学的・技術的に解決できる高度サステナブル社会の構築に資する能力を身につけさせる。 ６．これまでに学んだ 2 つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし，国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。	システム創生工学専攻では，デバイス，ハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク等の基礎技術を体系的に教育したうえで，これらの技術を統合したシステムを創生することのできる総合的な人材の育成を目指しています。そのため，課題に対し自ら積極的に取り組む主体性，社会の多様性を理解できる能力，協働性をもった次のような人を求めています。 ●求める人物像 （知識・技能，関心・意欲） ・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを統合したシステムを創生できる十分な知識と技能を持つ研究者としての素養を備えており，地域及び国際社会が抱える技術課題にいち早く着眼し，その解決を自立的に進めることができる人 ・高い専門能力と広い視野で，社会のリーダーとなり，また国際的なコミュニケーション能力を身につけた研究者・技術者を育成します。 （思考力・判断力・表現力等の能力） システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を正確かつ豊かな表現力で社会に発信できる人 （主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人 ●入学者選抜の基本方針 一般入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，語学力，知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 社会人特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。 外国人留学生特別入試 面接では，プレゼンテーション，試問試験を含み，主として知識・技能，関心・意欲，思考力・判断力・表現力，主体性，協働性を総合して評価します。

<table>
<tr><th>【学修成果の到達目標】</th><th>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</th><th>【求める資質・能力】</th></tr>
<tr><td>１．専門知識と卓抜した技能
工学における幅広い教養と情報通信及び光応用工学における専門的な知識及び卓抜したスキルを備え，即戦力として実社会で応用する能力を有する。</td><td>【学修内容】
専門科目及び特別演習・実験科目にて，工学における幅広い教養と，情報通信及び光応用工学における専門的知識を学び，卓越したスキルを身につけ，総合科目において実社会で応用するための力を養う。

【学修方法】
講義及び演習・実習等による教育の実施。主専攻及び他専攻教員による個別指導。

【学修成果の評価方法】
試験，レポート等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別演習は審査によって評価する。</td><td rowspan="6">（知識・技能，関心・意欲）
・システムを構成する電気，電子，光，情報分野などの要素技術から，これらを統合したシステムを創生できる十分な知識と技能を持つ研究者としての素養を備えており，地域及び国際社会が抱える技術課題にいち早く着眼し，その解決を自立的に進めることができる人
・高い専門能力と広い視野で，社会のリーダーとなり，また国際的なコミュニケーション能力を身につけた研究者・技術者を育成します。

（思考力・判断力・表現力等の能力）
システムとその構成要素の本質について，広い視野のもとで深く洞察することができ，俯瞰的視点から柔軟で創造的な解決手段を見いだすことができる判断力を有するとともに，その思考過程と結論を正確かつ豊かな表現力で社会に発信できる人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
課題探求とその解決において，国内外及び専門分野を超えたチームを構成してその協力のもとで課題解決を図ることのできる，国際的な高いコミュニケーション能力を持ち，自らが修得した知識と技能を主体的に世界及び地域に展開して社会貢献をしようとする積極的な姿勢を持つ人</td></tr>
<tr><td>２．問題解決能力と創造能力
問題を発見，設定，分析，解決するだけでなく，それをヒントに新しいものを生み出す能力を有する。</td><td>【学修内容】
工学に関わる問題点の発見，課題設定，調査，分析を経て解決に導くための力，さらにそれらをヒントに新しいものを生み出す発想力を養う。

【学修方法】
講義及び演習・実習等による教育の実施。主専攻及び他専攻教員による個別指導。

【学修成果の評価方法】
試験，レポート，演習・実習等への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別演習は審査によって評価する。</td></tr>
<tr><td>３．論理的表現能力
問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。</td><td>【学修内容】
工学に関わる問題とその解決方法及び解決結果を，明確かつ論理的に表現するための力を養う。

【学修方法】
演習・実習等による教育の実施。学会等における研究成果発表の指導。博士論文の作成の指導。

【学修成果の評価方法】
レポートや演習・実習・学会等への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別演習は審査によって評価する。</td></tr>
<tr><td>４．自立的学習能力
未知の分野に対する興味を持ち，不足している知識があれば，自発的に修得する能力を有する。</td><td>【学修内容】
光システム工学特別演習，光システム工学特別研究において，未知の分野に対する興味を持ち，不足している知識を自発的に修得する能力を養う。

【学修方法】
主専攻及び他専攻教員による個別指導。

【学修成果の評価方法】
演習・研究への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別演習は審査によって評価する。</td></tr>
<tr><td>５．コミュニケーション及びリーダシップ能力
コミュニケーション及び役割分担を確立して，グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。</td><td>【学修内容】
ニュービジネス特論，ビジネスモデル特論，企業行政演習，光システム工学特別演習等において，コミュニケーション及び役割分担を確立し，グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を養う。

【学修方法】
講義・演習・実習等による教育の実施。研究室単位での少人数指導。

【学修成果の評価方法】
レポート等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別演習は審査によって評価する。</td></tr>
<tr><td>６．国際的なネットワーク構築及び情報発信能力
国内のみならず国際社会に対して，情報を発信したり，吸収したりする能力を有する。</td><td>【学修内容】
プレゼンテーション技法，光システム工学特別演習等において，国内外の社会に対する情報発信・吸収を行う力を養う学修を実施する。

【学修方法】
学会，学術論文等における研究成果発表の指導。

【学修成果の評価方法】
学会等への能動的参加状況等によって到達度を客観的に評価する。光システム工学特別演習は審査によって評価する。</td></tr>
</table>